

特 217

183

前橋之摺線

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



特 217
183



之
撚
絲

前橋撚絲同業組合編纂



老業立



國

正雄題



はしがき

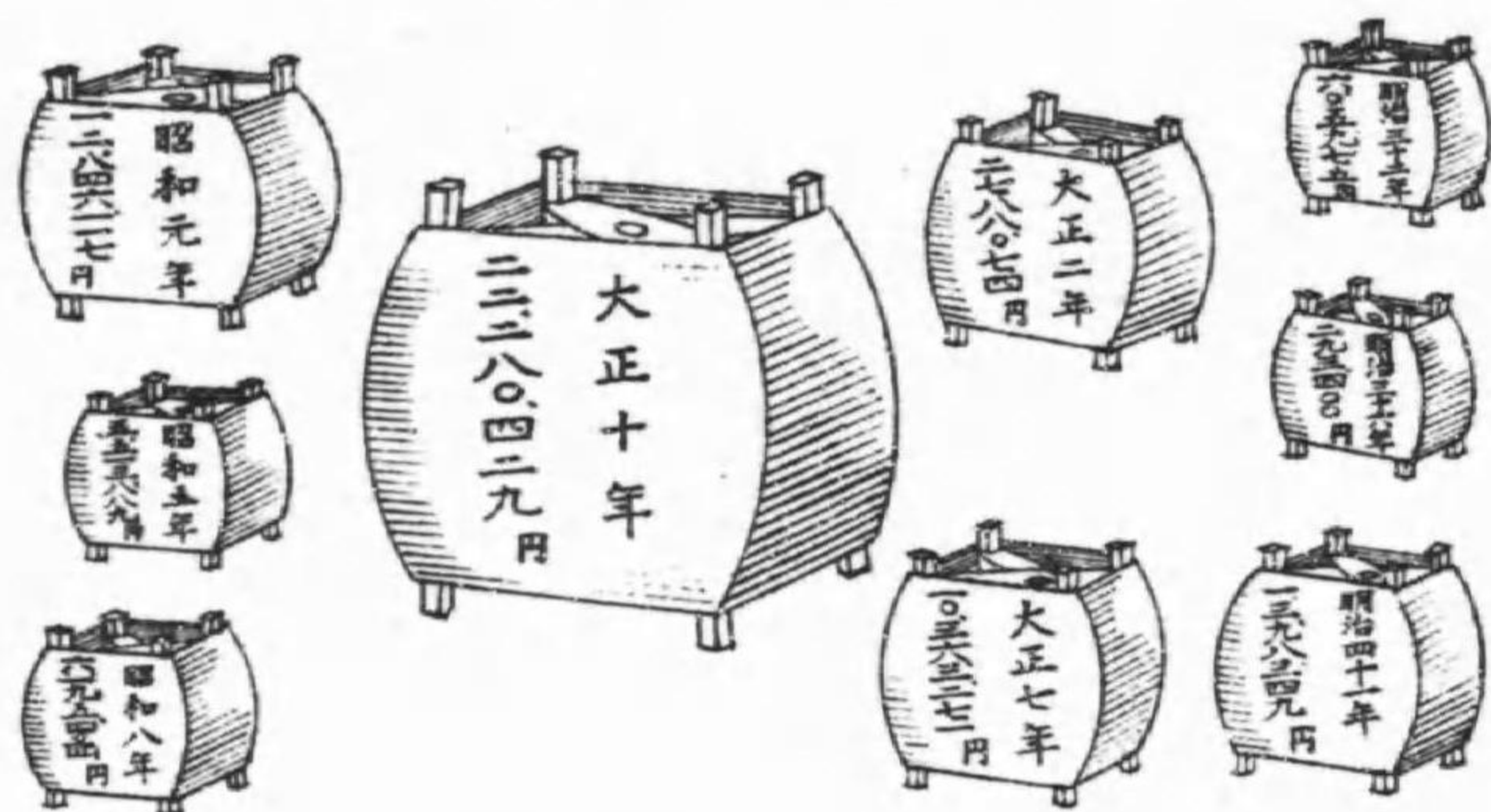
明治文化の盛時と、産業革命の進潮に倅して生れたる我前橋の燃絲業は既に天の時を得たり、加ふるに幾十條の水流屋前屋後を繞り、自ら機械動力の寄與を容易ならしめ、其座して桐生、足利の機業を擁し、伊勢崎の織機を握り、秩父、飯能の生産原料を制し、更に其の日本有数の蠶絲集散の市場として惠まれたる地位は、即ち是れ地の利に據れりと稱せざんば非ず、而して百尺竿頭、求むる所唯だ夫れ人の和乎。往年重要物産同業組合法の施行せらるゝや、同志同業決起團結して、前橋燃絲同業組合を創立し、戮力協心茲に三十有六年矣、恒に向上の一路を邁りて今時の隆運を作す、抑因つて來る所ある也。

「前橋の燃絲」は眇たる小冊子に過ぎずと雖も、我前橋燃絲業の現況を録し、過去を語り更に將來の暗示を求めんと欲す、而も匆忙筆を起し、急遽稿を次ぐ。缺くる所極めて多く固より備悉を稱す可からざるも、其輪廓を描きて、蓋し誤らざるを信ず。若夫れ其の全きを庶幾する所の如きは是を他日に期するとせん歟。

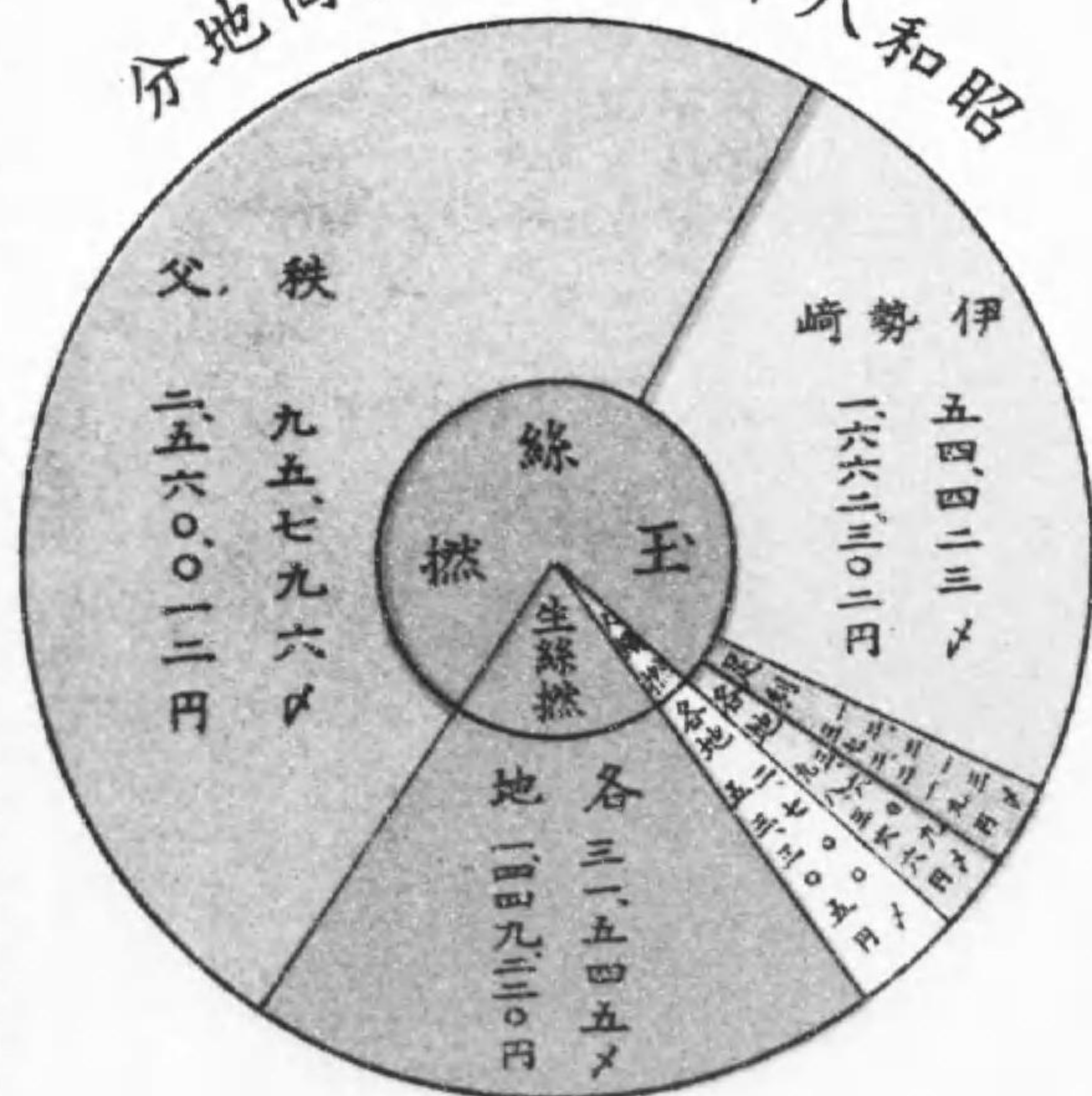
昭和九年九月九日

編者識

表較比額産絲撚



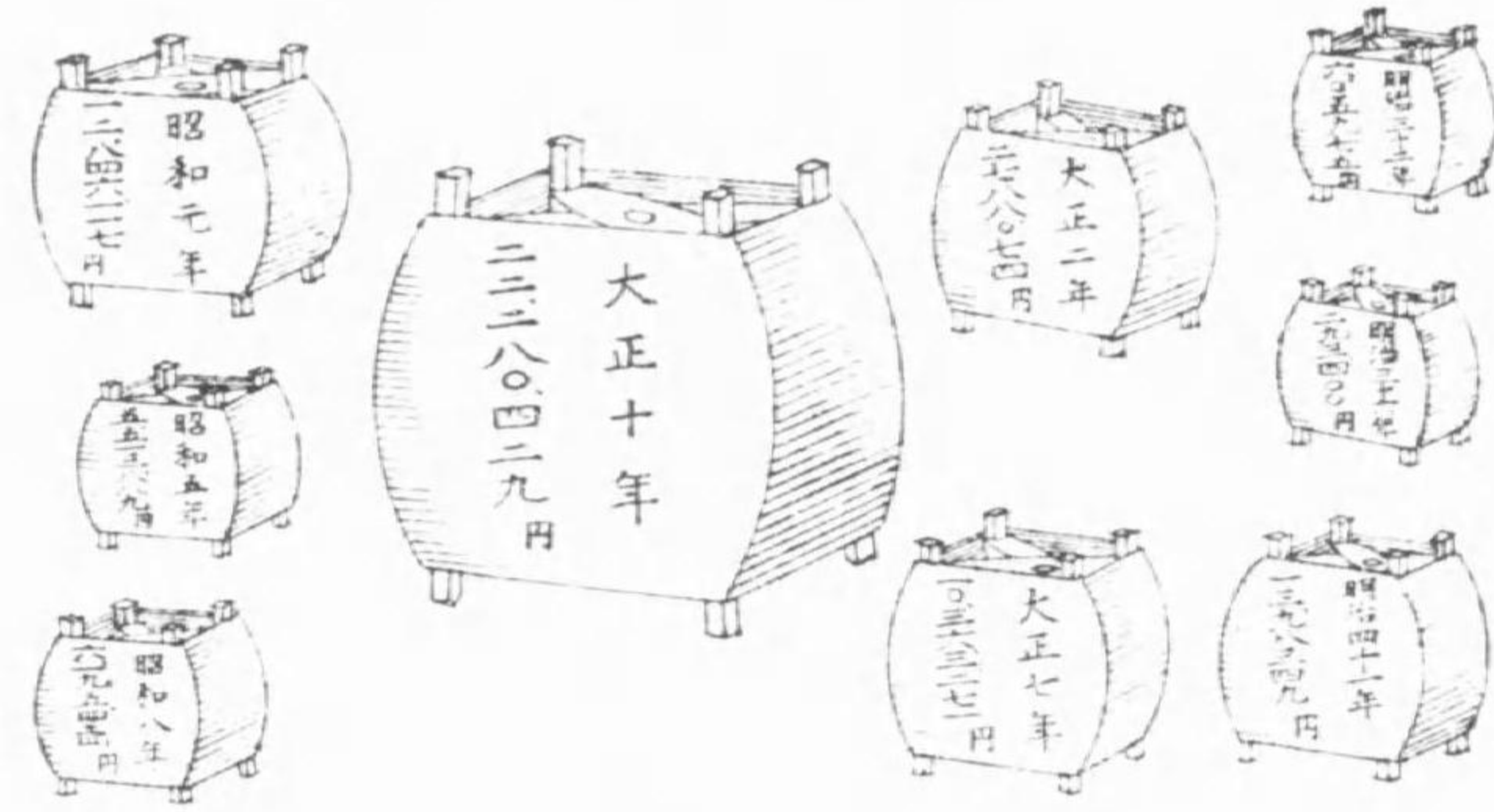
昭和八年度撚絲仕向地分



昭和八年度撚絲産額

数量 200,286 貫
 價格 695,424 圓

燃絲産額比較表



昭和八年度燃絲仕向地分



昭和八年度燃絲産額

数量 二〇〇、二八六貫
 價格 六一九、四二四圓

前橋撚絲同業組合

前橋之撚絲目次

撚絲の創始 一
 組合の設立 四
 機械と製品 五
 機械の變遷 五
 撚絲の原料 五
 製品の變遷 五
 製品出向地 五
 撚絲の取引 五
 組合の現況 一三
 組合の區域 一三
 錘數種類別 一三
 組合員數 一三
 使用動力別 一三

昭和九年度經費豫算 一八
 組合の役員及事務員 一八
 組合代議員 一八
 組合の團體 一八
 組合の施設 一九
 組合生産取引高 一九
 組合年譜 二〇
 組合の定款 二〇
 検査員服務規程 二〇
 検査員の資格選任解任 二〇
 及給與に關する規程 二〇
 組合獎勵規程 二一
 組合雇傭人表彰規程 二一
 雇傭人表彰規程施行手續 二一
 組合事業資金積立規程 二一
 一時給與金蓄積規程 二一

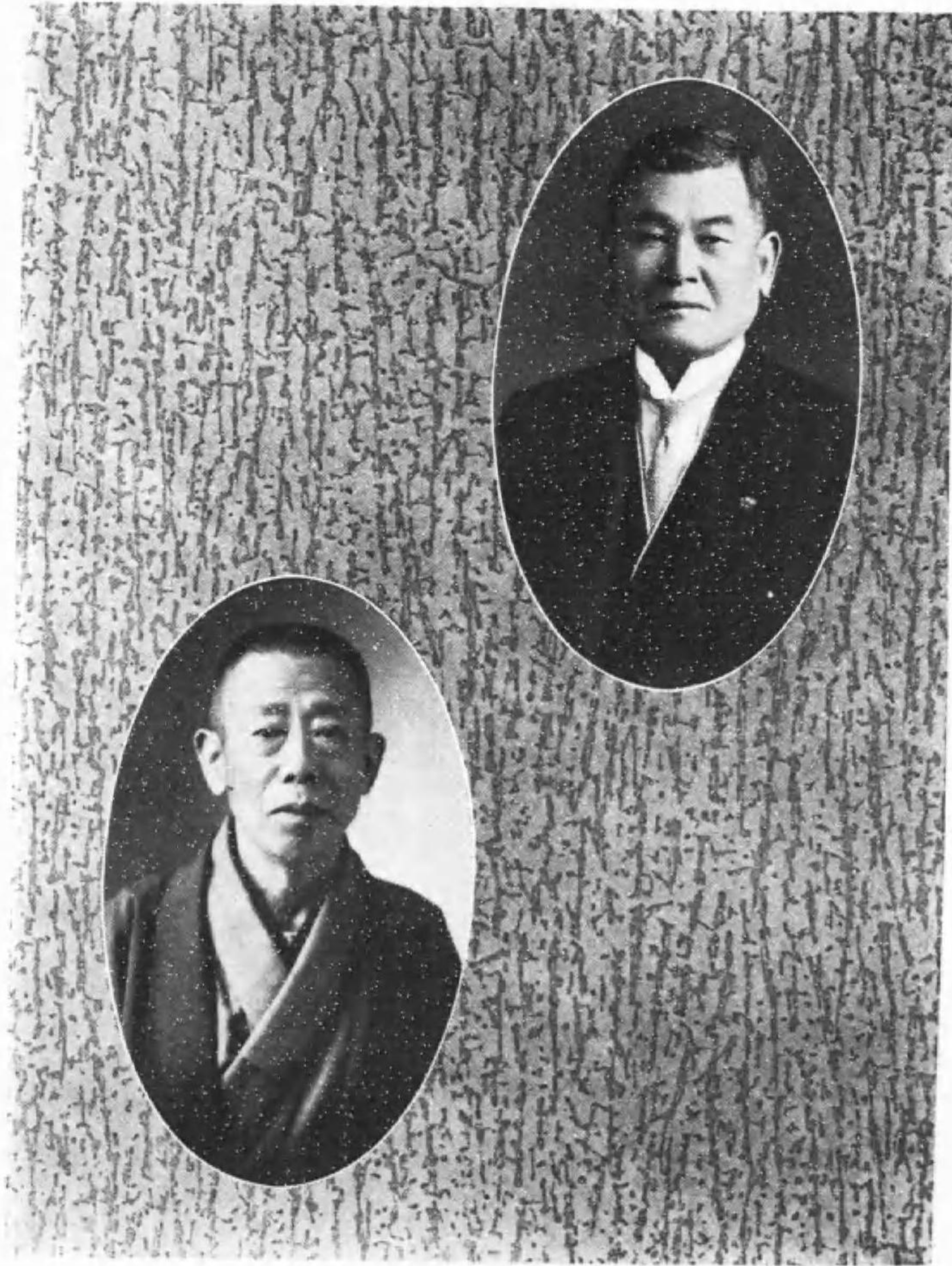
寫 眞

組長及副組長 二二
 歴代組長及相談役 二二
 評議員及會計主任 二二
 前橋撚絲同業組合事務所 二二
 同上荷扱所ノ一 二二
 同上荷扱所ノ二 二二
 群馬縣廳 二二
 群馬縣會議事堂 二二
 前橋市全景 二二
 立錘式撚機及八丁式撚機 二二
 撚絲ノ製品 二二

—【目次終】—

附 録

一時給與金給與規程 〇一九
 事業調査會規程 〇二〇
 前橋撚絲同業組合共同荷扱所規程 〇二〇
 同上施行細則 〇二一
 前橋撚絲同業組合組合員名簿 〇三三
 重要物産同業組合法 一
 同上施行規則 六
 撚絲取締規則 一五
 工業原料及製品ノ試験鑑定 二七
 及検査並圖案調製依頼手續 二七
 原動機取締規則 三〇
 工場取締規則 三三



組長 阿部善太郎氏

副組長 岩崎平太郎氏

組員營業課目

眞	釜	繭	蠶
綿	掛	賣	絲
製	玉	買	賣
造	絲	業	買
業	製		業
	造		
	業		

前橋繭絲同業組合

前橋市本町三十九番地

電話 〇五三番

長 組 代 歴

龜井勝次氏



杉本利三郎氏



竹内清次郎氏 (現相談役)



竹内勝藏氏



中原仙藏氏 (現相談役)



評 議 員

神成增造氏



松井道藏氏



會計主任 下田末吉氏



栢野豊作氏



後藤武雄氏



評 議 員

石井卯三郎氏



奈良金太郎氏



今村美之吉氏



高橋庄吉氏



岩崎徳太郎氏



評 議 員

金井常治氏



青木彌一氏



兵藤松太郎氏

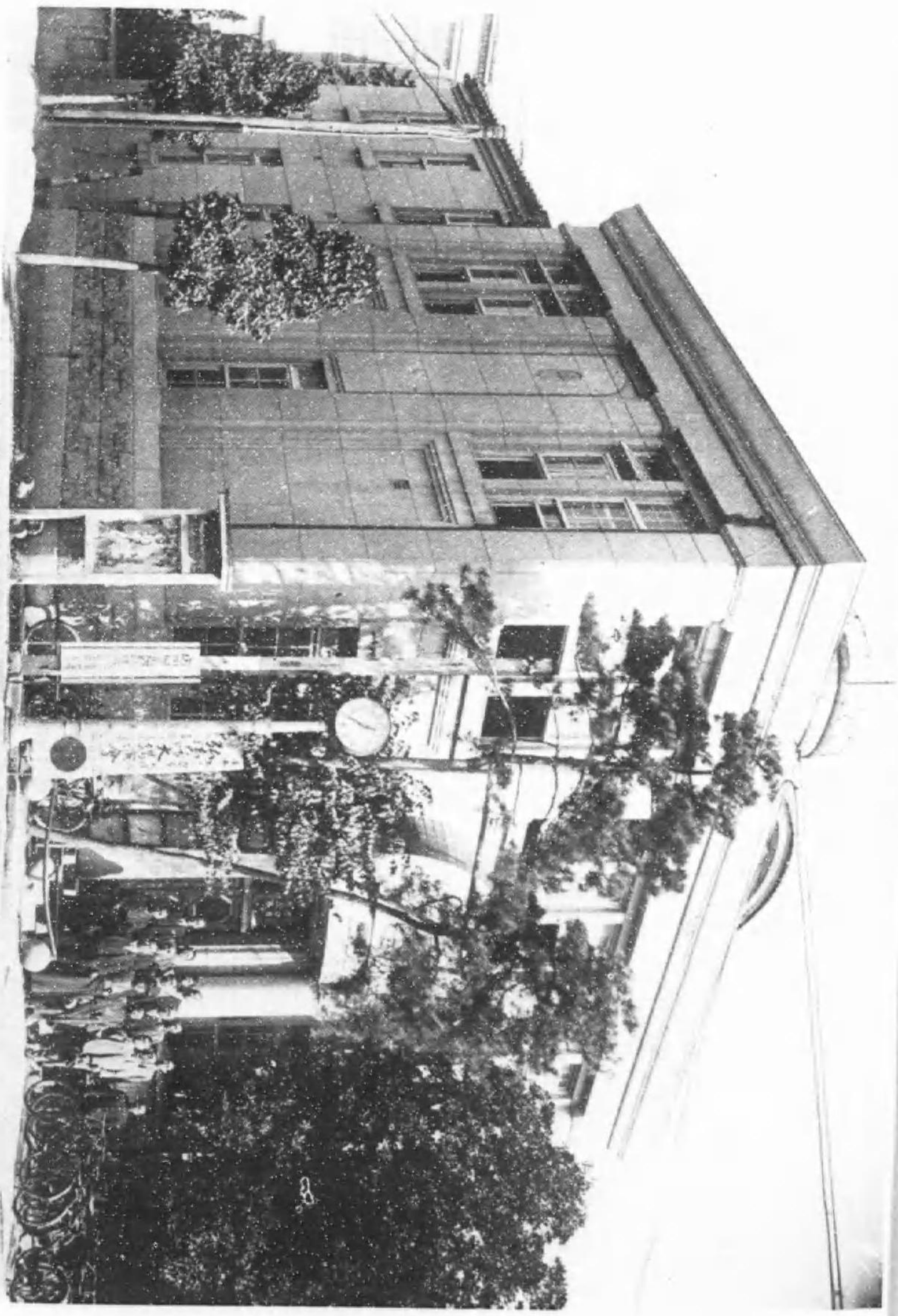


宮田信久氏

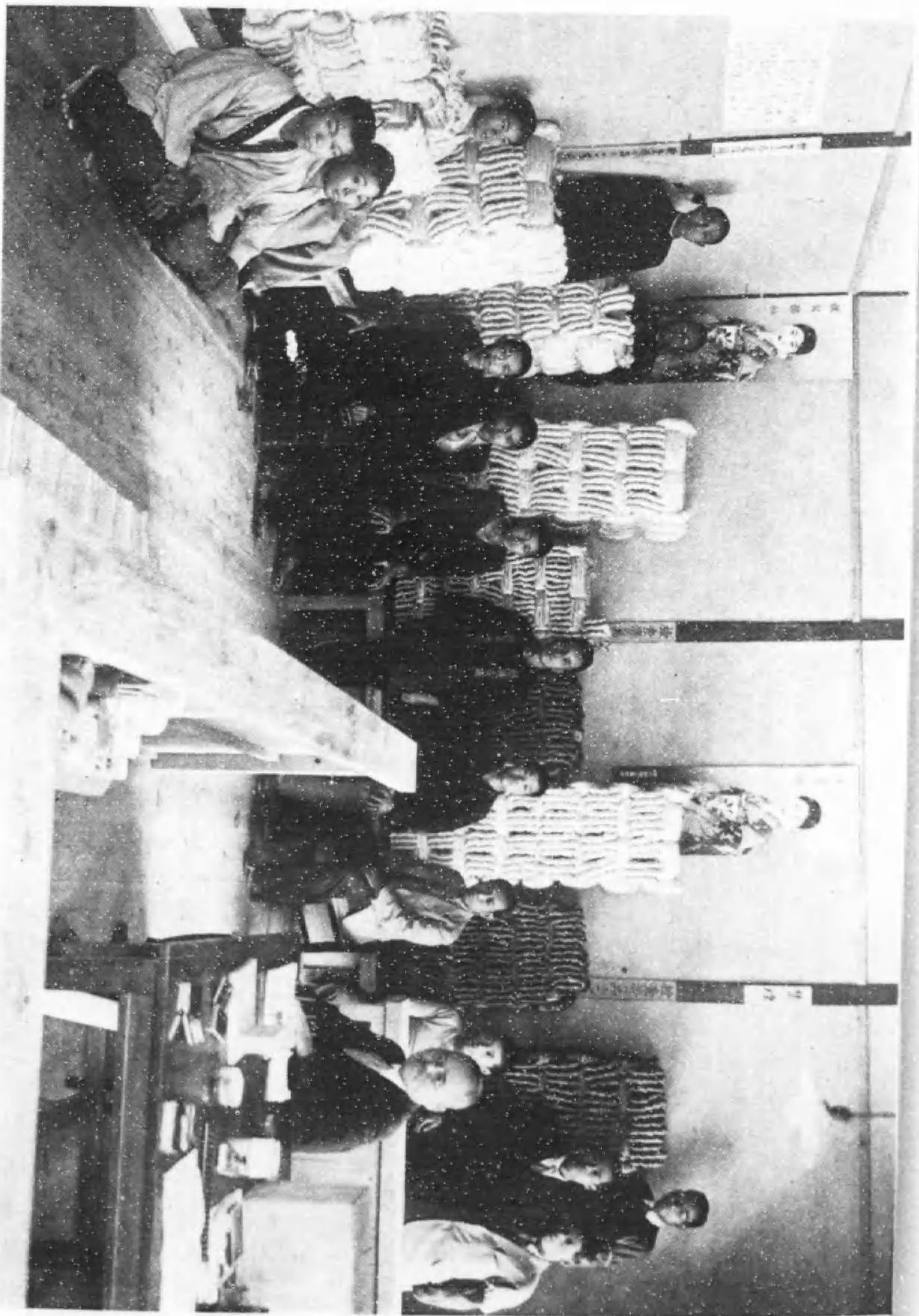


品川鼎氏

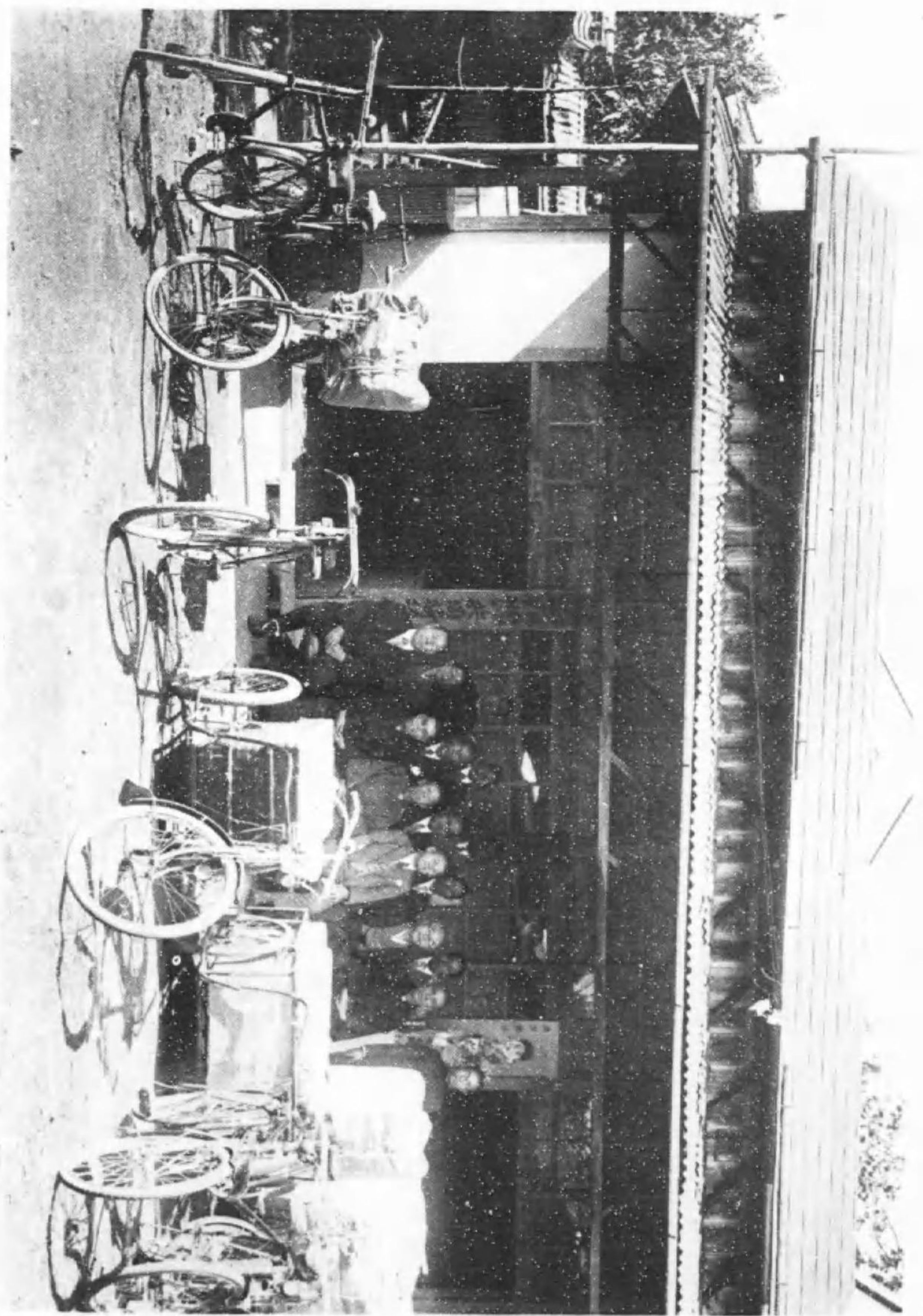




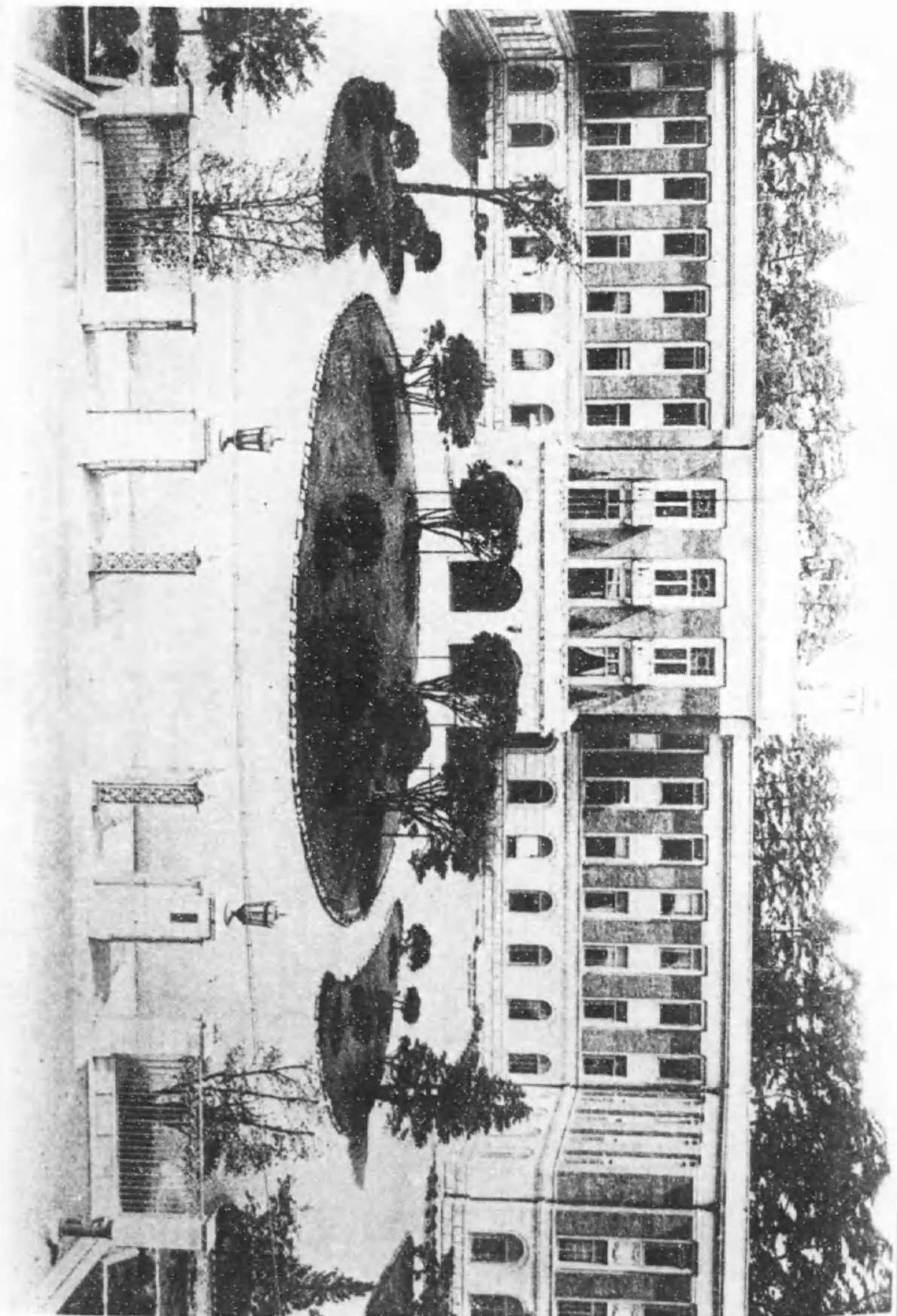
前橋絲襪業同業組合事務所



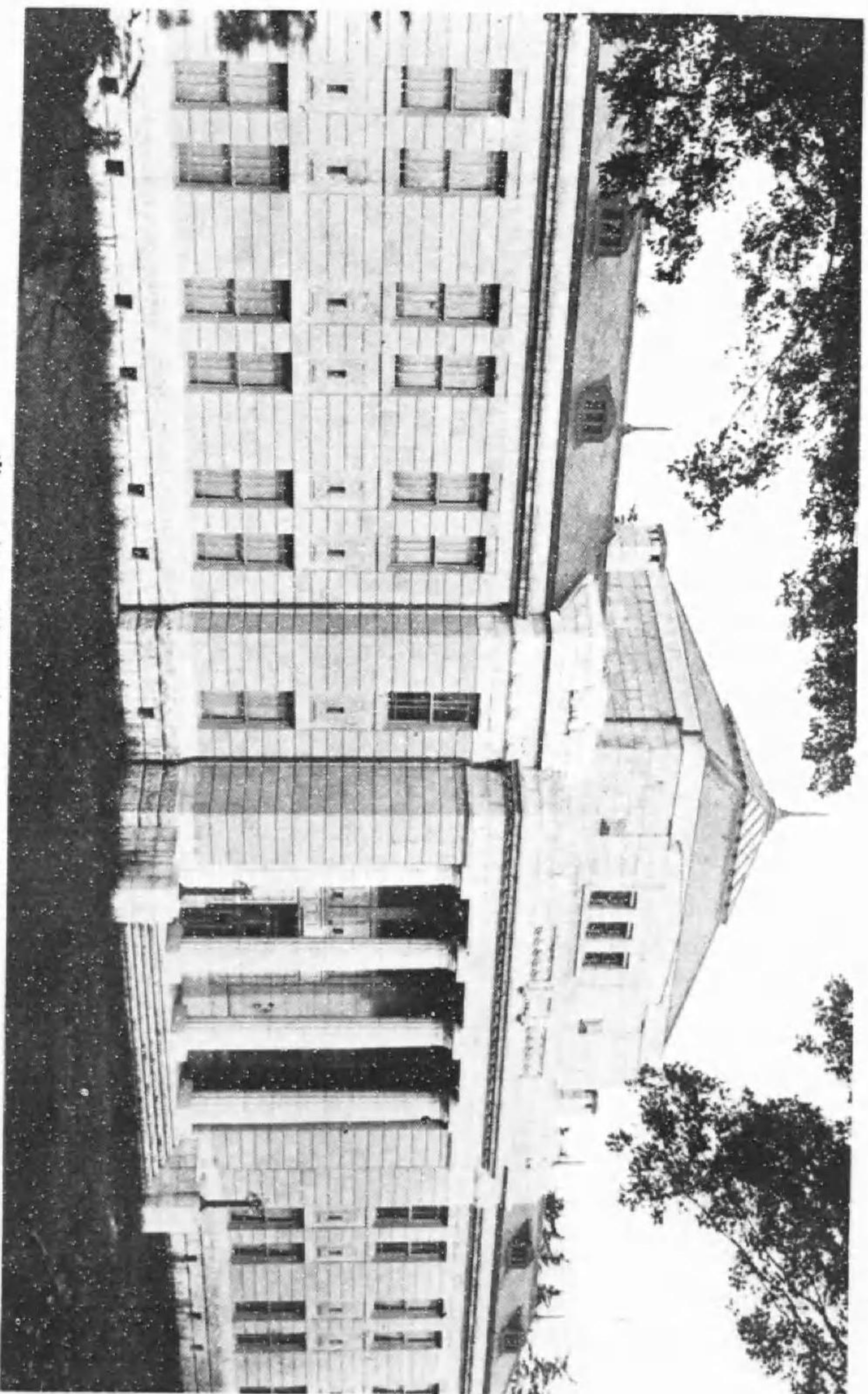
前橋燃絲同業組合共同出荷所



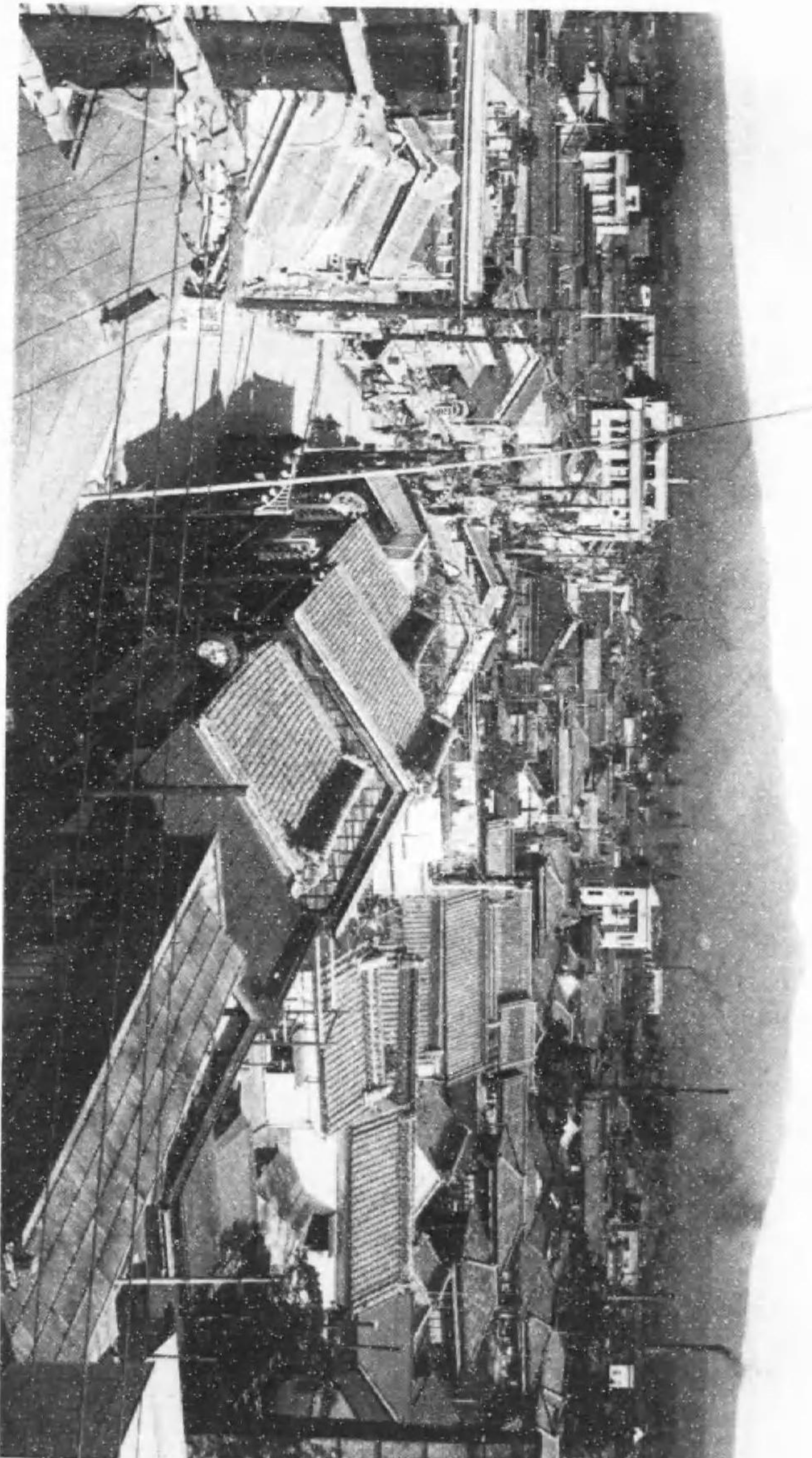
二ノ所荷出同共組業同絲撚橋前



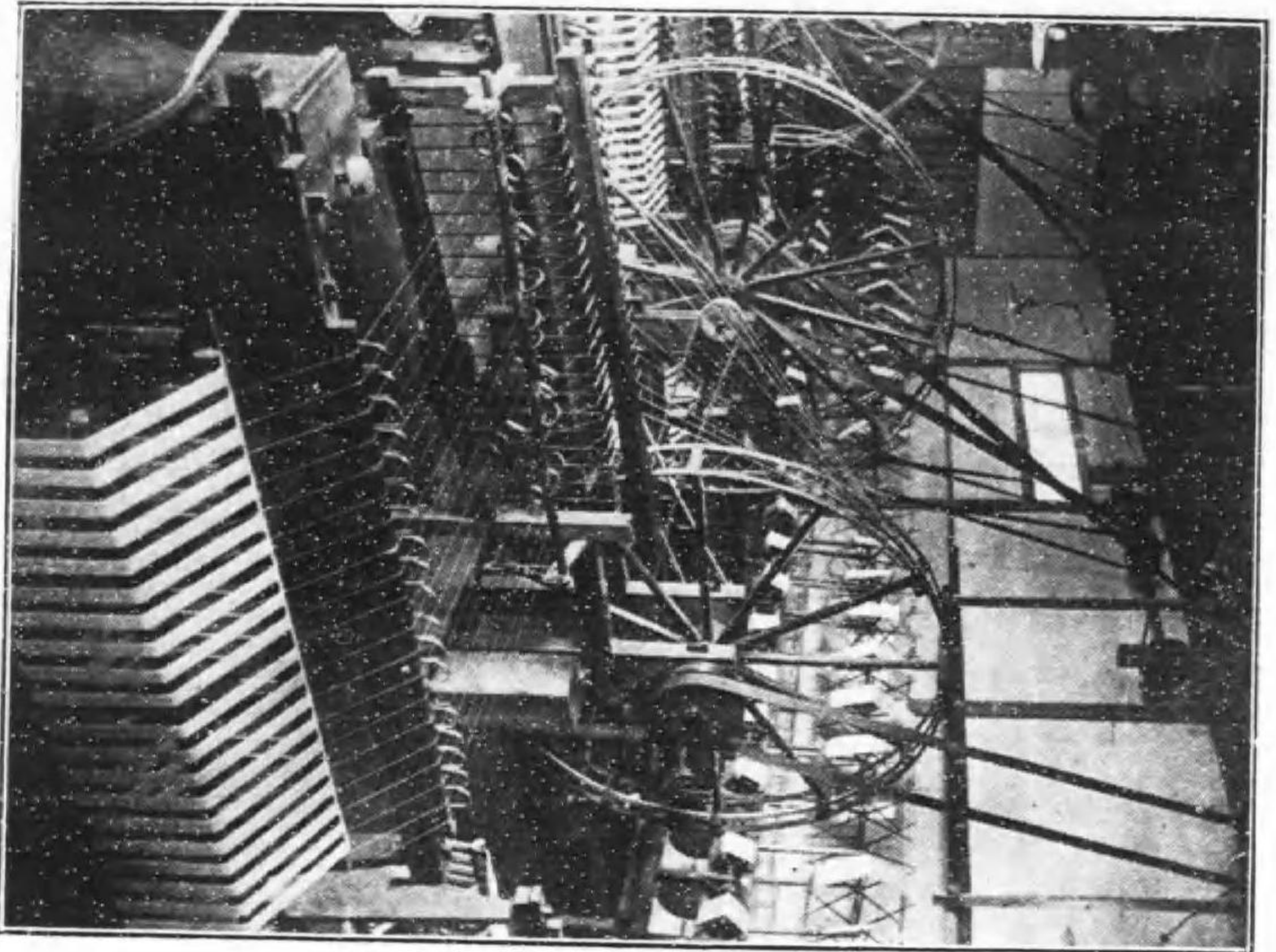
應 縣 馬 群



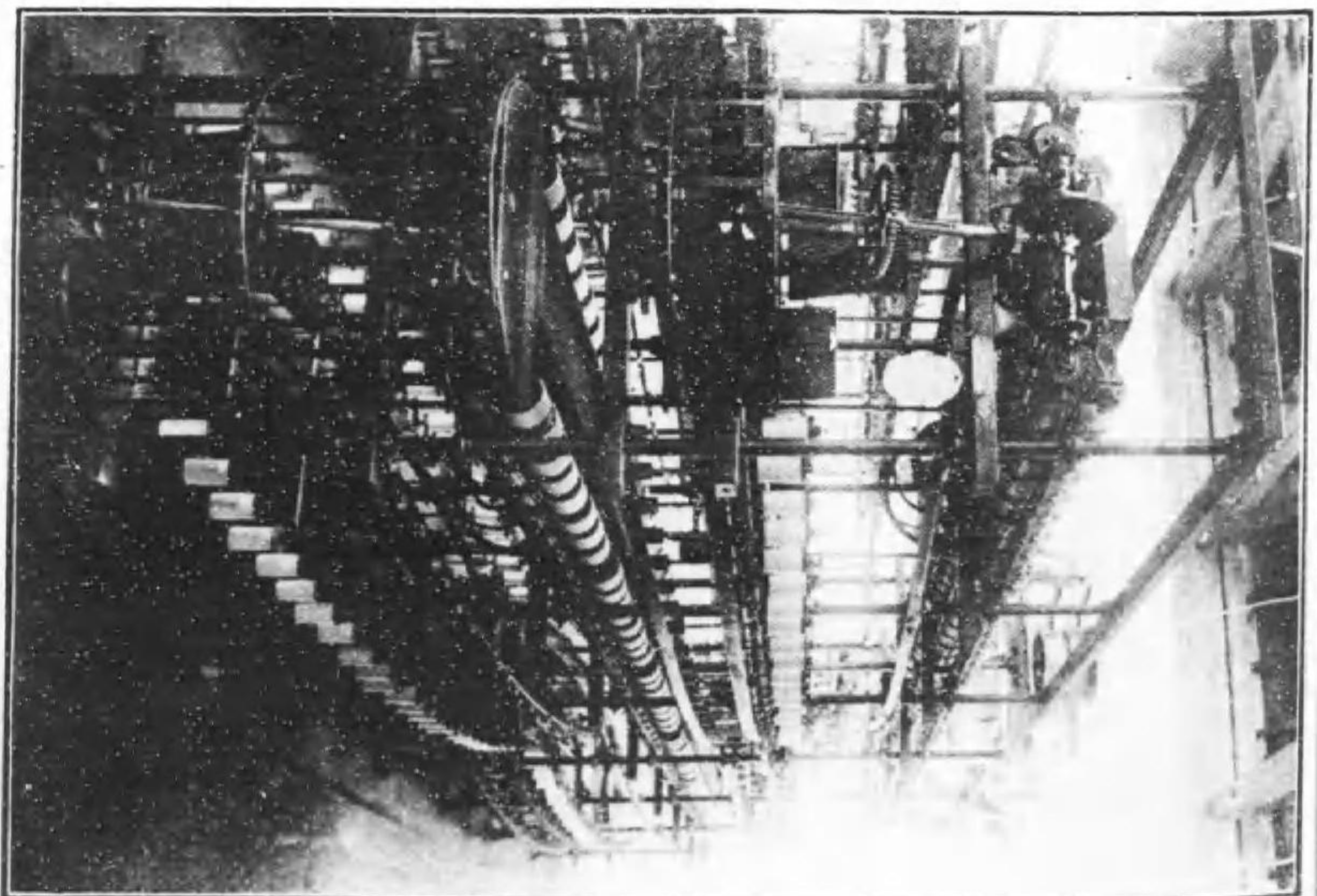
群馬縣會議事堂



前橋市全景



機絲撚式丁八

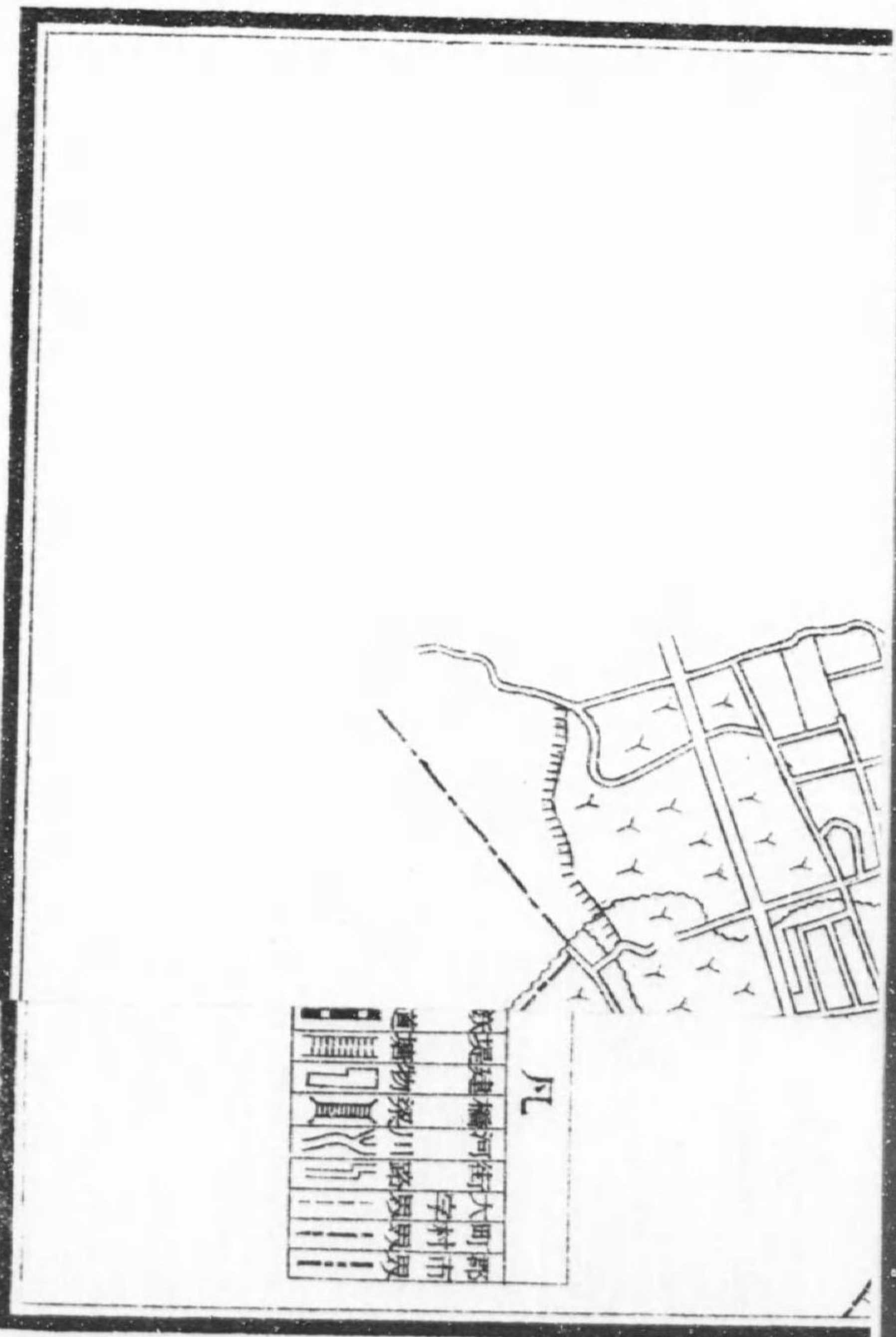


機絲撚式錘立

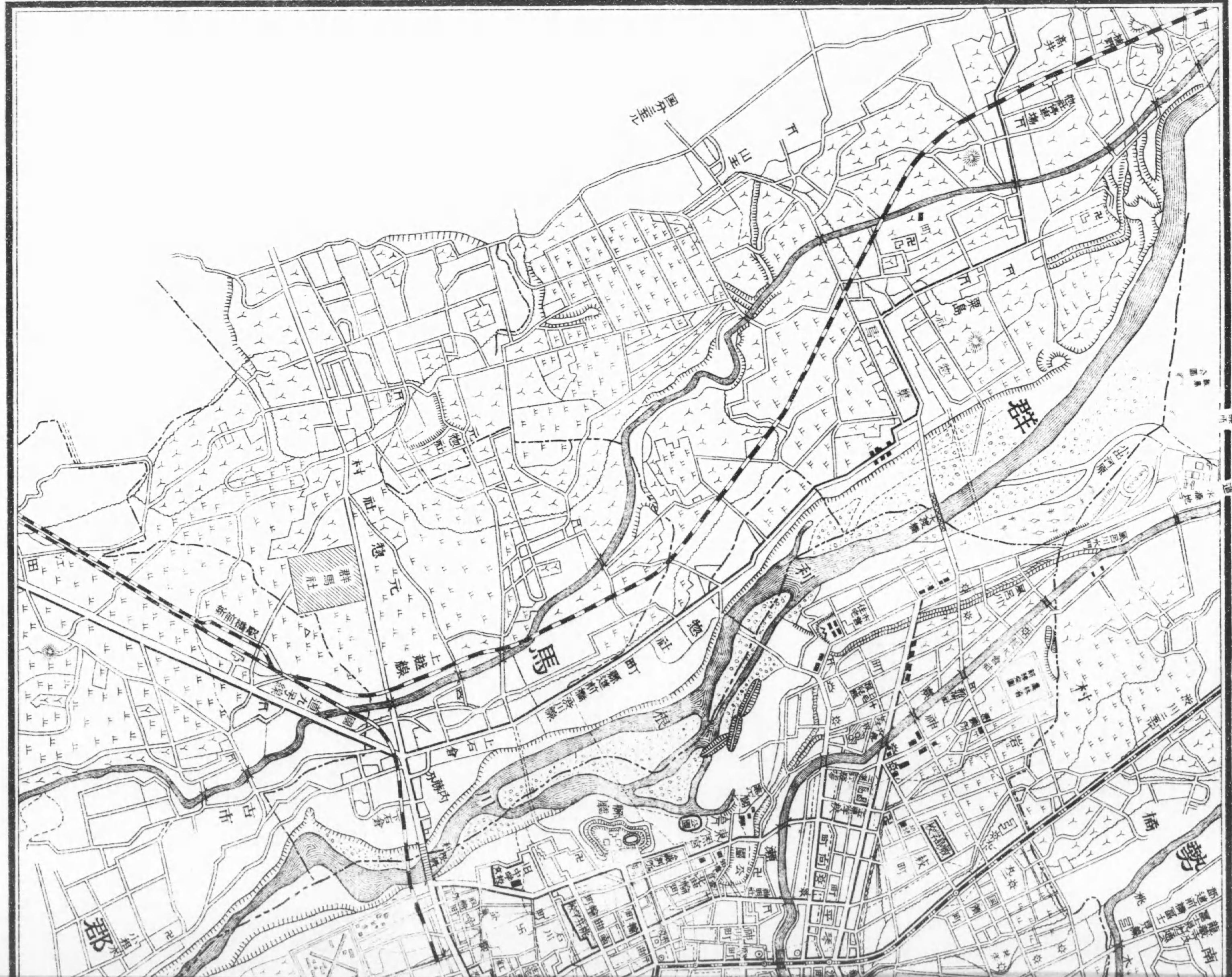
品產生員合組



品製の絲撚



凡
按圖建造欄河街大明都
字村市
遺蹟物架山路與界

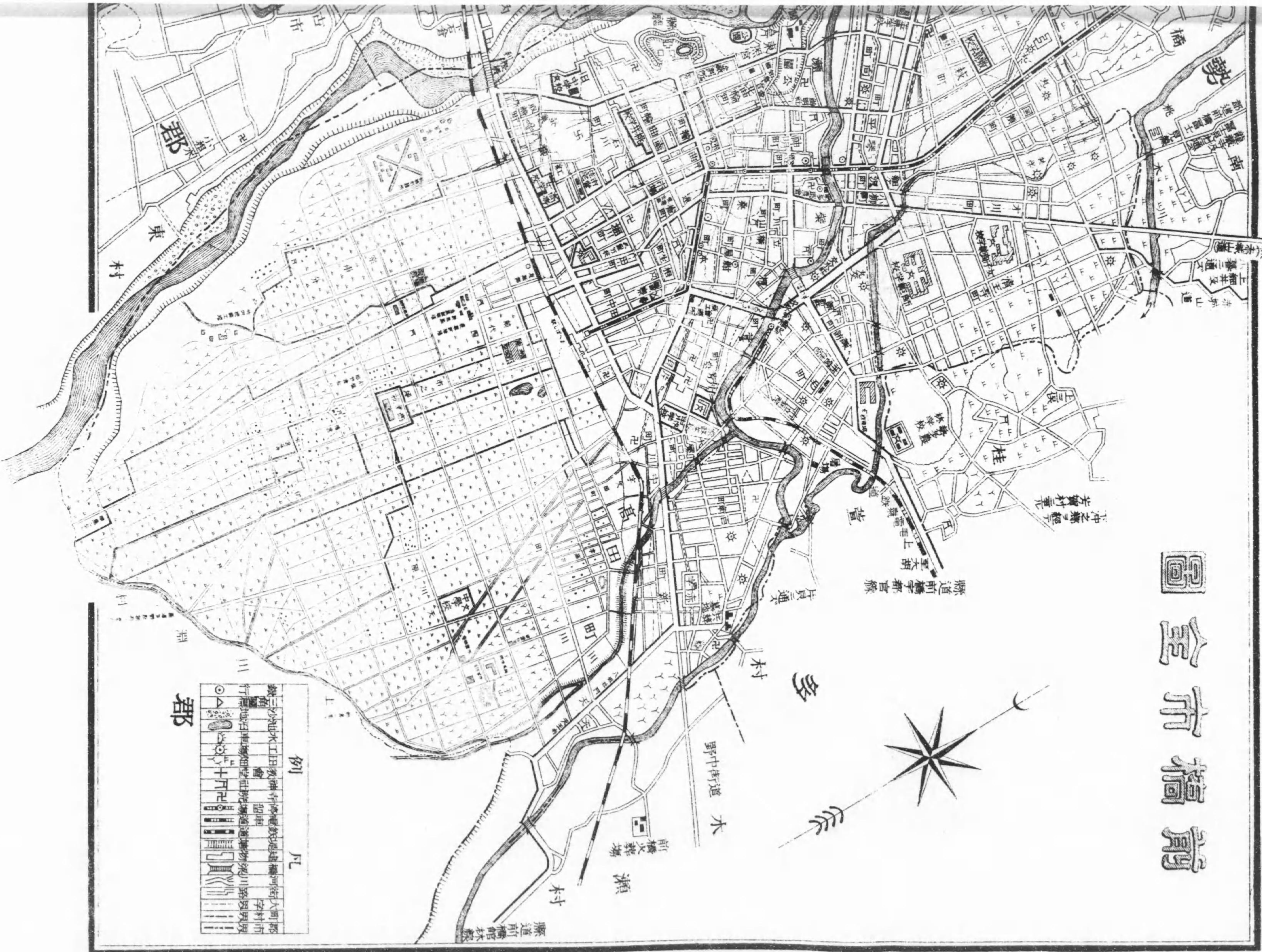


○ 宇都宮陸軍病院
新橋水道

水源地
新橋水道

南
勢
馬
郡

前橋市全市圖



例	凡
	市界
	縣界
	市街
	縣道
	鐵道
	橋
	河川
	山
	公共建築
	學校
	寺廟
	神社
	車站
	工場
	水塔
	水車
	電話局
	郵便局
	銀行
	公共會所
	墓地
	公園
	森林
	田
	道
	圍欄
	界標

郡

利根川

高田

多木

前橋

市

郡

利根川

高田

多木

前橋

市

郡

利根川

高田

多木

前橋

市

郡

利根川

高田

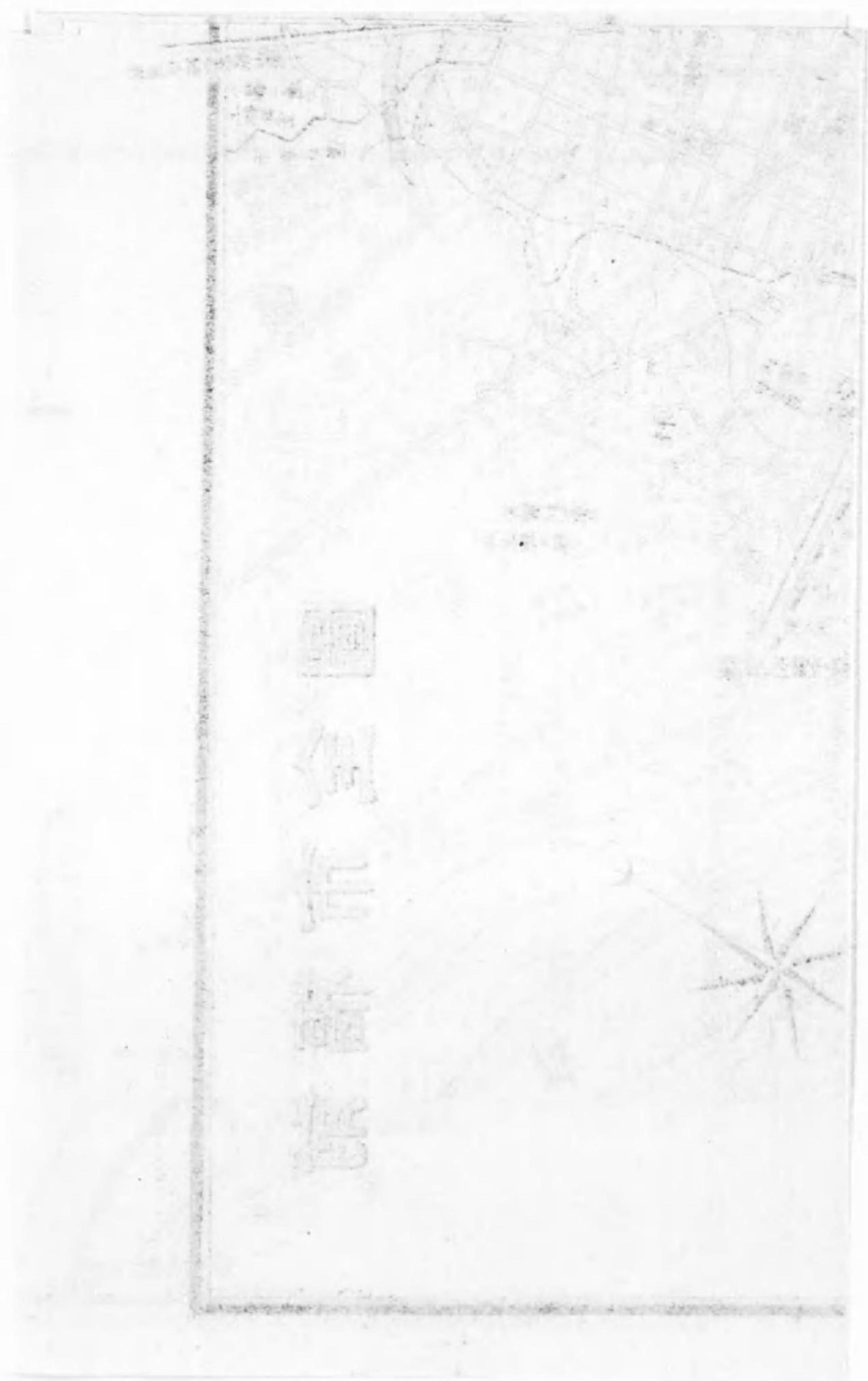
多木

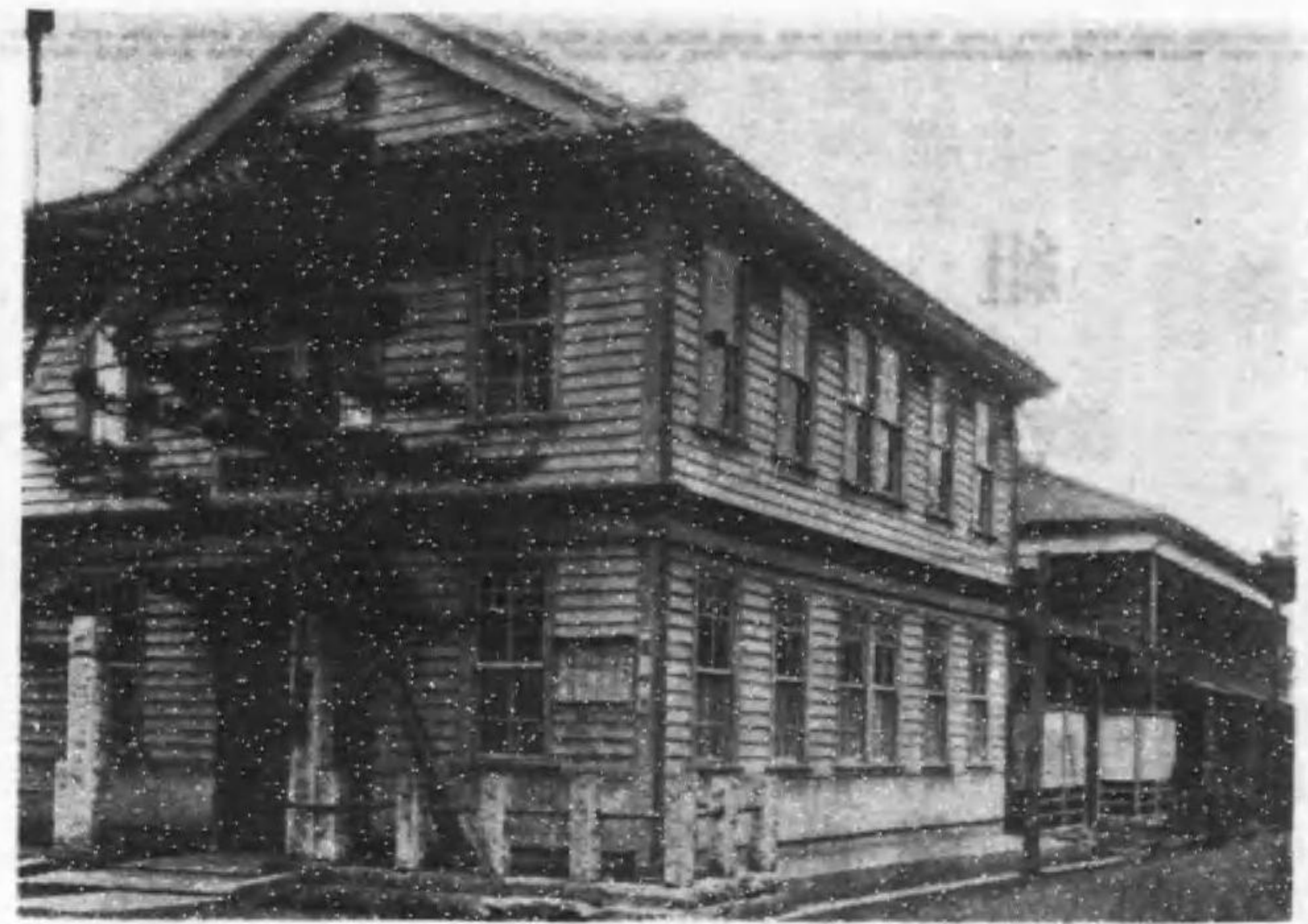
前橋

市

群馬縣製絲業組合前橋支部
前橋製絲同業組合

前橋市本町三九
電話六七六番





組 合 全 景

群馬縣玉絲製造同業組合

組合員營業種目

檢 查 格 付 各 種 玉 絲

前橋市萱町三〇

(電話六七七番)

前橋商工會議所

會 頭	勝山益太郎	常 議 員	田村作太郎
副會頭	鈴木愛三	同	八木原良作
常 議 員	佐藤榮太郎	同	大林峯太郎
同	阿部善太郎	同	森村堯太
同	奈良金太郎	理 事	加部恒夫

群馬縣蠶絲同業組合聯合會

前橋市本町三十九番地

電話 五〇三番

聯合	
前橋繭絲同業組合	碓氷繭絲同業組合
高崎繭絲同業組合	吾妻繭絲同業組合
群馬繭絲同業組合	利根繭絲同業組合
澁川繭絲同業組合	佐波繭絲同業組合
多野繭絲同業組合	新田繭絲同業組合
北甘樂繭絲同業組合	大間々繭絲同業組合
	邑樂繭絲同業組合

前橋之撚絲

撚絲の創始

赤嶽の雄大、榛峰の秀麗、突兀崢嶸なる妙義の三山鼎峙し、其間坂東太郎の巨流長蛇の勢を以て奔流す。由來上毛の地蠶絲機械の國として、其名古史に顯はる。往昔物々交換の時代、夫は耕し婦は織り、調貢は禾布帛役を以てす。星霜幾變遷機械は營業的となり、各地に機杼の音を聞くに至る。我前橋は國の中央に位し、利根の大河を擁し、地勢水利の便を得、殊に蠶絲集散の一大市場とし、繰絲機械の勃興と共に需要は自然我前橋撚絲に加工の業を創始せしむるに至る、亦故無きにあらざるべし。

撚絲の開祖 最も古きは知るに由なきも、嘉永安政以後明治の初年に至るまで、今の横山町に萬屋源八なる絲類商ありて、八丁車を建て、絹絲製造の業に従ひたるを我前橋撚絲の開祖なりと稱せらる。其後明治三年勝山源三郎は撚絲器械三臺を製作し翌年之を越後屋龍造、木屋平助の兩人に譲り渡して事業を開始せしめたるが、當時地方民力の疲弊著るしきを憂ひ、殖産興業の資を供すべく源三郎が此舉に出でたるものなりと云ふ、時恰も廢藩置縣に際し前橋舊藩主（松平直方侯）亦茲に授産の策を講ずべ

二
く撚絲業に注目するに至れるも未だ其方法明かならず、深澤雄象、速水堅曹等が已に大渡親民に於て洋式器械製絲所を經營せる時、安井與左衛門は野州より斯業の師として長山多平を迎へて撚絲業を創めたるが、爾來之に學ぶ者多く次いで深澤雄象、速水堅曹、星野長太郎其他共同して三河河岸（今の一毛町佐賀山鎌太郎附近）に撚絲工場を新設し海外輸出の目的を以て之を經營せり。同五年長尾端人、鳥海彌、内海太門太山室喜四郎相次いで業を興し何れも長山多平の教授を受く、當時の撚絲は生絲、中絲延絲及粗製の玉絲を原料とし二本撚三千回（撚棒の周圍曲尺三尺六寸五分）を普通品とし、之を桐生、足利に仕向けたるが其製造は主とし舊藩士の手に成れるを以て俗に貫屬撚と稱せり。

・發達の經路 爾後逐年發達の經路を辿り來りたるが、偶々明治二十四年八王子機業地が祝融氏の見舞ふ所となりて一時破壊の運命に遭遇するや、近接各機業地は非常の影響を蒙れるが、中にも伊勢崎織物は之を動機として大躍進の機を捉へ、從來伊勢崎太織縞の單調なるに囚はれたる舊設を脱して、絲好物、縮緬地風、風通織等の高級品に手を染めたる結果、撚絲の急激なる優良品を要望するに至り、之が唯一の供給地なる我前橋撚絲は之を動機として一進境を劃したり。偶々日清戰役後の財界の好況時代に遭遇して一般事業界の面目一新せらるゝや、撚絲事業の經營にも革新を促して漸次

工場の擴張増設を見、經營合理化の端を啓くに至れり。當時桐生、足利等の隣接機業地は輸向高配甲斐絹の全盛時代にして之が原料たる經緯絲（生絲二本撚）の供給を我前橋撚絲に仰ぐもの急増し、亦内地向品、伊勢崎向も生産額の激増と共に撚絲の需要愈々旺盛を極むると共に新に秩父方面に於ても撚絲の需要勃興し、次いで足利内地向絹綿交織は玉絲經絲撚の新規需要を喚起し更に飯能、八王子、青梅、所澤等の需要年を逐ふて盛旺となり輓近靜岡、新潟、結城、館林等の新興機業地の需要開拓を見るに至り、我前橋撚絲の一大飛躍をなすべき好機は相踵て到來し、其販路の益々擴大せらるゝと共に亦生産組織の上に從來の家内工業の域を脱し整然たる近代工業組織に向いて進展せられ、更に往年發布を見たる撚絲取締規則の施行と相俟ちて製品の改善又顯著にして、斯業の前途洋々たる概あり。

撚絲の前橋 以上の經路を以て我前橋撚絲業は七十年来始終向上の一路を辿り來れるが、其變遷の跡を尋ねて時に波瀾起伏の試練に耐えて器機は八丁式より洋式に、後又和洋を折衷し、木鐵を混配して粗より精に進み、製品は生絲玉絲等の單調より人絹絹紡、麻紡よりあらゆる新纖維の吸収に勞し、製品の改善新考案の普及と相俟ちて販路亦隣接機業地の伊勢崎、桐生、館林、足利の需要を擁し、秩父、飯能の供給權を握り、進みて北越地方に及ぶ。加ふるに近時大製絲業者の撚絲兼營の機運を促したる時

代の趨勢は期せずして「大撚絲の前橋」を現出せしむるに到るも空想に非ざるべし。

四

組合の設立

明治十六七年の頃山岸芳造、吉野峰三郎其他六七の同業者結社して水神講と稱したるが本組合の起因なり。當時毎年一回講中の會合を催して相互に意志の疏通を圖り、斯業の改良を期する所あり、年を追ふて加入者を増し、同二十七年に至りては會員五十名内外に達したると同時に其生産額頓に増加したるのみならず、販路亦各方面に擴張せられたる結果漸く粗製濫造の弊に陥るの虞あるを以て之が矯正を企圖すべく、同二十八年十月商工業者九十五名協同し其組織を改め前橋撚絲商工業組合を設立せり。

初代の組長 是に於て竹内勝藏を組長に、杉本利三郎を副組長とし、龜井勝次、横田新一郎、後藤賢太郎、松尾直太郎、杉原甲子、を理事に選舉して新に組織を了したり。同三十年四月龜井勝次組長に、横田新一郎副組長に、杉本利三郎、松尾直太郎、渥美米次郎、後藤賢太郎、山岸芳造、小島三郎右衛門、森本鶴造、和田良吉、上羽金次郎等評議員に就任す。同三十二年重要物産同業組合法に則り、組織を變更し、時の

農商務大臣子爵曾根荒助の認可を得て定款の規定に隨ひ嚴重なる取締を勵行し斯業の發達向上の基礎を確立し、組長に杉本利三郎、副組長に龜井勝次就任せり。次いで同三十四年組長に龜井勝次、副組長に杉本利三郎更任せり。同三十五年より大正四年一月に至る期間、竹内勝藏組長として重任し杉本利三郎、龜井勝次各交互に副組長に就任し、大正四年二月龜井勝次組長となり、杉本利三郎副組長に就任す。同六年三月杉本利三郎組長に、中原仙藏副組長に就任す。同八年三月中原仙藏組長に、阿部善太郎副組長に就任し、同十年三月竹内清次郎組長に、阿部善太郎副組長に就任し、重任昭和三年に至る。同三年三月阿部善太郎組長に、金谷太一郎副組長に就任し、同六年三月阿部善太郎組長に重任し、櫻井豊吉副組長に就任す。同九年三月阿部善太郎組長に累任し田尻英吉副組長となる。六月岩崎平太郎、田尻英吉の後を襲ふて副組長に就任して現時に至る。

機械と原料並に製品

機械の變遷 其の創始の時代にありては、主として木製八丁式を用ひたるも、明治

二十三年の頃、伊勢崎町下城彌一郎が、勢多郡富士見村原之郷に於て洋式立錘器械を經營し、次いで三十五年、奥平金三郎、竹内合名會社等共同して才川町佐久間川畔に洋式立錘工場を建設したる等、漸く新式器械設備の機運を迎へたり。四十三年には坂上毎三郎が木鐵混合の立錘式燃機（三百二十錘）を考案して一新機軸を出だし、亦八丁式燃機も多種多様の改良を加へたり。偶々水力電氣事業の勃興と共に原動力に革新の機運を促し大正元年には竹内合名會社が（後竹内燃織株式會社となる）六供に（五千錘）杉本利三郎は（一千錘）共に最新式伊太利式立錘燃機を据付け、双燃加工の上、又新機軸を出だし逐年増錘擴張を計畫して現在の盛況を見るに至ると共に、近時絹毛交燃、人絹應用の變態燃絲需要の激増に促進せられ、強燃機の増設愈々旺盛を極め、昭和九年九月末に於ける本組合所屬組合員經營に係る設備伊太利式燃機二萬三千錘、木製八丁式燃機一萬八千錘、洋式模造並に特種強燃機一萬一千錘等實に五萬二千錘を算するに至れり。

燃絲の原料 我前橋燃絲の生産額は大正十年度に於て四十萬貫、價格貳千五百萬圓を最高記録として、爾來漸減の經路を辿りたるも漸く復活の曙光を見るに至り、昨昭和八年度生産額二十萬貫、價格六百貳拾萬圓を算へ、其内玉絲燃四百七拾萬圓を占め玉絲燃原料は本縣玉絲同業組合員の生産に係るもの、外、豊橋、濱松等より移入せら

れ、生絲燃原料は本縣内のもの大部を占め、其他横濱、福島、信州方面多し、尙人造絹絲、羊毛絲等は縣外より供給せらる。

製品の遷變 由來燃絲は機織業の附隨事業工程たる觀を呈し、機業組織の變更、流行の推移に依りて燃絲製品の上に幾多の變遷を齎すと共に、燃絲の組織に依りて織物組織の上に新機軸を案出する場合亦少からず、我前橋燃絲創始以來製品變遷の跡を温ね、推移の狀を究むるも亦興味渺なからざるべし。今茲に其變遷の經路を創始以來六期に分ちて略述すべし。

即ち第一期は創始以來日清戰爭前を以て搖籃の期となし、主なる仕向け地は伊勢崎にして、同地織物も未だ伊勢崎太織の單調なる縞物時代なりしを以て、我燃絲之に伴ひて生絲燃二本合せ、三本合せを經絲とし、柄絲には三本又は四本燃を使用し、玉燃絲三本、四本合せを緯絲として、經絲は組合所定の燃梓（周圍三尺六寸五分）千八百回とし緯絲は千回、又は千五百回を便したり。

第二期は日清戰爭後より日露戰爭開始前を以て劃したり。仕向地は漸く他方面に擴大せられ、伊勢崎向は地絲として二本燃、三本燃、縞絲として三本又は四本燃生絲の需要多く、外に緋織地の創始に玉絲一本燃を使用したり。這は製法挽燃と稱する製品にして、從來の燃絲法に一新考案を出したり。桐生は輸出向高配甲斐絹の全盛時代に

して、經緯絲共需要多く、亦同一種類製品の加賀方面に勃興するありて、仕向地を新に發見せられたり。足利向は高配甲斐絹用の外に、生絲撚二本合せ四千回物、玉絲二本合せ三千回物の需要激増し、我が前橋玉撚絲の足利市場に渴望せられたる時代に於て、之れ足利特色の絹綿交織に於て全國機織地を風靡せる時代なり。當時秩父向には足利向に追隨して漸く我前橋撚絲の眞價を認識したる試験時代より覺醒し同地商估の來市頻繁を極め、三好屋商店、新井武兵衛、荒船、町田、大澤、久喜等の巨商の手に依りて配給せられ、玉撚絲三本千五百回規格を以て供給せり。

第三期は日露戰役後世界大戰爭開始までにして、秩父向の益々需要を増進したる時代なり。即ち從來の立絲用玉絲撚の外に、横絲に撚絲の使用を試みて成功し、玉絲三本、四本合せの撚絲の使用激増したると共に亦秩父銘仙の聲價發揚の端緒を開きたる劃期時代なりしと共に足利向は新たに絹綿交織御召織に於て特技の妙を揮ひ、生絲二本撚四千回、玉絲二本撚四千回等の製品規格を以て仕向けられ新たに桐生及足利に双撚品の需要勃然として起り、撚絲界に一新機を現出せり。此間伊勢崎織物は他産地に比して遜色あり、其の技巧の精を誇りたる製品は實質向として完備を許さず、秩父風の重目物に轉ぜんか、更に新規の創始を試みんかの苦心の跡は歴然として撚絲需給の上には現はれ、其需要額頓に減退し、久しく同地向專業の商估商工の漸次秩父向又は足利

向に轉向するに至り當業者の最も苦心試練の時代なりき。

第四期は世界大戰開始直後より其の終熄に至る所謂我前橋撚絲の黄金時代なり。當時既に試練の域を脱したる撚絲使用の秩父向は産額日に加はり、月に増して秩父向専門家のみを以て百戸を駕するの盛況を現出し織風更に一段の向上を示し殊に拔染模様織の隆盛に伴ひ撚絲製品の向上眼を聳たしむるに至る。足利向も節絲織物の全盛を誇ると共に、需要者益々加はり、終に從來未驗の先約取引の新慣例を開くに至り、其需要高潮に達する盛觀を呈したり。此間他の仕向地に比して氣迷の裡にありし伊勢崎向も絢織に、節絲織に、絲好織に獨特の妙技を揮ひ、猛然として撚絲の供給を我前橋撚絲に需め、折柄戰亂中の好影響を享けて數年來の冬眠期を脱し、其他桐生、八王子、所澤、飯能等の關東機業地を始めとして北陸、米澤、京都方面に販路の擴大を見、大正八年度生産大三十二萬貫、金額貳千五百萬圓を算する新記録を作りつゝ、五期に推移せり。

第五期は歐洲大戰亂終熄の期末より大正末葉直前に至る期間にして我前橋撚絲業界に於て最も波瀾多く亦興味深き時代なりとす。新需要地の開拓と販路の擴大に依りて急速に發達を示したる斯界に、漸く粗製濫造の弊害萌芽を見るに至りたれば、之が改善に邁進すべく全國に未だ例規なき撚絲取締規則は縣令を以て發布せられたり。是が施

行と相俟ちて、内容の充實を計り更に將來の飛躍に具ふる所あり、偶々財界に反動的恐慌は需要機業地の休機となり、我が撚絲業界も又一時休鍾の悲運に遭遇せんとせしも、此間當業者の努力と本組合當局の措置機を逸せず、内製品の向上改善に全力を傾注し、外販路擴張に幾多の施設を盡したれば、期年ならずして大正十年度に於ては、組合員四百五十名、年産額四十萬貫、金額貳千五百萬圓の新記録を計上するの好況を迎へて、斯業の前途轉た春海の洋々たる感を抱かしめたりしも、茲に從來年需要額五百萬圓に達せし足利向製品の上に同地の節絲織物變化に依る需要の減少は斯業の前途に一沫の暗影を漂はすに至りたるも、新に新潟、静岡、茨城の諸縣並に東京府下に於ける新興機業地に販路を開拓して一轉回復の曙光を認め、更に本市内に於ける機業興隆の機運は機臺一千機を算するに至り需要の増加と集散の上に趨勢革まり、生産過多に陥らんと憂ひたる斯界も漸く常軌の需給調節を得て、一道の光明を認めたり。

第六期は世界的物價低落の時代に入りたる影響と人造絹絲の急激なる發達に依りて機業組織の上に變化を招來したる結果は、終に我前橋撚絲をして窮地の底に陥しいれんかの恐怖時代を出現し組合員の他業へ轉向するあり、工場の規模縮少、休鍾、整理等頻發し、斯業の前途暗澹たるの狀を呈したるも、昭和六年末の金輸出禁止の期を劃して漸く安定の曙光を認め、曾ては供給を生絲、玉絲の蠶絲に偏せし原料を或は人造

絹絲に、毛絲に、絹絲紡績等あらゆる纖維を取入れ撚法の研究と用途の考案に全力を傾注したる組合員の努力酬ひられ、折柄輸出織物好況の餘惠と、我前橋撚絲界に最も關係深き秩父機業地の、目覺しき活況に刺戟せられ、本春末期より本格的需要の増加を招來し、既設工場の増鍾と新設工場の續出日を踵ぐに至り、四月末日に於ける設備總鍾數四萬八千鍾に對し九月末日の現在設備五萬二千鍾を算する業態に導かれつゝあり。

製品種別と仕向地 最近に於ける本組合員の製品の種別と仕向地を大別すれば、生絲撚片二本、三本撚は立絲、横絲の二種に分かれたれ、秩父を主とし伊勢崎、桐生、足利方面多く、玉絲撚、二本、三本、四本撚は秩父向大部を占め、伊勢崎、館林、足利飯能方面に仕向けられ生絲双撚は、桐生、福井、京都方面へ璧撚、高麗撚、御召撚の強撚は桐生、北陸等を主として秩父、伊勢崎等へ、其他人造絹絲、交撚再練絲加工撚等の變態撚も秩父、伊勢崎、栃尾へ其他人造絹絲、強撚の桐生、足利地方より委託賃業加工も増加の傾向あり。這は全く我前橋撚絲業界の撚加工の上に於ける特殊の技術に依ることの大なると稱し得べきなり。

撚絲の取引 我前橋市場の起源は前橋風土記に依れば遠き天和三年亥十月（今を距る二百四十二年前時の厩橋侯五代酒井河内守忠舉治世）本町上中下三個所交代に開市

のことあり、同十一月連雀町に二七日の日開市のことあり、惟ふに前者は四九の日の
絲市にして連綿今日に及びたるが後者は雜貨市にして中途廢絶したるもの如し、爾
後幾多の年月を経て時に或は盛衰ありしことは蓋し想像に難らざるも惜哉舊記の徴す
べきものなく、漸く明治初年の頃より市場は逐年發達し殊に蠶絲集散の市場として本
邦唯一の大市場と覇を稱するに至る。現に繭絲と共に取引せらるゝ、然絲は本町を中心
として取引せられ別に市場として存するものなきも、大正九年七月兩毛機業地市日制
度の改正に伴ひ從來の四九日の制度を變更し本市を月曜日と定め決濟其他凡ての商取
引を行ひつゝあるの外、從來の四九日を以て準市と定め、得意地の便に資したるが爾
來秩父、飯能等も之に倣ひ現今の制度の確立を見るに至りたり。

一二

組合の現況

組合の區域 本組合は創立以來逐年業務振興し漸次發展を遂げたるが、現在の組合
地區は前橋市一圓の外、勢多郡の内、横野村、北橋村、南橋村、富士見村、芳賀村、
桂萱村、群馬郡の内、惣社町、元惣社村、澁川町にして右地區を業務執行上の利便の
爲め左の八區に分つ。

- 第一區 南曲輪町、石川町、連雀町、前代田、田町、宗甫分、紅雲町、市之坪、六
供、元惣社村
- 第二區 本町、片貝町、中川町、新町、天川町、天川原、百軒町、大塚町、芳町、
相生町、田中町
- 第三區 立川町、横山町、桑町、榎町、紺屋町、萱町、諏訪町、一毛町、清王寺町
の内字寄居前、字細ヶ澤端、字清水、字栗島、桂萱村、芳賀村
- 第四區 北曲輪町、曲輪町、堅町、神明町、柳町
- 第五區 向町、岩神町（字琴平前以東を除く）、惣社町
- 第六區 小柳町、細ヶ澤町、萩町、國領町、才川町、清王寺町の内字新井、字新井

前、字寄居、字寄居北、字寄居西、字佐久間東、岩神町の内字琴平前以東
 第七區 南橋村、富士見村
 第八區 北橋村、横野村、澁川町
 鍾數種類別 昭和九年八月末日現在工場數百九十九にして各種機械別燃錘數次の如し。

區別	業種別	燃機			工場數
		立錘	横錘	改良錘	
第一區	賣買專業	一	七	一	九
第二區	兼賣買製造業	四	二	三	九
第三區	製造專業	一	三	五	一
第四區	合計	二	一	八	三
合計	合計	二	一	九	三
	内工場數	二	三	七	三

區別	業種別	賣買專業	兼賣買製造業	製造專業	合計	内工場數
第一區	賣買專業	一	七	一	九	六
第二區	兼賣買製造業	四	二	三	九	三
第三區	製造專業	一	三	五	一	三
第四區	合計	二	一	八	三	三
合計	合計	二	一	九	三	三
	内工場數	二	三	七	三	三

機械運轉使用動力別

區別	業種別	賣買專業	兼賣買製造業	製造專業	合計	内工場數
第一區	賣買專業	一	七	一	九	六
第二區	兼賣買製造業	四	二	三	九	三
第三區	製造專業	一	三	五	一	三
第四區	合計	二	一	八	三	三
合計	合計	二	一	九	三	三
	内工場數	二	三	七	三	三

昭和九年度經費歲入出豫算

歲入部	歲出部
一金六千六百拾五圓也	一金六千六百拾五圓也
內譯	內譯
賦課金總額	歲出總額
課金	歲出總額
數料	歲出總額
紙料	歲出總額
勵金	歲出總額
負擔	歲出總額
特別收入	歲出總額
雜收	歲出總額
過年度徵收	歲出總額
借入	歲出總額
繰入金	歲出總額
歲入總額	歲出總額

現在組合役員及事務員

組長	阿部善太郎	副組長	岩崎平太郎
評議員	松井道藏	評議員	神成増造
同	後藤武雄	同	栢野豊作
同	奈良金太郎	同	石井卯三郎
同	岩崎徳太郎	同	高橋庄吉
同	今村美之吉	同	青木彌一
同	宮田信久	同	金井常治
一金四千貳百四拾圓也		一事務費	
一金一千九百六拾圓也		會費	
一金八拾參圓也		積立金	
一金拾圓也		一時給與基金	
一金貳百圓也		償還金	
一金參拾圓也		豫備費	
一金九拾貳圓也			

同	會計主任	品川	同	兵藤松太郎
同	相談役	下田末吉	同	小森俊藏
同	書記兼	中原仙藏	同	石崎定勝
同	検査員	竹内清次郎	同	野口勝壽
同		長屋亥之八	同	高田博夫
同		由井清		

現在組合代議員

石田庄八	井上隆治	奈良金太郎	高橋庄吉	大熊嘉源次	櫻井金太郎	兵藤松太郎
松本由惠	増田耕作	中村政吉	栗田鶴雄	杉本吉郎	金子文雄	
南雲豊吉	關村杉太郎	岡村貞策	河井善五郎	青木彌一	宮崎雄太郎	

組合の團體 組合の別派機關として組合員を以て組織せるもの、内、燃絲共和會あり、是れ水神講の後身にして、會員百三十餘名を以て團結し、亦燃絲協友會は會員四十名を有し恒に組合事業の向上發達に助力しつつあり。

組合の施設

本組合は其事業として恒に製品の改良と販路の擴張を企圖し、向上發達を策し、定款の規定に遵ひ検査を勵行すると共に、本縣燃絲取締規則に依りて一層嚴密なる内容検査を實行し、粗製濫造の弊を匡正に力め、亦施設としては年々優良従業員の旌表を行ひ、以て技能の練磨を圖り、時に組合員を各需要地に派して視察調査を行ひ、販路の開拓擴張に努め、時に博覽會、共進會、品評會へ出品せしめ、製品の改良を獎勵しつつあり。特に大正八年には本組合主催して、燃絲品評會を開催し大好況裡に其成果を收め、製品の眞價を發揮し、需要喚起の機運を促進し、最近『燃絲共同荷扱所』を設置して規格の検査を行ひ、將來を期するに従業員、技術者養成所を設置懸案として計劃中にある。

組合生産取扱高

二〇

明治三十二年組合設立以來三十六箇年間生産取扱高は左の如し。

年次	累計價額	内		譯	
		生絲撚數量	價額		玉絲撚數量
明治三十二年	六〇五、九七五 ^円	四、一三〇 ^担	二七五、六二〇 ^円	七、五九八 ^担	三三〇、三五五 ^円
同 三十三年	四一五、九〇〇	二、八七九	一五九、九五〇	六、四五五	二五五、九五〇
同 三十四年	五〇四、四四二	四、三六七	二七一、八二二	六、五五一	二四一、六三〇
同 三十五年	四七二、三五五	五、四六七	二七六、七七〇	五、九三五	一九五、五四五
同 三十六年	二九三、四〇〇	二、七三〇	一三八、七八八	五、三八四	一五四、六二二
同 三十七年	六〇二、三七九	三、三六〇	一六八、三七八	一四、〇一〇	四三四、〇〇一
同 三十八年	九六〇、一六五	六、三五〇	三五七、八九三	一四、八二六	六〇二、二七一
同 三十九年	一、七六二、四四五	一三、四六五	八三〇、五八三	二二、五〇九	九三一、八六一
同 四十年	一、四六八、九七二	八、八四七	五四〇、一八六	三二、七七〇	九二八、七八六
同 四十一年	一、三九八、三四九	九、五六七	四七四、五六五	三〇、〇四二	九三三、七八四

同 四十二年	一、六四九、八三五	一二、〇一五	五六六、七三二	三八、三八〇	一、〇六三、一三三
同 四十三年	二、二七四、八七五	一九、二七八	一、〇〇九、一七〇	四三、三六一	一、二六五、七〇五
同 四十四年	二、三三一、四六八	一九、八〇九	九九〇、三二八	四八、〇一五	一、三四一、一五〇
大正 元年	二、四七七、八六八	一九、五二一	九六八、六五〇	五四、三六〇	一、五〇九、二二八
同 二年	二、七八八、〇七四	二二、八〇六	一、二〇一、九七二	五五、七〇一	一、五八六、一〇二
同 三年	二、一四〇、六七六	一三、八六九	七二四、一一二	五三、二五三	一、四一六、五六四
同 四年	三、一六八、五八〇	一六、五〇六	八五五、八六八	八二、九〇八	二、三二二、七二二
同 五年	四、八三九、四九四	一八、九五二	一、三〇二、四〇五	一〇三、九五九	三、五三七、〇八九
同 六年	八、二四五、八四八	二四、四二六	一、九二八、〇六三	一三九、七五二	六、三二七、七八五
同 七年	二、四三五、九二五	二八、九六二	二、五五四、四八二	一六六、八二四	九、八八一、四四三
同 八年	二、二四〇、一三二	二六、二五三	三、七三四、六六七	一五八、九八五	一七、五〇五、四六五
同 九年	一〇、六五二、一〇七	一六、四〇七	一、三八七、八二二	二四六、四七五	九、二六四、二八五
同 十年	三、二八〇、四三九	三三、一七四	三、〇四一、八七六	二五一、二二七	一九、二三七、五五三
同 十一年	一七、二九七、〇八九	二四、八七六	二、七八、〇八四	一九四、五二六	一四、五六九、〇〇五
同 十二年	一四、九九二、七四七	一一、九〇七	一、四三六、二八五	一八四、五三六	一三、五五六、四六二
同 十三年	二、〇八七、七五八	一一、〇〇七	一、〇四〇、二二〇	一七〇、八九九	一一、〇四七、五三八

二一

年二十三治明

長		組	
		杉本利三郎	
長	組	副	
	龜井勝次		
員 議 會 合 組			
萩原治平	大谷末造	樺澤友松	關口忠作
渥美米太郎	渡邊榮吉	狩野喜平	金子丈三郎
眞下八十八	後藤賢太郎	横田新一郎	
要		摘	
		組合員 一、二、八名 錘數 四、五〇〇錘	

組 合 年 譜

同 昭 同 同 同 同 同 同 同 同
和 元 二 三 四 五 六 七 八
十 年 年 年 年 年 年 年 年
四 年 年 年 年 年 年 年 年
一、三、三〇、四六
二、八四六、二七
九、七三、一〇四
九、八六四、一九
六、八九五、三九八
五、五三、八八九
五、〇九七、六三九
五、七二、三二一
六、一九五、四四

二、〇四二
二、五五五
一〇、一三四
一〇、六三八
四、〇九五
七、〇二九
二〇、一三五
三〇、五六四
三二、五四五
一、二六九、四六一
一、一九四、〇六八
七、七二、一三六
六、五八、六三〇
二、七五、六二八
二、四九、二〇三
六、四五、二二三
一、一七六、三三九
一、四九、三二〇
二〇八、一七〇
二二八、七〇九
二〇九、七九〇
二〇九、〇二五
一六二、七七四
一七六、二五六
一五七、八五八
一六四、一四二
一六六、〇四〇
二、七〇〇
五、三〇五
二、〇五〇、九六五
一、六五二、〇四九
九、〇〇〇、九六八
九、二〇五、四八九
六、六一九、七八〇
五、二六四、六八六
四、四五二、三〇六
四、五三四、九九二
四、六九二、八九九

明治三十三年

組長										
杉本利三郎										
副組長										
龜井勝次										
評		議		員		代		要		
横田新一郎	後藤賢太郎	眞下八十八	金子丈三郎	狩野喜平	渡邊榮吉	渥美米次郎	關口忠作	樺澤友松	大谷末造	萩原治平
横田新一郎	後藤賢太郎	眞下八十八	金子丈三郎	狩野喜平	渡邊榮吉	渥美米次郎	關口忠作	樺澤友松	大谷末造	萩原治平
組合員 一三一名 錘數 四、五〇錘										
三月重要物産同業組合法發令同法施行										

明治三十四年

組長										
龜井勝次										
副組長										
杉本利三郎										
評		議		員		代		要		
横田新一郎	後藤賢太郎	眞下八十八	山岸利三郎	大森茂一郎	渡邊榮吉	渥美米次郎	下田源吉	樺澤友松	大谷末造	鹽原猪三郎
横田新一郎	後藤賢太郎	眞下八十八	山岸利三郎	大森茂一郎	渡邊榮吉	渥美米次郎	下田源吉	樺澤友松	大谷末造	鹽原猪三郎
組合員 一三六名 錘數 四、六〇錘										

年五十三治明

長 組										
龜井 勝次										
長 組 副										
杉本利三郎										
員 議 評										
鹽原 猪三郎	大谷 末造	樺澤 友松	下田 源吉	渥美 米次郎	渡邊 榮吉	大森 茂一郎	山岸 利三郎	眞下 八十八	後藤 賢太郎	横田 新一郎
員 議 代										
鹽原 猪三郎	大谷 末造	樺澤 友松	下田 源吉	渥美 米次郎	渡邊 榮吉	大森 茂一郎	山岸 利三郎	眞下 八十八	後藤 賢太郎	横田 新一郎
要 摘										
								組合員 一四三名 錘數 四六三錘		

年六十三治明

長 組										
竹内 勝藏										
長 組 副										
杉本利三郎										
員 議 評										
狩野 喜平	杉本 浅五郎	高橋 太平	鹽原 猪三郎	大谷 末造	樺澤 友松	下田 源吉	渥美 米次郎	匂坂 鑛之	大森 茂一郎	山岸 利三郎
員 議 代										
狩野 喜平	杉本 浅五郎	高橋 太平	鹽原 猪三郎	大谷 末造	樺澤 友松	下田 源吉	渥美 米次郎	匂坂 鑛之	大森 茂一郎	山岸 利三郎
要 摘										
								組合員 一三〇名 錘數 三五〇錘		

明治三十三年七月

組										長																			
竹内 勝藏																													
副										組										長									
杉本利三郎																													
評					議					員					代					要									
横田 新一郎	後藤 賢太郎	眞下 八十八	山岸 利三郎	大森 茂一郎	匂坂 鑛之	渥美 米次郎	下田 源吉	榊澤 友松	大谷 末造	鹽原 猪三郎	高橋 太平	杉本 浅五郎	狩野 喜平	横田 新一郎	後藤 賢太郎	眞下 八十八	山岸 利三郎	大森 茂一郎	匂坂 鑛之	渥美 米次郎	下田 源吉	榊澤 友松	大谷 末造	鹽原 猪三郎	高橋 太平	杉本 浅五郎	狩野 喜平		
組										長																			
二月 露國 卜國交斷 絶宣戰ノ 大詔下ル																													
組合員 一〇四名					鍾 數 三、二五鍾																								

明治三十三年八月

組										長																			
竹内 勝藏																													
副										組										長									
杉本利三郎																													
評					議					員					代					要									
横田 新一郎	後藤 賢太郎	萩原 信太郎	齋藤 音吉	渡邊 榮吉	北澤 仁作	大谷 末造	天海 市太	杉本 浅五郎	狩野 喜平	横田 新一郎	後藤 賢太郎	萩原 信太郎	齋藤 音吉	渡邊 榮吉	北澤 仁作	大谷 末造	天海 市太	杉本 浅五郎	狩野 喜平	五月 日本 海大海戰	九月 日露 ノ講和成 ル	組合員 一四七名 鍾 數 三、九六五鍾							
組										長																			
五月 日本 海大海戰																													
組合員 一四七名					鍾 數 三、九六五鍾																								

明治四十年一月

役	談	相	長	組
中原	中村	龜井		竹内
仙藏	峯吉	勝次		勝藏
副			長	組
			杉本利三郎	
評			員	
水田	齋藤	後藤	萩原	狩野
谷藏	音吉	賢太郎	信太郎	喜平
代			員	
内田	齋藤	後藤	高橋	萩原
省吾	音吉	賢太郎	太平	信太郎
摘			要	
			九月 縣主 長野 府十 催一 府共 進會 合十 縣聯 燃進 品ス 絲出	

明治四十二年

役	談	相	長	組
中原	中村	杉本利三郎		竹内
仙藏	峯吉			勝藏
副			長	組
			龜井 勝次	
評			員	
水野	齋藤	後藤	萩原	狩野
谷藏	音吉	賢太郎	信太郎	喜平
代			員	
内田	齋藤	後藤	高橋	萩原
省吾	音吉	賢太郎	太平	信太郎
摘			要	
			組合員 一八九名 製造場 一四七	

明治四十四年

組	長	相	談	役
	竹内	龜井	中村	中原
	勝藏	勝次	峯吉	仙藏
副	組	長		
	杉本利三郎			
評	議	員		
水田 谷藏	齋藤 音吉	後藤 賢太郎	萩原 信太郎	狩野 喜平
杉本 淺五郎	渡邊 榮吉	北澤 仁作	吉野 新三郎	小泉 久七
須田 徳太郎	今井 庄平	岩崎 平太郎	小川 太助	大谷 末造
和田 銀二郎	高橋 伊三郎	後藤 賢太郎	高橋 太平	萩原 信太郎
小泉 久七	狩野 喜平	岩崎 平太郎	岩崎 徳太郎	多賀谷 銀平
北澤 仁作	藤井 紋三郎	北澤 仁作	大谷 末造	金古 秀吉
和田 銀二郎	高橋 伊三郎	後藤 賢太郎	高橋 太平	萩原 信太郎
小泉 久七	狩野 喜平	岩崎 平太郎	岩崎 徳太郎	多賀谷 銀平
北澤 仁作	藤井 紋三郎	北澤 仁作	大谷 末造	金古 秀吉
要	摘			
九月 群馬縣主催 馬場工業品 展覧會	三月 工場 法發令	製造場 一九七名	製 一五三	組 七、九〇名

明治四十四年

組	長	相	談	役
	竹内	杉本利三郎	中村	中原
	勝藏	峯吉	仙藏	
副	組	長		
	龜井	勝次		
評	議	員		
水田 谷藏	齋藤 音吉	後藤 賢太郎	萩原 信太郎	狩野 喜平
杉本 淺五郎	渡邊 榮吉	北澤 仁作	吉野 新三郎	小泉 久七
須田 徳太郎	今井 庄平	岩崎 平太郎	小川 太助	大谷 末造
和田 銀二郎	高橋 伊三郎	後藤 賢太郎	高橋 太平	萩原 信太郎
小泉 久七	狩野 喜平	岩崎 平太郎	岩崎 徳太郎	多賀谷 銀平
北澤 仁作	藤井 紋三郎	北澤 仁作	大谷 末造	金古 秀吉
和田 銀二郎	高橋 伊三郎	後藤 賢太郎	高橋 太平	萩原 信太郎
小泉 久七	狩野 喜平	岩崎 平太郎	岩崎 徳太郎	多賀谷 銀平
北澤 仁作	藤井 紋三郎	北澤 仁作	大谷 末造	金古 秀吉
要	摘			
九月 群馬縣主催 馬場工業品 展覧會	三月 工場 法發令	製造場 一九七名	製 一五三	組 七、九〇名

大 正 三 年

組	長	相 談 役
		竹内 勝藏
副 組	長	相 談 役
		杉本利三郎 中村 峯吉 中原 仙藏
評 議 員		
水田 谷藏	北澤 仁作	後藤 賢太郎
諏訪 辨造	狩野 喜平	杉本 浅五郎
渡邊 榮吉	吉野 新三郎	齋藤 音吉
小池 慎太郎	櫻井 豊吉	岩崎 平太郎
藤井 紋三郎	内山 庄太郎	
代 議 員		
水田 谷藏	多賀谷 銀平	高橋 伊三郎
後藤 賢太郎	吉野 新三郎	田畑 英吉
眞下 善次郎	設樂 瀨平	金子 政次郎
岩崎 平太郎	多賀谷 末男	狩野 喜平
味岡 孝三郎	櫻井 豊吉	町田 和四郎
藤井 紋三郎		
要 摘		
三月	三月	三月
府主 東京	京大 正博	覽會 燃博
絲 出 品	絲 出 品	絲 出 品
組 合 員 一八〇名	組 合 員 一四一	組 合 員 一四一
工 場 一	工 場 一	工 場 一
錘 數 一四一	錘 數 一四一	錘 數 一四一

大 正 四 年

組	長	相 談 役
		龜井 勝次
副 組	長	任 主 計 會
		渡邊 榮吉
評 議 員		
水田 谷藏	北澤 仁作	後藤 賢太郎
諏訪 辨造	狩野 喜平	杉本 浅五郎
渡邊 榮吉	中村 峯吉	齋藤 音吉
金子 政次郎	櫻井 豊吉	岩崎 平太郎
藤井 紋三郎	金古 秀吉	
代 議 員		
水田 谷藏	多賀谷 銀平	高橋 伊三郎
後藤 賢太郎	設樂 瀨平	金子 政次郎
田尻 英吉	渡邊 榮吉	齋藤 音吉
杉本 浅五郎	岩崎 平太郎	多賀谷 末男
狩野 喜平	櫻井 豊吉	藤井 紋三郎
要 摘		
九月	十月	十月
質 優 者	行 表 彰 式	橋 主 前 橋
ヲ ノ フ	ヲ ノ フ	ヲ ノ フ
組 合 員 二〇〇名	組 合 員 一四一	組 合 員 一四一
工 場 一	工 場 一	工 場 一
錘 數 一四一	錘 數 一四一	錘 數 一四一

大 正 五 年

相 談 役	組 長	
竹内 勝藏 中原 仙藏	龜井 勝次	
會 計 主 任	組 長	副 組 長
中村 峯吉	渡邊 榮吉	杉本利三郎
評 議 員		
水田 谷藏 北澤 仁作 後藤 賢太郎 諏訪 辨造 狩野 喜平 杉本 淺五郎 渡邊 榮吉 中村 峯吉 齋藤 音吉 金子 政次郎 櫻井 豐吉 岩崎 平太郎 藤井 紋三郎 金古 秀吉		
代 議 員		
大場 捷象 金子 彦三郎 神成 增造 後藤 賢太郎 内海 啓三郎 增田 耕三郎 金子 政次郎 富岡 守治 諏訪 辨造 田尻 英吉 宮澤 千次郎 大熊 六太郎 多賀谷 末男 大森 金太郎 多賀谷 忠三郎 宮崎 源太郎 大塚 又市 船津 保平 金古 秀吉 藤井 紋三郎		
摘 要		
組員 二〇八名 工場 一五六 錘數 一六二七〇	三月 重要 物產同業 組合改	九月 山形 縣聯合會 主辦共 進會燃 絲出品

大 正 六 年

相 談 役	組 長	
竹内 勝藏 龜井 勝次 狩野 喜平	杉本利三郎	
會 計 主 任	組 長	副 組 長
中村 峯吉	中原 仙藏	
評 議 員		
水田 谷藏 北澤 仁作 後藤 賢太郎 富岡 守治 宮崎 源太郎 多賀谷 末男 阿部 善太郎 高橋 伊三郎 田尻 英吉 金子 政次郎 櫻井 豐吉 岩崎 平太郎 荒井 多三郎 藤井 紋三郎		
代 議 員		
大場 捷象 金子 彦三郎 神成 增造 後藤 賢太郎 内海 啓三郎 增田 耕三郎 金子 政次郎 富岡 守治 諏訪 辨造 田尻 英吉 若井 隆二 岩崎 淺吉 多賀谷 末男 大森 金太郎 多賀谷 忠三郎 宮崎 源太郎 大塚 又市 船津 保平 金古 秀吉 藤井 紋三郎		
摘 要		
組員 二一七名 工場 一六九 錘數 一九九六	三月 重要 物產同業 組合改	九月 山形 縣聯合會 主辦共 進會燃 絲出品

大 正 七 年

相 談 役	組 長	組 長
竹内 勝藏	龜井 勝次	狩野 喜平
杉本利三郎	中原 仙藏	杉本利三郎
會 計 主 任	副 組 長	副 組 長
真下善次郎	阿部善太郎	中原 仙藏
評 議 員		
水田 谷藏	北澤 仁作	後藤 初雄
富岡 守治	宮崎 源太郎	篠田 忠太郎
岩崎 德太郎	中村 峯吉	田尻 英吉
狩野 眞助	櫻井 豊吉	岩崎 平太郎
荒井 多三郎	藤井 紋三郎	藤井 紋三郎
代 議 員		
水田 谷藏	小林 道七	松井 初雄
後藤 初雄	大熊 福太郎	増田 耕三郎
牧ヶ谷長三郎	富岡 守治	奈其 金太郎
田尻 英吉	篠原 好廣	岩崎 德太郎
岩崎 平太郎	篠田 忠太郎	多賀谷 忠三郎
宮崎 源太郎	大塚 芳太郎	田畑 芳太郎
荒井 多三郎	藤井 紋三郎	藤井 紋三郎
摘 要		
十月 十日	十月 十日	十月 十日
組合員 二四名	工 場 一四名	工 場 一四名
工 場 一四名	工 場 一四名	工 場 一四名
工 場 一四名	工 場 一四名	工 場 一四名
工 場 一四名	工 場 一四名	工 場 一四名

大 正 八 年

相 談 役	組 長	組 長
竹内 勝藏	龜井 勝次	狩野 喜平
杉本利三郎	中原 仙藏	杉本利三郎
會 計 主 任	副 組 長	副 組 長
真下善次郎	阿部善太郎	中原 仙藏
評 議 員		
水田 谷藏	北澤 仁作	後藤 初雄
富岡 守治	宮崎 源太郎	篠田 忠太郎
岩崎 德太郎	中村 峯吉	田尻 英吉
狩野 眞助	櫻井 豊吉	岩崎 平太郎
荒井 多三郎	藤井 紋三郎	藤井 紋三郎
代 議 員		
水田 谷藏	小林 道七	松井 初雄
後藤 初雄	大熊 福太郎	増田 耕三郎
牧ヶ谷長三郎	富岡 守治	奈其 金太郎
田尻 英吉	篠原 好廣	岩崎 德太郎
岩崎 平太郎	篠田 忠太郎	多賀谷 忠三郎
宮崎 源太郎	大塚 芳太郎	田畑 芳太郎
荒井 多三郎	藤井 紋三郎	藤井 紋三郎
摘 要		
十月 十日	十月 十日	十月 十日
組合員 二四名	工 場 一四名	工 場 一四名
工 場 一四名	工 場 一四名	工 場 一四名
工 場 一四名	工 場 一四名	工 場 一四名
工 場 一四名	工 場 一四名	工 場 一四名

大正九年

相 談 役	組 長
杉本利三郎	中原 仙藏
會 計 主 任	副 組 長
真下善次郎	阿部善太郎
評 議 員	
水田 谷藏 北澤 仁作 後藤 初雄 富岡 守治 宮崎 源太郎 篠田 忠太郎 岩崎 德太郎 中村 峯吉 田尻 英吉 櫻井 豊吉 荒井 多三郎 藤井 紋三郎	
代 議 員	
水田 谷藏 小林 淺七 神成 増造 新井 富保 増田 耕作 矢島 桂助 牧ヶ谷 長三郎 富岡 守治 奈良 金太郎 野村 眞三 篠原 好廣 宮崎 福太郎 岩崎 平太郎 今村 美之吉 藏屋敷 孝太郎 宮田 源太郎 和田 倉吉 大塚 又市 荒井 多三郎 藤井 紋三郎	
摘 要	
組合員 三九六名 工場 三〇九 錘 數 三、九三錘	四月 第二 回優良職 工表彰式 ヲ行フ

大正十年

相 談 役	組 長
杉本利三郎 龜井 勝次 中原 仙藏	竹内清次郎
會 計 主 任	副 組 長
多賀谷 銀平	阿部善太郎
評 議 員	
水田 谷藏 北澤 仁作 增田 耕作 中村 峯吉 富岡 守治 奈良 金太郎 田尻 英吉 岩崎 德太郎 岩崎 平太郎 篠田 忠太郎 櫻井 豊吉 宮崎 源太郎 荒井 多三郎 藤井 紋三郎	
代 議 員	
水田 谷藏 小林 淺七 神成 増造 新井 富保 増田 耕作 矢島 桂助 牧ヶ谷 長三郎 富岡 守治 奈良 金太郎 野村 眞三 篠原 好廣 宮崎 福太郎 岩崎 平太郎 今村 美之吉 藏屋敷 孝太郎 宮田 源太郎 和田 倉吉 大塚 又市 荒井 多三郎 藤井 紋三郎	
摘 要	
組合員 三八九名 工場 三三〇 錘 數 四、三八錘	四月 第三 回優良職 工表彰式 ヲ行フ

大正十一年

組長	竹内清次郎		
相談役	杉本利三郎	龜井勝次	中原仙藏
會計主任	多賀谷銀平		
評議員	水田谷藏	北澤仁作	中村峯吉
代議員	水田谷藏	神成増造	石田庄八
摘要	三月 府主催東京 三月 府主催東京 三月 府主催東京	四月 品燃覽會 四月 品燃覽會 四月 品燃覽會	五月 工優式 五月 工優式 五月 工優式

大正十二年

組長	竹内清次郎		
相談役	杉本利三郎	龜井勝次	中原仙藏
會計主任	多賀谷銀平		
評議員	水田谷藏	北澤仁作	中村峯吉
代議員	水田谷藏	神成増造	石田庄八
摘要	三月 府主催東京 三月 府主催東京 三月 府主催東京	四月 品燃覽會 四月 品燃覽會 四月 品燃覽會	五月 工優式 五月 工優式 五月 工優式

大正十三年

相談役	杉本利三郎 龜井勝次 中原仙藏	組長	竹内清次郎
會計主任	多賀谷銀平	副組長	阿部善太郎
評議員	水田谷藏 北澤仁作 金谷太一郎 増田耕作 奈良金太郎 角田慶助 岩崎徳太郎 田尻英吉 篠田忠太郎 櫻井豊吉 宮崎源太郎 荒井多三郎 藤井紋三郎	代議員	神成増造 松井道藏 長谷川鶴一郎 増田耕作 中村峯吉 星野辻治郎 奈良金太郎 牧ヶ谷長三郎 高橋英吉 篠原好廣 野村眞三 田尻英吉 今村美之吉 大熊六太郎 杉本太郎 小川太郎 宮崎源太郎 和田倉吉 荒井多三郎 藤井紋三郎
摘要	三月「前橋 之燃絲」 發刊ス	四月 回優長從 業員表彰	組合員 三〇四名 工場 二三一 錘數 三三六錘

大正十四年

相談役	杉本利三郎 龜井勝次 中原仙藏	組長	竹内清次郎
會計主任	多賀谷銀平	副組長	阿部善太郎
評議員	水田谷藏 長谷川鶴一郎 金谷太一郎 中村峯吉 奈良金太郎 角田慶助 田尻英吉 岩崎徳太郎 岩崎平太郎 今村美之吉 櫻井豊吉 宮崎源太郎 荒井多三郎 藤井紋三郎	代議員	神成増造 松井道藏 長谷川鶴一郎 増田耕作 中村峯吉 星野辻治郎 奈良金太郎 牧ヶ谷長三郎 高橋英吉 篠原好廣 野村眞三 田尻英吉 今村美之吉 大熊六太郎 杉本太郎 小川太郎 宮崎源太郎 和田倉吉 荒井多三郎 藤井紋三郎
摘要	九月 市主催銀 婚式奉祝 國産共進 會産共進 出品ス	三月 組合員 令組合法 四月 回優長從 業員表彰	組合員 三〇四名 工場 二三一 錘數 三三六錘

年 六 和 昭

役 談 相	長	組
竹 中 龜 杉 内 原 井 本 清 仙 勝 利 次 藏 次 三 郎 郎 郎 郎		阿部善太郎
任 主 計 會	長	組 副
下 田		櫻井 豊吉
末 吉		
員 議 評		
町 品 金 宮 今 岩 田 岩 石 奈 栢 後 石 松 田 川 井 田 村 崎 尻 崎 井 瓦 野 藤 田 井 三 三 常 信 美 平 德 卯 金 豊 武 庄 道 郎 郎 治 久 之 太 三 太 作 雄 八 藏		
員 議 代		
町 品 宮 金 狩 大 杉 篠 田 高 中 海 奈 井 栢 後 松 福 神 田 川 原 子 野 熊 本 原 尻 橋 村 津 其 上 野 藤 本 野 成 三 三 松 文 眞 嘉 吉 好 英 庄 政 忠 金 隆 豊 武 由 三 増 郎 郎 衛 雄 助 源 郎 廣 吉 吉 吉 作 太 治 作 雄 惠 郎 造		
要 摘		
ヲ 間 燃 爲 地 工 一 市 十 絲 念 上 品 十 滿 七 改 營 彰 優 四 ナ ノ 絲 同 金 場 ケ 價 月 出 展 越 陳 月 洲 法 正 業 式 良 月 ス 生 業 地 融 秩 休 月 維 上 品 會 開 所 馬 變 行 工 業 組 合 産 者 向 梗 父 業 間 持 ノ ヲ リ 調 二 關 塞 機 ス 燃 ノ ヲ リ 節 週 係 ノ 業 絲 爲	四月 第十回 優良從業員表 營業式ヲ行フ 改正 收益稅法 七月 工業組合 滿洲事變起ル 十月 陳列所催 品陳列主催 上越線開通記 念展覧會へ燃 絲出スル 十月 市價維持ノ 爲ニケル 十一月 工場休業ノ 爲ニケル 十二月 爲ニケル 爲ニケル	組員 二九四名 工場 二二名 錘 二二名 三八二錘

年 五 和 昭

役 談 相	長	組
竹 中 龜 杉 内 原 井 本 清 仙 勝 利 次 藏 次 三 郎 郎 郎 郎		阿部善太郎
任 主 計 會	長	組 副
櫻 井		金谷太一郎
豊 吉		
員 議 評		
町 品 宮 金 今 岩 岩 田 石 奈 下 後 石 松 田 川 田 井 村 崎 崎 尻 井 瓦 野 藤 田 井 三 三 信 常 美 平 德 卯 金 豊 武 庄 道 郎 郎 久 治 之 太 三 太 作 雄 八 藏		
員 議 代		
町 品 宮 金 狩 大 篠 杉 田 高 北 奈 中 海 井 栢 後 松 福 神 田 川 原 子 野 熊 本 原 尻 橋 村 津 其 上 野 藤 本 野 成 三 三 松 文 眞 嘉 吉 好 英 庄 政 忠 金 隆 豊 武 由 三 増 郎 郎 衛 雄 助 源 郎 廣 吉 吉 吉 作 太 治 作 雄 惠 郎 造		
要 摘		
ス 計 檢 = 豐 業 引 父 節 七 正 同 六 行 員 回 四 月 燃 物 二 月 算 查 前 橋 業 引 父 節 七 正 同 六 行 員 回 四 月 燃 物 二 月 法 所 橋 演 ス 週 向 ノ 爲 生 正 同 六 行 員 回 四 月 燃 物 二 月 改 正 玉 松 休 間 燃 絲 爲 正 同 六 行 員 回 四 月 燃 物 二 月 正 量 絲 並 休 間 燃 絲 爲 正 同 六 行 員 回 四 月 燃 物 二 月	四月 第十二 優良從業員表 四月 優良從業員表 四月 優良從業員表 四月 優良從業員表	組員 三一〇名 工場 二三名 錘 二三名 三七、三三錘

前橋撚絲同業組合定款

第一章 名稱及事務所位置

第一條 本組合ハ前橋撚絲同業組合ト稱ス

第二條 本組合事務所ハ前橋市本町三十九番地ニ置ク但シ便宜出張所ヲ設ケルコトヲ得

第二章 組合組織及地區

第三條 本組合ハ撚絲製造業者數ヒ絲業者撚絲數ヒ絲賣買業者ヲ以テ組織ス

第四條 本組合ノ地區ハ左ノ如シ

一 前橋市一圓

一 勢多郡ノ内横野村、北橋村、南橋村、富士見村、芳賀村、桂萱村
一 群馬郡ノ内總社町、元惣社村、澁川町

第五條 本組合ノ地區ヲ左ノ八區ニ分ツ

第一區 南曲輪町、石川町、堀川町、連雀町、田町、前代田、宗甫分、紅雲町、市ノ坪、六供、元總社村

第二區 本町、片貝町、中川町、新町、天川町、天川原、百軒町、大塚町、芳町、相生町、田中町

第三區 立川町、横山町、桑町、榎町、紺屋町、萱町、諏訪町、一毛町、榮町、清王寺町ノ内字寄居前、
字細ヶ澤端、字清水、字栗島、桂萱村、芳賀村

第四區 北曲輪町、曲輪町、堅町、神明町、柳町

第五區 向町、岩神町、總社町

第六區 小柳町、細ヶ澤町、萩町、國領町、才川町、清王寺町ノ内字新井、字新井前、字寄居、字寄居北、

字寄居西、字佐久間東、琴平町

第七區 南橋村、富士見村

第八區 北橋村、横野村、澁川町

第三章 目的及業務

第六條 本組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持シ斯業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第七條 前條ノ目的ヲ達セン爲メ左ノ各號ヲ確守スヘシ

一 六角捻棒曲尺三尺六寸五分ノコト但シ特種ノ捻絲棒ハ此限りニアラス

二 數ヒ棒同尺ノコト

三 回数正確ニナスコト

四 原絲撚合數正確ニスルコト

五 一提目五匁以上差アルモノハ混同一束トセサルコト

六 藥品其ノ他ノ物質ヲ以テ增量セサルコト

七 乾燥ヲ能クスルコト

八 綾絲ハ同種類ノ強伸力アル絲ヲ以テ二ヶ所ニ掛クルコト

第八條 前條ノ各號ヲ保證スル爲メ捻絲及數ヘ絲ニハ第六十四條ニ規定ノ本組合發行ノ證紙ヲ一束毎ニ添附シ

左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 原絲名稱、捻ノ種類、合セ絲數、撚度(曲尺一寸間ノ撚數)、棒ノ周圍、回数、使用油類ノ名稱、提數量目、製造人販賣人氏名

第八條ノ二 本組合ハ製品ノ改良及統制ヲ圖ルノ目的ヲ以テ共同荷投所ヲ設置ス

共同荷投所ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 役員選舉資格職務權限

第九條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

一 組長 一名

一 副組長 一名

一 評議員 十四名

一 會計主任 一名

第十條 本組合ニ左ノ事務員ヲ置ク

一 理事 一名

一 書記 若干名

一 検査員 若干名

但シ理事ヲシテ書記検査員ヲ兼務セシムルコトヲ得

第十一條 本組合ノ役員ハ組合會之ヲ選舉シ評議員ノ選出ハ左ノ比例ニ依ル

一 自第一區至第六區 每區 二名

一 自第七區至第八區 每區 一名

第十二條 本組合ノ役員タルモノハ丁年以上ノ男子ニシテ地區内ニ常住シ一ヶ年以上捻絲製造業數ヒ絲撚絲數ヒ

絲賣買業ノ一ニ從事シタルモノニシテ左ノ各號ニ該當セサルモノニ限ル但シ必要ノ場合ニハ組合員ニ非サルモノヨリ選出スルコトヲ得

一 懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免後二ヶ年ヲ經サルモノ

二 復權セサル破産者又ハ家資分産者

三 同業組合法又ハ組合定款ニ違背シ處分後二ケ年ヲ經サルモノ
 第十三條 役員ノ任期ハ三ケ年トス但シ滿期再選スルコトヲ得
 役員任期滿了後ト雖モ後任者就任迄尙ホ其ノ職務ヲ行フ
 第十四條 役員其職責ヲ盡サス又ハ組合ノ體面ヲ汚辱シ若クハ信用ヲ害スル行爲アリタルトキハ組合會ノ決議ヲ以テ解任スルコトヲ得
 第十五條 組長ハ組合ヲ代表シ組合全般ノ事務ヲ統轄ス
 第十六條 副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ之ヲ代理ス
 第十七條 評議員ノ職務權限左ノ如シ
 一 組長ノ諮詢ニ應スルコト
 二 業務執行ノ狀況及出納檢査ニ關スルコト
 三 經費豫算決算及業務成績報告其他組合會ニ提出スヘキ諸議案ノ編成ニ參與スルコト
 四 違犯處分ニ關スルコト
 第十八條 評議員ハ組合代議員ヲ兼務スルコトヲ得
 第十九條 組長副組長共ニ故障アルトキハ評議員ノ互選ヲ以テ之ヲ代理ス
 第二十條 會計主任ハ收支ヲ明確ニシ帳簿ヲ整理スヘシ
 第二十一條 事務員ハ評議員會ノ決議ヲ以テ組長之ヲ任免ス但シ檢査員ノ服務任免ハ別ニ定ムル處ノ規定ニ據ル
 第二十二條 理事ハ組長副組長會計主任ノ指揮ヲ受ケ會計其他ノ庶務ヲ分掌ス
 第二十三條 本組合ニ相談役若干名ヲ置クコトヲ得
 相談役ハ本組合ニ功勞アル組合員中ヨリ評議員會ノ諮詢ヲ經テ組長之ヲ推薦シ斯業ノ改善發達其他重要事項ニ付評議員會ニ於テ意見ヲ求ムルコトヲ得但シ可否ノ數ニ加ヘス

第五章 給料及報酬

第二十四條 本組合ノ役員ハ名譽職トス但シ組合會ノ決議ヲ以テ報酬ヲ贈與スルコトヲ得
 第二十五條 理事以下ノ給料ハ組合會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 會議組織議員ノ資格權限

第二十六條 組合代議員ハ第十二條ノ資格ヲ有スル組合員中ヨリ組合員之ヲ選舉ス但シ組合代議員ハ名譽職ニシテ任期ハ三ケ年トス滿期再選スルコトヲ得
 第二十七條 組合代議員ハ評議員ヲ兼務スルコトヲ得
 第二十八條 組合代議員ニ缺員ヲ生スルモ定員四分ノ三以上ノ留任者アルトキハ次ノ選舉迄補缺選舉ヲ執行セサルコトヲ得但シ補缺選舉ニヨリ選出セラレタルモノハ前任者ノ殘任期ヲ繼クモノトス
 第二十九條 組合代議員ノ定員ヲ二十名トシ各區ニ於テ其區組合員中ヨリ左ノ割合ニ依リ互選スルモノトス
 一 自第一區至第六區 每區 三名
 一 自第七區至第八區 每區 一名
 第三十條 組合會ハ毎年一月及五月ノ二回トシ一月ニハ主トシテ翌年度ノ歲入出豫算定款ノ變更ヲ議定シ及役員ヲ選舉シ五月ニハ前年度ノ經費ノ決算及業務成績等ヲ認定シ其他必要ノ事項ヲ議定ス
 第三十一條 臨時組合會ハ組長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ組合代議員五分ノ一以上ノ同意ヲ以テ會議ノ目的ヲ示シ請求アリタルトキ開クモノトス
 第三十二條 總テ會議ハ三日以前ニ日時場所及會議ノ目的ヲ通知スルモノトス但シ至急ヲ要スル場合ハ此ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得
 第三十三條 組合會ハ組長之ヲ招集ス
 第三十四條 組合會ハ組長ヲ以テ議長トス組長事故アルトキハ副組長之ニ代ル但シ組合代議員ノ請求ニ依リ招集

シタル組合會ノ議長ハ組合代議員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 組合會ノ決議ハ代議員半數以上出席シ其過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス但シ同

一事件ニシテ招集再回ニ至ルモ尙ホ出席員定數ニ滿タサルトキハ其ノ三分ノ一以上ノ同意ヲ以テ可決ス

第三十六條 評議員會ハ組長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ評議員三分ノ一以上ノ同意ヲ以テ請求アリタルトキ

之ヲ開クモノトス但シ議長ハ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條 第三十五條ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

第三十八條 役員ハ會議ニ列シ意見ヲ述ヘ又ハ議案ヲ辯明シ若クハ事務員ヲシテ之ニ代ラシムルコトヲ得

第三十九條 組合會ハ公開ス時宜ニヨリ傍聴ヲ禁スルコトアルヘシ

第四十條 組合會議事細則ハ組合會議ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第七章 會

計

第四十一條 本組合ノ會計年度ハ四月ニ始リ翌年三月ニ終ル

第四十二條 本組合收入支出ノ費目ハ豫算ノ定ムル處ニ依ル

第四十三條 組合ノ經費ハ證紙料金組合員負擔金及ヒ雜收入ヲ以テ之ニ充ツ但シ本條ノ料金及ヒ負擔金ハ組合會

ニ於テ之ヲ定ム

第四十四條 組合ノ會計ハ日々ノ收支ヲ明確ニシ會計年度後三ヶ月以内ニ決算スルモノトス

第四十五條 組合經費收支差引剩餘金ヲ生スルトキハ翌年度へ繰越シ不足ヲ生スルトキハ追徴補充ス

第四十六條 支出豫算ノ費目ニ剩餘金ヲ生スル時ハ不足ヲ生スル款項内ノ費目ニ限り流用スルコトヲ得

第八章 組合員加入及脱退

第四十七條 本組合地區内ニ於テ第三條ノ營業ヲ爲スモノハ本組合ニ加入スヘシ但シ地區外ノモノト雖當地區内

ニ來リ同業ヲ爲スモノハ本組合ニ加入スヘシ

第四十八條 前條ニヨリ加入スルモノハ住所氏名營業ノ種類ヲ明記シ届書ヲ組合事務所ニ提出スヘシ

廢業又ハ地區外ニ轉シタルトキ又同シ但改氏名ノ場合ニハ書替ヲ請フヘシ

第九章 組合員ノ權利義務

第四十九條 組合員ハ組合備付ノ諸帳簿計算書等ヲ閱覽スルコトヲ得但シ事務上ノ都合ニヨリ謝絶スルコトアル

ヘシ

第五十條 組合員ハ地區ノ内外ヲ問ハス當定款ヲ確守スヘシ

第五十一條 組合員ハ組合費負擔ノ義務アルモノトシ其ノ徵收期限ハ組合會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ムルモノトス

第五十二條 組合員ノ業務ノ保全並ニ職工及ヒ徒弟勞務ノ安全ヲ計ランカ爲メ左ノ各號ニ由リ處理ス

一 組合ニ職工徒弟名簿臺帳ヲ設ク

二 組合員ハ職工徒弟ヲ雇入レタルトキハ七日以内ニ其本籍、現住所、身分、氏名、生年月日、雇傭契約

期間及親權者ノ住所氏名ヲ記載シ雇主被雇人連署ヲ以テ組合ニ届出ツヘシ之ヲ變更シ又ハ解雇シタル

トキ又同シ

三 組合ハ其届出アリタルトキ他ノ組合員ノ使用ニ係ルヤ否ヤヲ調査シ差支ナシト認メタルトキハ職工徒

弟名簿臺帳ニ記載シ之ヲ届出人ニ通告スルコト

四 組合員加入以前ニ雇入レタル職工徒弟アルトキハ加入後五日以内ニ第二號ノ手續ヲナスヘシ

第五十三條 組合員ハ他組合員ノ契約使用中ニ係ル職工徒弟ヲ雇入ル、コトヲ得ス但シ雇主ノ承諾ヲ得タルトキ

ハ此ノ限リニアラス

第五十四條 組合員ハ他組合員ノ契約使用中ノ職工徒弟ヲ甘言ヲ以テ誘出スルコトヲ得ス

第五十五條 職工徒弟ニシテ左記各號ノ一ニ該當シ解雇シタルトキハ雇主ハ其事實ヲ記載シ組合ニ届出ヘシ

一 甚シク業務ヲ怠リタルモノ

二 正當ノ理由ナクシテ賃金ノ増加又ハ賃金ヲ強要シタルモノ
 三 他ノ職工ヲ誘拐シ又ハ誘拐セントシタルモノ
 四 同盟罷業ヲ企テタルモノ
 五 雇主ノ許諾ヲ得スシテ家出シ行衛不明又ハ復歸ヲ肯セサルモノ
 六 前各號ノ外不正行爲ヲナシタルモノ

第五十六條 組合ハ前條ノ申告ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ事實ナリト認定シタルトキハ評議員會ノ諮詢ヲ經テ一ケ年以内其使用ヲ停止ス

使用停止中ノ者改換ノ情顯著ナリト認メタルトキハ評議員會ノ諮詢ヲ經テ之ヲ解除スルコトヲ得

使用停止又ハ解除ヲナシタルトキハ之ヲ組合員ニ通知ス

第五十七條 組合員ハ使用停止中ノ者ヲ雇入ル、コトヲ得ス

第五十八條 組合員ノ委託シタル燃絲ニ付賃燃業者ニ於テ不正ノ行爲アリタルトキハ其人名並ニ事由ヲ詳記シ組合ニ之ヲ申告スヘシ

第五十九條 前條ノ申告ヲ受ケタルトキハ組合ハ事實ヲ調査シ其情狀重キ者ハ評議員會ノ意見ヲ聞キ不正行爲アリタルモノニ對シ三ヶ月以内ノ範圍ニ於テ燃絲ノ委託ヲ停止シ其旨組合員ニ通知スルモノトス

第六十條 組合員ハ組合ヨリ喚出ヲ受ケタルトキハ必ス期日ニ出頭スルモノトス但シ不得止事故アルトキハ時日ヲ定メ延期ヲ乞フコトヲ得

第六十一條 組合員ニシテ賃燃ヲセントスルモノハ絲主ニ二名以上ノ保證人ヲ立テ證書ヲ差入ル、モノトス

第六十二條 削除

第十章 印章 證 紙

第六十三條 本組合事務所並ニ組長副組長會計主任理事検査員ハ左ノ印章ヲ用ユ

方六分
 前橋燃絲
 組合印
 同業
 組合印

方一寸二分
 前橋燃絲
 事務所印
 同業組合
 事務所印

方八分
 前橋燃絲
 組長印
 同業組合
 組長印章

方八分
 前橋燃絲
 副組長印
 同業組合
 副組長印

方六分
 前橋燃絲
 會計主任印
 同業組合
 會計主任印

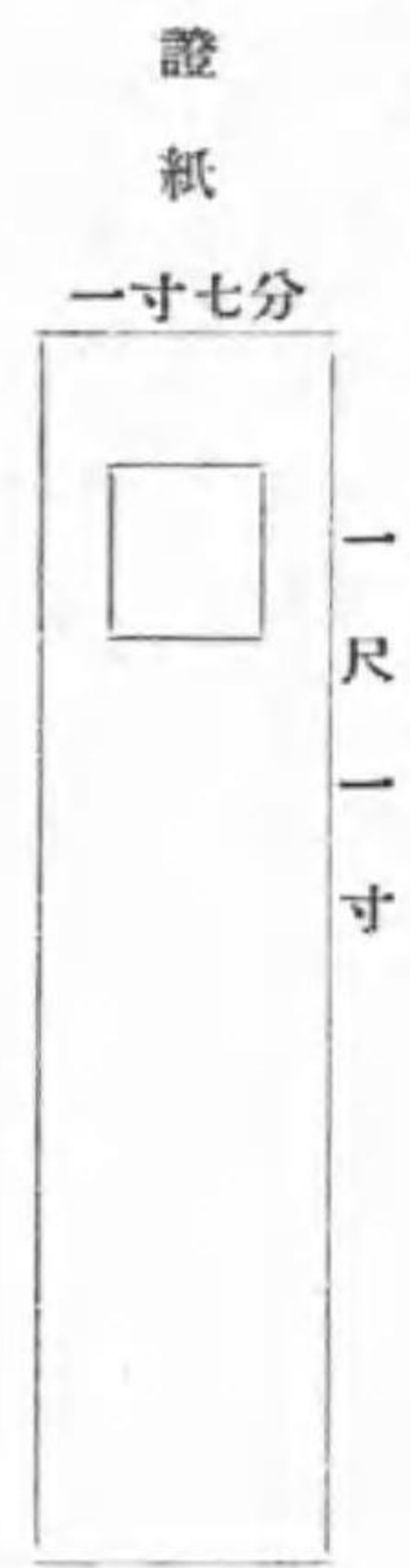
方六分
 前橋燃絲
 理事印
 同業組合
 理事印章

方六分
 前橋燃絲
 検査員印
 同業組合
 検査員印

契印
 前橋燃絲同業組合

緘印
 封
 緘

第六十四條 本組合ハ左ノ證紙ヲ發行ス



第六十五條 檢査ハ定期臨時ノ二種トシ定款第七條第八條ニ違犯ノ所爲ナキヤ否ヤヲ檢査ス

第六十六條 定期檢査ハ毎年四月九月兩度ニ之ヲ執行ス

第六十七條 臨時檢査ハ隨時各製造工場又ハ燃絲並ニ數ヒ絲ヲ取引スル場所ニ臨ミ檢査ス組合員ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十八條 檢査ノ際定款違背ノ行爲アリタルトキハ檢査員ハ時宜ニヨリ其ノ物品ヲ押收シ之ヲ組長ニ申告スルコトアルヘシ組合員ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二章 違約者處分

第六十九條 定款ノ規定ニ違背シタル者ハ評議員會ノ決議ヲ經テ左ノ各號ニ照シ處分ス

- 一 定款第七條、第八條、第五十三條、第五十四條ニ違背シ又ハ第五十七條ニ由リ使用ヲ停止シタル者ヲ雇入レ又ハ第五十九條ニ由リ停止シタル賃燃業者ニ燃絲ノ委託ヲ爲シタルトキ又ハ第六十條ニヨリ再度ノ喚出ヲ受ケ理由ナク出頭セサルトキ又ハ第八條ノ二第二項ノ規程ニ違背シタル者ハ拾圓未満ノ過意金ニ處ス
- 二 前號ノ處分ヲ受ケタル者再ヒ違背シタルトキハ拾圓以上參拾圓以下ノ過意金ニ處ス
- 三 定款第七條第六號ニ該當スル違背行爲ニシテ情實重キモノハ過意金ノ外其物品ヲ沒收ス但シ沒收物品ハ公賣ニ付シ其代金ハ雜收入トス

第十三章 定款變更及組合解散

第七十條 定款ノ變更ハ組合會ニ於テ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ議決シ商工大臣ノ認可ヲ經之ヲ施行ス

第七十一條 本組合ノ解散ヲ爲サントスルトキハ各種營業毎ニ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ其理由ヲ具シ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四章 清算

算

七十二條 本組合解散ノ場合ニハ組長副組長會計主任理事ヲ以テ清算人トス但シ組長副組長又ハ會計主任理事事故アルトキハ解散當時ノ組合會ニ於テ四名以上ヲ選舉シ其任ニ當ラシム

七十三條 清算人就職シタルトキハ直チニ財産目錄及債權債務ノ取調書並ニ處分案ヲ作り組合解散當時ノ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ求ムヘシ

七十四條 清算ノ結果組合ノ財産ニ剩餘シタルトキハ解散當時ノ組合員ニ分配シ不足ヲ生シタルトキハ之ヲ徵收ス但シ分配及徵收ノ場合ニ於テハ解散當時組合經費負擔額ヲ以テ標準トス

第十五章 雜則

七十五條 本組合ニ於テ細則ノ必要ヲ生スルトキハ評議員會ニテ之ヲ定ム

七十六條 本組合役員代議員ノ任期ハ役員ニアリテハ後任者ノ認可日ヲ以テ組合代議員ハ後任者當選ノ通告ヲ受ケタルヲ以テ滿了ス

七十七條 初期ノ役員及組合代議員選舉ハ明治三十七年一月ノ通常總會ニテ之ヲ選舉ス

檢査員服務規定

第一條 檢査員ハ組長ノ監督ノ下ニ事務ヲ掌理ス

檢査員ハ檢査ニ關スル規定ヲ組合員ニ周知セシムヘシ

第二條 前條第一項ノ監督ノ爲メ檢査員ハ其執行スル檢査ニ付制限セラレ、コトナシ

第三條 檢査員ハ素行ヲ慎ミ職權ヲ濫用セス懇切丁寧ヲ旨トシ定款ノ規定ニ準ヒ嚴正確實且ツ迅速簡便ニ職務

ヲ執行スヘシ

- 第四條 検査員ハ検査品ニ關スル營業ニ從事シ又ハ検査品ニ關スル營業ヲナス他人ノ使役人ヲ兼ヌルコトヲ得ス
- 第五條 検査員ハ職務ニ關スル組合員ノ秘密ヲ漏洩スヘカラス
- 第六條 検査員ハ組長ノ認諾ヲ得ルニ非サレハ擅ニ職務ヲ離レ又職務上居住ノ地ヲ離ル、コトヲ得ス
- 第七條 検査員ハ其ノ職務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルト直接又ハ間接ナルトヲ問ハス組合員ヨリ贈遺ヲ受ケ又ハ獎勵ヲ受クルコトヲ得ス
- 第八條 検査員定款違反者ヲ發見シタルトキハ先ツ其ノ故意ニ出テタリヤ否ヤヲ調査シ其故意ニ出テサルモノハ之ヲ戒告シ故意ニ出テタルモノハ直ニ之カ處分ヲ求ムル手續ヲ爲シ又ハ其權限内ノ事項ニ付テハ自ら處置ヲ爲スヘシ
- 前項ニ依リ自ら處置ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ組長ニ報告スヘシ
- 第九條 前條第一項ノ場合ニ於テ組長又ハ評議員會ノ措置定款ニ違背シ又ハ穩當ナラスト認ムルトキハ検査員ニ於テ意見ヲ述フルコトヲ得
- 前項ニ依リ意見ヲ述ヘタルニ拘ラス其措置ヲ改メサルトキハ其ノ旨ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第十條 検査員ハ組合員ノ定款違反ニ關スル帳簿ヲ作製シ戒告及初犯以上ノモノヲ登録スヘシ
- 第十一條 検査員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ懲戒ヲ受ケ
 - 一 職務上ノ義務ニ違反シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
 - 二 職務ニ關シ検査員タルノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アルトキ
- 第十二條 懲戒ノ種類ハ左ノ如シ

一 免 職 二 減 俸 三 誡 責

第十三條 減俸ハ一月以上六月以下月俸ノ五分ノ一以下ヲ減ス

第十四條 検査員ヲ懲戒セムトスルトキハ組長ニ於テ評議員會ニ諮詢シ其ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

検査員ノ資格選任解任及給與ニ關スル規定

- 第一條 検査員ハ廉直且剛毅ナル素質ヲ有シ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ具備スル者ヨリ選任スルコトヲ要ス
 - 一 尋常小學校ヲ卒業シ三年以上検査品ニ關スル職業又ハ任務ニ從事シタル者
 - 二 高等小學校卒業程度以上中等學校二年級以上ノ學力ヲ有シ一年以上検査品ニ關スル職業又ハ任務ニ從事シタル者
 - 三 検査品ニ關係アル徒弟學校卒業程度以上ノ課程ヲ修メタル者
 - 四 前各號ニ準スヘキ資格ヲ有スル者
- 第二條 検査員ノ選任及解任ハ評議員會ノ諮詢ヲ經テ知事ノ認可ヲ受クルモノトス
- 第三條 検査員ノ俸給ハ總會ノ決議ヲ經タル豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給ス
- 第四條 俸給ハ毎月二十五日ニ之ヲ支給ス但シ休日ニ當ルトキハ繰下ケ退職死亡ノトキハ其時々支給ス
- 第五條 新任増給及減給ノ場合ハ發令ノ翌日ヨリ計算シ退任ノ場合ハ全月分ヲ支給ス
- 第六條 病氣ノ爲メ職務セサルコト六十日ヲ踰ヘ又ハ私事ノ故障ニ因リ職務セサルコト三十日ヲ踰ヘタルモノハ俸給ヲ半減シ尙六十日以上職務セサルトキハ其ノ以後ニ屬スル俸給ハ之カ支給ヲ停止ス

第七條 検査員職務ニ因リ出張シタルトキハ左表ニ據リ旅費ヲ支給ス但シ一哩未滿ノトキハ日當ヲ給セス陸路往復六里未滿及汽車汽船往復四十哩未滿ノトキハ日當半額ヲ支給ス但シ一泊ノ場合ハ全額ヲ支給ス

一哩ノ汽車賃	一海里ノ船賃	一里ノ車馬賃	一夜ノ宿泊料	一日ノ日當
六錢	拾貳錢	五拾錢	參圓五拾錢	壹圓

組合獎勵規程 (沿革大正八年七月十七日制定 昭和八年一月十九日改正)

- 第一條 組合ハ組合員ノ事業進歩發達ニ資スル爲メ評議員會ノ決議ヲ以テ第二條ニ依リ之ヲ獎勵ス
- 第二條 組合事業ニ付顯著ナル功績アリタルモノニハ記念品ヲ贈呈シ之ヲ表彰ス
- 第三條 博覽會共進會又ハ品評會、展覽會へ出品シ受賞シタルモノニ對シテハ左ノ各號ニ依リ之ヲ表彰ス
 - 一 博覽會其ノ他諸會へ出品シ賞牌ヲ受領シタルモノニハ組合ヨリ物品並ニ賞狀ヲ授與ス
 - 二 博覽會其ノ他諸會へ出品シ褒狀ヲ受領シタルモノニハ組合ヨリ賞狀ヲ授與ス
- 第四條 販路擴張及事業發達ノ爲メ視察又ハ調査トシテ組合員出張シタルトキハ旅費ヲ支給又ハ補助ス
 - 一 組合事業ノ發達ニ關シ新販路若クハ新規需用途ノ開拓ニ資スル目的ヲ以テ新規機械ヲ購入セントスルモノニ對シテハ評議員會ノ諮問ヲ經テ代金ノ一部ヲ補助スルコトヲ得
 - 二 評議員會ノ決議ヲ以テ別ニ補助規程ヲ設ケルコトヲ得
- 第五條 組合ハ時宜ニ依リ品評會ヲ開催シ組合員ノ生産品ヲ出陳セシメ審査ノ上賞牌又ハ褒賞狀ヲ授與ス
- 第六條 雇傭人表彰規程ハ別ニ之ヲ定ム

組合雇傭人表彰規程 (沿革大正八年七月十七日制定 昭和八年一月十九日改正)

- 第一條 前橋惣絲同業組合ハ組合員ノ事業發達ニ資センカ爲メ其ノ雇傭人ノ表彰ヲ行フ
- 第二條 被表彰者ハ本組合員ノ雇傭人ニシテ滿三ヶ年以上勤続シタルモノニ限ル但シ新業ニ有益ナル發明ヲナシ又ハ品行方正技術優秀ニシテ衆人ノ模範タルヘキモノハ年限ニ拘ラス表彰スルコトヲ得
- 第三條 前後雇主ヲ異ニスルモ其ノ業務ヲ繼承シタル同一ノ工場ニ於ケル其ノ雇傭人ノ勤続年限ハ之ヲ通算ス 兵役ニ服シタル爲メ勤続年限ヲ中斷スルモ現ニ在勤スルモノハ勤続者ト看做シ其ノ服役年數ヲ加算ス
- 第四條 表彰ハ詮衡委員ノ詮衡ヲ經テ左ノ區別ニ從ヒ賞狀及賞金又ハ賞品ヲ授與ス
 - 一等 十年勤続
 - 二等 七年勤続
 - 三等 五年勤続
 - 四等 三年勤続
- 第五條 第二條ノ但書ニ依ルモノハ年限ニ拘ラス相當ノ等級ニ編入ス
- 第六條 十年以上ノ勤続者ニハ詮衡委員會ノ薦告ニ依リ評議員會ノ同意ヲ經テ組長隨時表彰スルコトヲ得
- 第七條 七年以上勤続シ成績顯著ナルモノニハ特別賞及勤功徽章ヲ授與スルコトヲ得
- 第八條 表彰一人ニシテ同一ノ褒賞ヲ受クルコトヲ得
- 第九條 表彰狀ハ本組合ノ薦告ニヨリ前橋市長ヨリ之ヲ交付セラル、モノトス
- 第十條 受賞者業務ヲ怠リ又ハ信用ヲ害スヘキ行爲アリタルトキハ其ノ表彰ヲ取消スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ氏名ヲ公告ス
- 第十一條 詮衡委員ハ十名トシ其ノ都度組合員中ヨリ組長之ヲ囑託ス
- 第十二條 詮衡委員ハ名譽職トス時宜ニ依リ手當ヲ支給スルコトヲ得
- 第十三條 本規程ノ施行ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

- 第二條 本資金トシテ積立ツルモノ左ノ如シ
 - 一 毎年豫算ヲ以テ定メタル金額
 - 一 本資金トシテ寄附シタルモノ
- 第三條 本資金ハ評議員會ノ承認ヲ經テ確實ナル銀行ニ預入レ利殖ヲ圖ルモノトス
- 第四條 本資金ヨリ生スル利子ハ元金ニ繰入ル、モノトス
- 第五條 本資金ヲ支出スル事業ハ組合會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム
- 第六條 必要ナルトキハ組合會ノ議決ヲ經テ組合經常費ニ繰入レ使用スルコトヲ得
 - 此場合ニ於テハ五ヶ年以内ニ之ヲ補填スルモノトス
- 第七條 特定ノ用途ヲ指定シタル寄附金ハ一時本資金ニ繰入レ評議員會ノ承認ヲ經テ其ノ特定事業ノ用途ニ使
 - 用ス
- 第八條 本資金ハ特別會計トシテ整理シ毎年收支精算ハ業務成績書ニ記載シ之ヲ報告ス

一時給與金蓄積規程 (沿革 昭和三年四月二十八日制定)

- 第一條 一時給與基金ハ一時給與金給與規則ニ定ムル給與金ニ充當スル爲メ毎年度豫算ニ編入シ之ヲ積立ツルモノトス
- 第二條 本基金ハ特別會計トシテ整理ス
- 第三條 本基金ハ評議員會ノ諮詢ヲ經テ左ノ範圍ニ於テ之レヲ運用スルコトヲ得
 - 一 國債證券、地方債證券又ハ勸業債券、農工債券ヲ購入スルコト
 - 二 大藏省預金、銀行預金又ハ郵便貯金ト爲スコト

- 三 本組合ノ經濟ニ於テ借入ヲ爲ス必要アルトキ利付貸出ヲ爲スコト
- 第四條 本基金ヨリ生スル收入ハ總テ該基金ニ編入ス
- 第五條 本基金ノ收支豫算並ニ決算ハ組合會ノ承認ヲ經且ツ業務報告書ヲ以テ之ヲ報告スルモノトス

附 則
本規程ハ昭和三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

一時給與金給與規則 (沿革 昭和三年四月二十八日制定)

- 第一條 役員職員ニハ本則ニ定ムル所ニ依リ一時給與金ヲ給與ス
- 第二條 一時給與金ハ退職給與金、弔慰金ノ二種トス
- 第三條 役員職員在職五年以上ニシテ退職シタルトキハ評議員會ノ諮詢ヲ經テ組長其ノ給與額ヲ定ム
- 第四條 職員在職三年以上五年未満ニシテ退職シタルトキハ退職當時ニ於ケル給料一ヶ月分ニ相當スル金額ヲ給與シ爾後一ヶ年ヲ増ス毎ニ半ヶ月分ヲ加フ
- 第五條 職員在職中死亡シタルトキハ評議員會ノ諮詢ヲ經テ組長弔慰金額ヲ定メ之ヲ其ノ遺族ニ給與ス
- 第六條 前條ニ依ル弔慰金ヲ受クヘキ遺族ナキトキハ其ノ葬主ニ之ヲ交付ス
- 第七條 在職年數ハ任用ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス
- 第八條 本則ニ依ル給與金ハ免職ノ處分ヲ受ケ退職シタルモノニハ之ヲ給與セス

附 則

本則ハ昭和三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
本則ニ依リ給與金ヲ受クルモノニシテ本則施行前ヨリ勤績スルモノニ對シテハ其ノ勤績年數ヲ加算シ既ニ

評議員會ノ同意ヲ得タル退職ノ役員ニ對シ準用ス

事業調査會規定 (沿革 昭和七年一月二十八日設定)

- 第一條 組合事業ノ根本策樹立ニ關シ事業調査會ヲ設ク
- 第二條 事業調査會ハ調査委員ヲ以テ組織ス
- 第三條 事業調査委員ノ定數ヲ七名トシ組合員中ヨリ組長選任シ之ヲ囑託ス
- 第四條 事業調査委員會ハ組長ノ諮問事項ニ付審議答申ス
- 第五條 事業調査委員ニハ費用辨償ヲナスコトヲ得
- 第六條 事業調査委員ハ第四條ノ答申完了シタル時ヲ以テ組長其ノ任ヲ解ク

前橋撚絲同業組合共同荷扱所規程

- 第一條 本組合ハ撚絲ノ改良及統制ヲ圖ルノ目的ヲ以テ前橋市本町二十四番地ニ共同荷扱所ヲ設置ス
- 第二條 本組合員撚絲ヲ販賣セントスルトキハ共同荷扱所ノ検査ヲ受ケヘシ
- 第三條 前條ノ検査ヲ受ケントスル者ハ別記様式ノ票紙請求書ヲ本組合ニ提出スヘシ
- 第四條 共同荷扱所ニハ検査員ヲ常置シ毎日 (自午前八時 至午後四時) 日曜、祭日ハ除ク) 出荷ノ検査ヲ爲ス
- 第五條 検査済品ニ對シテハ本組合發行ノ證紙ニ検査済證ヲ貼付ス
秩父向撚絲ニ對シテハ秩父綾物工業組合ノ制定セル規格規定ニ照シ經絲用ニハ青、緯絲用ニハ赤、特殊絲用ニハ黄色ノ検査済證ヲ貼付スルモノトス

第六條 出荷人ハ本組合ニ検査手数料ヲ納付スヘシ

検査手数料ハ撚絲一束ニ付金壹錢ノ割合トス

附 則

第七條 本規程ハ當分ノ内秩父向以外ノ撚絲ニ對シ之ヲ適用セス

票紙請求書様式

第	氏名印	品種口	合	回	一	束	東	量	日	檢	印	摘	票
號	氏名印	品種口	合	回	束	東	量	日	檢	印	摘	票	票

前橋撚絲同業組合共同荷扱所規程施行細則

- 第一條 共同荷扱所ニ左ノ職員ヲ置ク組合職員中ヨリ組長之ヲ命免ス
所長 一名 主任検査員 一名 補助検査員 若干名
- 第二條 組長ハ必要アリト認ムルトキハ若干名ノ商議員ヲ囑託ス

- 商議員ハ共同荷扱所ニ關スル事項ニ付組長ノ諮詢ニ應シ又ハ意見ヲ述フルコトヲ得
- 第三條 所長ハ共同荷扱所ノ事務ヲ統轄シ其ノ職員ヲ指揮監督ス
主任検査員ハ所長ノ命ヲ受ケ撚絲検査ニ關スル一切ノ事務ヲ擔任ス
補助検査員ハ所長及主任検査員ノ命ヲ受ケ庶務ヲ分擔ス
- 第四條 共同荷扱所規程第三條ノ票紙請求書ヲ受理シタルトキハ該請求書記載ノ東數ト現品トヲ對照調査シ定額手數料ヲ徵收シタル上票紙及受檢番號札ヲ交付スルモノトス
- 第五條 検査ハ受檢番號順ニ之ヲ行ヒ検査済ノモノハ逐次検査室外ニ搬出スルモノトス
- 第六條 検査室ニハ當該受檢撚絲關係者以外ノ者ヲ立入ラシメサルモノトス
- 第七條 共同荷扱所ハ検査成績ヲ組長ニ日報シ其ノ寫ヲ秩父織物工業組合ニ送附スルモノトス
- 第八條 共同荷扱所ノ收入及支出ハ傳票ヲ添付シ毎日組長ニ報告スルモノトス
- 第九條 共同荷扱所規程第四條ノ執務時間ハ日曜祭日ヲ除キ左記ノ通トス
四月一日ヨリ七月二十日 (自午前八時—至午後四時)
七月廿一日ヨリ八月廿一日 (自午前八時—至午後二時)
九月一日ヨリ十月卅一日 (自午前八時—至午後四時)
十一月一日ヨリ翌年三月卅一日 (自午前九時—至午後四時)
事務ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ休日及執務時間外ト雖執務スヘキモノトス

前橋撚絲同業組合組合員名簿

ハ賣買專業
ハ製造賣買兼業
ハ製造專業

第一區

町名番地	業種符號	氏名	町名番地	業種符號	氏名	町名番地	業種符號	氏名
南曲輪町 四	工	大熊龍作	南曲輪町 五	工	牧野松次郎	六 供 二	〇	根岸寶
同	工	志村末吉	同	〇	松井道藏	同	工	小林治作
同	工	水田榮作	同	工	阿部善作	同	工	石田庄八
同	工	神成増造	同	工	塚田喜一郎	同	工	信澤角太郎
同	〇	中島録三郎	前代田 六	工	須川金治郎	同	工	加藤龜吉
同	工	池田松太郎	同	工	名塚友吉	紅雲町 元	工	内海莊司
同	工	川出五郎作	同	工	久保重藏	群馬郡石倉	工	内田松三
同	工	松本由惠	同	工	反町力平	同	工	岡部倉造
同	〇	南雲豊吉	六 供 二	工	竹内燃會社	同	工	同
同	〇	中原仙藏	片貝町 〇	工	山本トメ	高田町 九七	工	布施繁次郎
同	〇	下田末吉	高田町 九七	工	近藤重次郎	同	工	金子馬次郎

第二區

重要物産同業組合法

(明治三十三年三月七日)
法律第三十五號

(沿革) 大正五年三月法律第十五號改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル重要物産同業組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

重要物産同業組合法

- 第一條 重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 重要物産及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル
- 第三條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的ト爲ス
- 第四條 同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス
- 第五條 同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ同業組合及同業組合聯合會ハ法人トス

第七條 同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 同業組合及同業組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

- 一 組長 一名
- 一 副組長 若干名
- 一 評議員 若干名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置ク事ヲ得
役員ハ同業組合ニ於テハ組員中ヨリ同業組合聯合會ニ於テハ聯合會ヲ組織スル同業組合ノ組員中ヨリ之ヲ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ必要アルトキハ組員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

第九條 組長ハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任ス

副組長ハ組長ノ事務ヲ輔佐シ組長故轄アルトキ之ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮詢ニ應ジ及業務施行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

副組長及評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

組長副組長共ニ故障アルトキハ評議員之ヲ代理ス

第十條 同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ検査規定ヲ設ケ組員ノ營業品ヲ検査スルコトヲ得
同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徴シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十條ノ二 前條第一項ノ検査ヲ行フ同業組合及同業組合聯合會ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ
検査員ノ選任及解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三 同業組合及同業組合聯合會ハ前條ノ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ四 農商務大臣ハ重要輸出品ニ關スル同業組合又ハ同業組合聯合會ノ申請アルトキ又ハ必要ト認ムルトキハ其ノ役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル役員ノ解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
重要輸出品ノ種類ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第十一條 同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算並徴收法ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算及業務成績ハ毎年少クトモ一回組合員ニ公示シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ事務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又其ノ諮問アルトキハ答申スヘシ

第十三條 農商務大臣ハ同業組合又ハ同業組合聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ經費ノ豫算又ハ其ノ徴收法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合ノ地區ノ範圍、營業ノ種類若ハ定款ノ變更ヲ命ジ又ハ同業組合聯合會ヘノ加入若ハ同業組合聯合會ヨリノ脱退ヲ命スルコトヲ得

第十五條 同業組合若クハ同業組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シ又ハ其ノ目的ニ違背シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ農商務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 同業組合若クハ同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止
- 二 役員ノ解職

三 決議ノ取消

第十六條 同業組合若クハ同業組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 地方長官ハ其ノ管内ニ於ケル同業組合及同業組合聯合會ヲ監督シ必要アルトキハ意見ヲ具シ農商務大臣ノ處分ヲ請フヘシ

第十八條 農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會ニ關シ其ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十九條 第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ二 同業組合及同業組合聯合會ノ役員第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違背シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ三 同業組合及同業組合聯合會ノ役員検査員其ノ他事務ニ從事スル者正當ノ理由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ本法ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ之ヲ忌避シタルトキ又ハ職務ノ執行ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十九條ノ四 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證票若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ノ二 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約東シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十條ノ三 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十條ノ四 第二十條ニ掲グル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第二十條ノ二ニ掲グル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附 則
第二十一條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

第二十二條 重要輸出品同業組合法ニ依リテ設立シタル組合及聯合會ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第二十三條 他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ準用スヘキモノト定メタル場合ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ規定ヲ準用シ重要輸出品同業組合法中ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ之ニ相當スル本法ノ規定ヲ準用ス

附 則 (大正五年三月法律第一五號)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正五年五月勅令第一二三號)

本法施行前選任セラレタル検査員ニ付テハ本法施行後一月内ニ其ノ選任ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ期間内ニ認可ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ期間滿了ノ日、申請ニ對シ不認可ノ指令アリタルトキハ其ノ指令ノ日ニ於テ検査員ハ解任セラレタルモノト看做ス

検査員ハ前項解任ノ日迄從前ノ例ニ依リ職務ヲ行フコトヲ得

前三項ノ規定ハ本法ニ依リタル他ノ法律ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ニ關シ之ヲ準用ス

重要物産同業組合法施行規則

(大正五年五月二十九日)
(農商務省令第八號)

(沿革) 大正七年七月省令第二四號、同九年八月同第二五號改正
重要物産同業組合法施行規則左ノ通改正ス

重要物産同業組合法施行規則

- 第一條 同業組合ノ名稱中ニハ同業組合ナル文字ヲ用ウヘシ
同業組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ同業組合ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス
- 第二條 組合ノ地區ハ一郡市以上一府縣以下ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 組合ヲ設置セムトスルトキハ五名以上ノ營業者發起人ト爲リ組合地區ヲ管轄スル地方長官ニ發起ノ認可ヲ申請スヘシ
前項ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
 - 一 組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類
 - 二 組合ノ地區
 - 三 組合ノ目的及業務ノ概目
 - 四 組合設置ノ事由
- 第五條 組合員タルヘキ者ノ數但シ組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ其ノ營業ノ種類毎ニ之ヲ區別スヘシ
- 第六條 組合ノ創立費及收支ノ概算
- 第四條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ組合員タルヘキ者ニ前條第二項ニ掲ケル事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ
- 第五條 法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作り遲滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ
創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ
前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ
- 第六條 定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス
組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ前項ノ同意ハ種類毎ニ三分ノ二以上ナルコトヲ要ス
- 第七條 創立總會ニ於テハ役員ヲ選舉シ最初ノ事業年度ノ經費ノ豫算及徵收法ヲ議決スヘシ
- 第八條 組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ
- 第九條 第十九條第一項、第二十條、第二十二條第二項條三項及第二十七條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス
- 第十條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ
前項ノ認可アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ告示スヘシ
- 第十一條 發起人ノ發起ノ認可アリタル後一年內ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキハ發起ノ認可ハ其ノ効力ヲ失フ
- 第十二條 農商務大臣組合ノ設置ヲ命シタルトキハ地方長官ハ創立委員ヲ選定シ其ノ氏名及住所ヲ公告スヘシ

創立委員ハ定款ヲ作り農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
 組合ノ設置アリタルトキハ創立委員ハ遲滞ナク組合員ノ總會ヲ招集スヘシ
 第五條第二項、第七條、第八條、第十九條第一項、第二十條及第二十二條第二項第三項ノ規定ハ前項總會
 ニ之ヲ準用ス

第十三條 組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 業務
- 三 名稱
- 四 地區及組合員ノ營業ノ種類
- 五 主タル事務所及従タル事務所ノ所在地
- 六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 七 組合員ノ權利義務ニ關スル規定
- 八 役員ノ定數權限及任免ニ關スル規定
- 九 業務ノ執行ニ關スル規定
- 十 會議ニ關スル規定
- 十一 會計ニ關スル規定

仲裁判斷又ハ調停ヲ爲ス組合ニ在リテハ之ニ關スル規定ヲ定款ニ記載スヘシ
 聯合會ヲ組織スル組合ノ定款ニハ代表員ノ選舉ニ關スル規定ヲ記載スヘシ代表員事故アルトキ之ニ代ルヘ
 キ豫備代表員ヲ設クル場合其ノ選舉ニ關スル規定ニ付亦同シ

第十四條 定款ニ主タル事務所ノ位置ヲ記載セサル組合ニ在リテハ之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シ

タルトキ亦同シ

第十五條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合員中ヨリ選舉シタル代議員ヲ以テ之ヲ組織ス

代議員ノ定數任期及選舉ニ關スル規定ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十六條 組合ノ業務ハ組合會ノ決議ニ依リ組長之ヲ行フ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 組長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ毎事業年度少クトモ一回一定ノ時期ニ於テ組合會ヲ招集スヘシ

組長必要ト認ムルトキハ組合會ヲ臨時ニ招集スルコトヲ得

代議員定數ノ五分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ示シ組合會ノ招集ヲ請求シタルトキ

ハ組長ハ之ヲ招集スヘシ評議員會カ第二十四條第二號ノ規定ニ依リ報告ヲ爲ス爲組合會ノ招集ヲ請求シタ

ルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間内ニ組合會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ

招集スルコトヲ得

第十八條 組合會ヲ招集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シテ定款ノ定ムル方

法ニ依リ其ノ通知ヲ發スヘシ

組合會ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノ決議決ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アル

トキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ期間ハ定款ノ規定ヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十九條 組合會ニ於テハ代議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

前項ニ定メタル員數ノ代議員出席セサルトキハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此
 ノ場合ニ於テハ各代議員ニ對シテ其ノ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ更ニ一月内ニ第二回ノ組合會ヲ招集スル

コトヲ要ス

第二十條 組合會ノ議決ハ出席シタル代議員ノ過半数ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

第二十一條 定款ノ變更ハ組合會ニ於テ代議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

第二十二條 組合員ノ少數ナル組合ニ在リテハ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フルコトヲ得

第二十三條 組合ニ評議員會ヲ置ク但シ組合員少數ナル組合ニ在リテハ評議員會ヲ置カサルコトヲ得

第二十四條 評議員會ノ職務權限左ノ如シ

一 組長ヨリ組合會ニ提出スル議案ヲ審査シ組長ニ對シ意見ヲ述フルコト

二 組合ノ財産及業務ノ狀況ヲ監査シ毎事業年度一回以上之ヲ組合會ニ報告スルコト

三 組長ノ諮詢ニ應スルコト

四 其ノ他定款ノ規定ニ依リ其ノ職務權限ニ屬スル事項

第二十五條 評議員會ハ組長之ヲ招集ス

第二十六條 前項ノ場合ニ於テ組長一週間内ニ評議員會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十七條 組合會、總會及評議員會ノ議長ハ決議録ヲ作り左ノ事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ記名捺

印スヘシ

一 開會ノ日時及場所

二 代議員若ハ評議員ノ定數又ハ組合員ノ數

三 出席者ノ員數

四 議事ノ要領

五 議決シタル事項

六 賛否ノ數

第二十八條 組合ノ役員及検査員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第二十九條 組合ハ検査員ノ資格、選任、解任及給與ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變

更セムトスルトキ亦同シ

第三十條 組合ノ検査員ノ服務ニ關スル規程中ニハ服務紀律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クヘシ

組合ノ検査員ノ職務ヲ停止シ又ハ給與ヲ減額セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 組合ノ役員及検査員ノ解任認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十二條 組合ノ事業年度ハ一年トス

第三十三條 組合經費ノ豫算及徴收法ノ認可申請ハ事業年度二月前ニ、經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ事業年度後三月内ニ之ヲ爲スヘシ

第三十四條 組合ニ於テ定款ノ施行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十五條 役員ノ缺ケタル場合ニ於テ補缺選舉ノ手續ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第三十六條 組合解散シタルトキハ組長及副組長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ組合會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ地方長官之ヲ選任ス

第三十八條 清算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十九條 清算カ結了シタルトキハ清算人ハ其ノ結果ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第四十條 聯合會ヲ設置若ハ解散シ之ニ加入シ又ハ之ヨリ脱退スルニハ組合會ノ決議ニ依ルヘシ

前項ノ決議ハ代議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

脱退ニ關スル組合會ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 聯合會ヲ設置セムトスルトキハ各組合ニ於テ選定シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ全員ノ同意ヲ以テ定款ノ作成其ノ他必要ナル事項ヲ議定スヘシ

第四十二條 聯合會ニ總會ヲ置ク

總會ハ所屬組合ノ代表員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十三條 第一條、第十二條、第十三條第二項、第十四條、第十六條乃至第二十條ノ二、第二十一條第一項第四項及第二十三條乃至第三十九條ノ規定ハ聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 地方長官ハ組合又ハ聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第四十五條 組合ニ關シ左ニ掲ケル事項ハ之ヲ地方長官ニ委任ス

一 定款變更ノ認可

二 役員ノ選任並検査員ノ選任及解任ノ認可

三 重要物産同業組合法第十條ノ四第一項ノ規定ニ依ル役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任

四 重要物産同業組合法第十條ノ四第二項ノ規定ニ依ル役員ノ解任ノ認可

五 検査員ノ服務ニ關スル規程ノ認可

六 經費ノ豫算及徴收法ノ認可

七 經費ノ豫算又ハ其ノ徴收法ノ變更ヲ命スルコト

八 地區ノ範圍、營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命スルコト

九 重要物産同業組合法第十五條第二號及第三號ノ處分
 前項ノ規定ハ一府縣内ヲ區域トスル聯合會ニ付之ヲ準用ス
 第四十六條 地方長官ハ前條ノ規定ニ依リテ處理シタルトキハ第一項第五號ノ場合ヲ除クノ外農商務大臣ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ但シ前條第一項第二號乃至第四號ノ報告ハ組長及副組長ニ限ル
 第四十七條 本則中地方長官トアルハ主タル事務所所在地ノ地方長官トス
 第四十八條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ又ハ地方長官ニ對シテ爲スヘキ事項ハ聯合會ノ區域ニ以上ノ府縣ニ亙ル場合ニ於テハ農商務大臣ニ於テ又ハ農商務大臣ニ對シテ之ヲ爲スモノトス
 組合又ハ聯合會ノ區域ニ以上ノ府縣ニ亙ル場合ニ於テハ關係地方長官ニ於テモ組合又ハ聯合會ニ對シ其ノ管内ニ於ケル業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得
 第四十九條 本則中府縣、郡市トアルハ府縣制、郡制市制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ該當ス
 第五十條 農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附 則

第五十一條 本則ハ大正五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第五十二條 本則施行前ニ爲シタル發起ノ認可ハ第十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ本則施行ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第五十三條 本則施行前組合又ハ聯合會設置認可ノ申請アリタル場合ニ於テハ本則施行後六月間仍從前ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得
 第五十四條 組合又ハ聯合會ノ定款ニシテ本則ノ施行ニ依リ變更ヲ要スルモノニ付テハ本則施行後一年內ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ
 第五十五條 明治三十四年農商務省令第十三號ハ之ヲ廢止ス

撚絲取締規則

(大正十三年六月二十七日) 改正(昭和四年七月十日)
 (群馬縣令第三十三號) (群馬縣令第三十一號)

第一條 本則ニ於テ撚絲ト稱スルハ生絲、玉絲及絹絲ニ撚加工ヲ施シタルモノヲ謂フ
 第二條 撚絲ニハ金屬鹽類、脂肪類、ワセリン、パラフィン、澱粉類、糖分類、蛋白質類其ノ他絲質ヲ損傷スル材料ヲ附着又ハ施用スルコトヲ得ス但シ御召織物用撚絲、強撚絲ニ限り澱粉類ヲ施用スルコトヲ妨ケス
 第三條 撚絲工程ノ爲メ必要ナルトキハ鹼化性油類ニ限り左ノ範圍内ニ於テ施用スルコトヲ得

種別	生		玉	
	並撚	強撚	並撚	強撚
甲	千分ノ七	千分ノ十三	千分ノ十三	千分ノ十五
乙	千分ノ十三	千分ノ十三	千分ノ十五	千分ノ十五
丙	千分ノ二十	千分ノ二十	千分ノ二十	千分ノ二十

本繭ノ器械製絲ニ依ル本絲ノ下等品
 伸絲及本絲ノ下等品
 伸絲及其ノ他劣等品
 玉絲檢査所格付ニ依ル優等品及一等品
 同等及三等品
 四等品以下ノモノ

第四條 撚絲ノ撚度回數公差及水分量ハ左ノ限度ヲ超過スルコトヲ得ス
 一 撚度 表示撚度數百回ニ付平均十回
 二 回数 表示回数百回ニ付
 イ、三回間ノ撚度十回以上ハ平均三回
 ロ、三回間ノ撚度十回以下ハ平均五回

- 三 水分量 撚絲乾燥量ニ對シ生絲撚十一%、玉絲撚十二・五%
- 第五條 撚絲ノ生産業者及販賣業者ハ撚絲一括毎ニ別記様式ノ票紙ヲ貼附シ之ニ記名捺印スヘシ
- 第六條 知事ハ必要ト認ムルトキハ營業者ノ生産又ハ販賣ニ係ル一定ノ撚絲ヲ提出セシメ又ハ當該官吏々員ヲシテ必要ト認メタル場所ニ臨檢セシメ撚絲帳簿工場其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 第七條 前項ノ場合ニ於テハ營業者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第七條 前條ノ職務ヲ執行スル官吏々員ニハ左記様式ノ票證ヲ携帯セシム

第 號

官職氏名	群
裏	馬縣
	印
	縣

撚絲取締吏員之證

- 第八條 他府縣ノ生産ニ係ル撚絲ヲ縣内ニ移入シタル場合ニ於テハ本則ヲ適用ス
- 第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
 - 一 第二條、第三條、第五條ノ規定ニ違反シタル生産者
 - 二 第二條、第三條、第五條ノ規定ニ違反スル撚絲ヲ情ヲ知りテ不正ニ販賣シタル者
 - 三 第六條第一項ノ職務執行ヲ拒ミタルモノ
- 第十條 委託ニ依リ撚絲ノ質撚ヲ爲ス者ハ本則ノ適用ニ付テハ生産者ト看做ス
- 第十一條 營業主ハ代理人使用其ノ他從業者ニシテ本則ニ違シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本則ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

第十二條 營業主カ法人未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ノ規定ニ依リ營業主ニ適用スヘキ罰則ノ之ヲ法人ノ代表者又ハ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和四年七月改正ハ) 同年八月一日ヨリ施行

大正九年四月群馬縣令第四十八號撚絲取締規則及同年四月群馬縣令第四十九號撚絲檢査規則ハ之ヲ廢止ス

票 紙 様 式

第 號	量 目	原絲名			撚 度	生 産 者	販 賣 業 者
		撚種類	合セ	絲數			
		榨	周	油	提	回	
		圓ノ	圍ノ	使	數	數	
				用			
				名			

工業原料及製品ノ試験鑑定及檢定並圖案調製依頼手續

(昭和四年七月十日) 群馬縣告示第二百七十二號

- 第一條 群馬縣工業試驗場(分場高崎、伊勢崎、桐生、館林)ニ於テ工業原料及製品ノ試験鑑定及檢定(分析ヲ含ム)並圖案調製ノ依頼ニ應ス
- 第二條 前條ノ依頼ヲ爲ス者ハ本縣商工業業者若ハ其ノ團體タルコトヲ要ス

第三條 群馬縣工業試驗場ニ於テ試驗鑑定及檢定又ハ調製ノ必要ナシト認メ又ハ支障アルトキハ依頼ニ應セサルコトアルヘシ

第四條 試驗鑑定及檢定又ハ調製ノ依頼ヲ爲サムトスル者ハ口頭若ハ書面ヲ以テ群馬縣工業試驗場長ニ申出ツヘシ

第五條 撚絲ノ檢定ハ撚絲取締規則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

第六條 撚絲ノ檢定ヲ了シタルトキハ別記様式ニ依ル檢定證ヲ交付ス

第七條 撚絲ノ檢定ニ付異議アルトキハ其ノ理由ヲ具シ再檢定ヲ依頼スルコトヲ得

第八條 撚絲ノ回数及油分ノ檢定ニ付テハ一件毎ニ手数料拾五錢ヲ納付セシム

再檢定ノ場合ニ在リテモ亦同シ

第九條 試驗鑑定及檢定ニ付テハ左ノ區分ニ依リ該品ヲ提出スヘシ但シ群馬縣工業試驗場ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ數量ヲ増減シ特種ノモノニ在リテハ其ノ品名數量ヲ別ニ指定ス

一 撚 絲 一 束 以上

二 其ノ他諸織維 一 摺 以上

三 染 織 物 三 十 七 種 以上

四 染 料 藥 品 四 瓦 以上但シ液体類ハ一立以上

五 圖案ノ調製ニ付テハ其ノ應用ニ供スヘキ物品ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ

第十條 試驗鑑定及檢定ノ成績又ハ調製圖案ハ依頼受理ノ順序ニ依リ之ヲ依頼者ニ交付ス

第十一條 試驗鑑定及檢定又ハ調製ノ依頼ニ應セサルモノニ付テハ依頼者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ提出シタル物品ヲ引取ルヘシ

前項ノ期間内ニ引取ヲ爲サス又ハ特ニ返送ノ申出ヲ爲ササルトキハ以後其ノ物品ニ對シテハ保管ノ責ニ任

セス

第十二條 供試品ハ(撚絲ヲ除ク)試驗後殘餘アルモノ之ヲ返戻セス但シ貴重品ニ付テハ此ノ限りニ在ラス

第十三條 試驗鑑定及檢定ノ爲又ハ不可抗力ニ依リテ生スル損害ニ付テハ其ノ賠償ノ責ニ任セス

附 則

本手續ハ昭和四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年三月群馬縣告示第八十六號工業原料及製品ノ試驗鑑定並圖案調製依頼手續ハ之ヲ廢止ス

(様式)

撚 絲 檢 定 證			
第 號		提出者	
原絲名	出目紙號	提量票番	
撚種類	回数	成	
回数	撚度	績	
撚度	油分		1000
油分	水分		%
水分			
昭和 年 月 日			
群馬縣工業試驗場			

原動機取締規則

(昭和六年六月十九日)
群馬縣令第二十六號

二〇

第一條 本令ニ於テ原動機ト稱スルハ蒸氣機關、瓦斯機關、石油機關及電動機ヲ謂フ
汽罐及蒸罐ハ之ヲ原動機ト看做ス

第二條 原動機ヲ設置セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

一 設置者ノ本籍、住所、職業、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名)

二 事業ノ種類

三 原動機ノ種類

四 原動機使用ノ目的

五 原動機ノ設置地(周圍五十五メートル(約三十間)以内ノ圖面(縮尺六百分ノ一以上トシ原動機ニ依リ作業ヲ爲ス建物ノ敷地ヲ區劃シ敷地ノ坪數、敷地内建物ノ坪數及建物相互ノ距離ヲ記入シ且原動機ノ位置ヨリ近接シタル他人ノ住家其ノ他ノ建物ヘノ直徑距離ヲ記入シタルモノ)ヲ添付スヘシ)

六 原動機及煙突調書

七 原動機ト連絡スル機械ノ種類、名稱及箇數(配置圖ヲ添付スヘシ)

八 原動機設置場所ノ構造仕様書(圖面ヲ添付スヘシ)

九 一日ニ於ケル原動機使用ノ開始及終了ノ時刻

十 震動、騒音ヲ發シ塵埃、粉末ヲ飛散シ有害瓦斯ヲ發散シ又ハ汚物ヲ生スルモノニ在リテハ其ノ除害方

法ノ詳細

十一 原動機設置ノ基礎工事仕様書(圖面ヲ添付スヘシ)

十二 原動機工事竣功豫定期日

第二號乃至第十一號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ該當事項ヲ具シ亦前項ニ同シ但シ検査證ヲ有スルモノニ在リテハ之ヲ添付スヘシ

第三條 現ニ工場法ノ適用ヲ受ケ又ハ受クヘキ工場以外ノ場所ニ實效馬力五馬力未満ノ電動機ヲ設置セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ所轄警察署長ノ許可ヲ受クヘシ

一 設置者ノ本籍、住所、職業、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名)

二 事業ノ種類

三 電動機ノ種類、箇數及實效馬力

四 電動機使用ノ目的

五 一日ニ於ケル使用開始及終了ノ時刻

六 電動機設置地(附近ノ見取圖ヲ添付スヘシ)

第二號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ其ノ該當事項ヲ具シ亦前項ニ同シ工場以外ノ場所ニ於テ臨時ニ移動式石油機關ヲ使用セムトスル者ハ第一項各號ノ事項ヲ具シ豫メ使用地所轄警察署長ニ之ヲ届出ツヘシ

第四條 汽罐又ハ蒸罐ヲ修繕セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ検査證ヲ添へ着手前知事ニ之ヲ届出ツヘシ

一 修繕ノ事由

二 修繕ノ箇所(圖面ヲ添付スヘシ)

二一

第五條

第二條第六號ノ規定ニ依ル原動機及煙突調書ハ左記各項ニ依ルヘシ

汽罐調書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 汽罐ノ種類及箇數(平面圖、側面圖及縱斷面圖ヲ添付スヘシ)
 - 二 汽罐主要部ノ寸法
 - 三 罐板ノ種類、材料及厚サ
 - 四 水管又ハ火管ノ種類、材料、箇數及寸法
 - 五 支柱ノ種類、材料、寸法及心距
 - 六 鉄ノ種類、材料、寸法及心距
 - 七 最大汽壓
 - 八 爐格面積
 - 九 安全瓣ノ種類、箇數及寸法
 - 十 燃料ノ種類及一日ノ豫定消費量
 - 十一 給水ノ方法
 - 十二 製作所名、製作年月日及經歷
- 蒸氣機調書ハ汽罐調書ニ準スヘシ
- 蒸氣機關調書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ
- 一 蒸氣機關ノ種類及箇數

- 二 汽筒ノ直徑
 - 三 衝程ノ寸法
 - 四 一分間ノ廻轉數
 - 五 實效馬力
 - 六 製作所名、製作年月日及經歷
- 瓦斯機關調書又ハ石油機關調書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ
- 一 種類及箇數
 - 二 汽筒ノ直徑
 - 三 衝程ノ寸法
 - 四 一分間ノ廻轉數
 - 五 實效馬力
 - 六 燃料ノ種類及一日ノ消費量、瓦斯ニ在リテハ供給所名
 - 七 汽筒ノ冷却方法及設備
 - 八 排氣方法
 - 九 製作所名、製作年月日及經歷
 - 十 燃料貯藏所ノ位置及構造仕様書
- 電動機調書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ
- 一 電動機ノ種類及箇數
 - 二 周波數
 - 三 使用電壓

- 四 使用電流
 - 五 一分間ノ廻轉數
 - 六 實效馬力
 - 七 電力供給所名
 - 八 製作所名、製作年月日及經歷
- 煙突調査ニハ左記事項ヲ記載スヘシ
- 一 煙突ノ口徑、高さ、材料ノ種類、厚サ及構造(圖面ヲ添付スヘシ)
 - 二 支柱、支線其ノ他倒壞豫防設備ノ構造並材料ノ種類及寸法
 - 三 避雷針ニ接続スル導線ノ種類及太サ並地中銅板ノ寸法及埋没ノ方法、導線ニ依ル避雷針ト地中銅板トノ接続方法

第六條 原動機ヲ設置セムトスル場所ハ原動機又ハ之ニ依リ作業ヲ爲ス建物ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有スルコトヲ要ス

- 一 御陵墓へ三百六十メートル(約百九十八間)以上
 - 二 御用邸へ五百五十メートル(約三百間)以上
 - 三 官公署、學校、病院、社寺等へ百メートル(約五十五間)以上
 - 四 劇場、活動寫眞館、寄席又ハ觀物場其ノ他公衆會同ノ用ニ供スル建物へ三十メートル(約十六間)以上
 - 五 公園又ハ風致保護ノ爲ト必要ト認ムル場所へ九十メートル(約五十間)以上
 - 六 火藥、爆藥其ノ他危險物ノ製造所又ハ貯藏所へ四百三十六メートル(約二百四十間)以上
- 特別ノ事由アリト認ムルトキハ知事ハ前項ノ距離ノ増減ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 第一項各號ニ該當スル場所ト雖モ著シク公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ知事ハ原動機ノ設置ハ之ヲ

許可セサルコトアルヘシ

第三條 第一項ノ原動機ニ付所轄警察署長ハ前二項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 原動機設置場所ノ構造及原動機ノ附屬設備ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

- 一 原動機ノ設置場所ハ作業場ト區別又ハ區劃シ適當ナル出入口ヲ設クルコト
- 二 原動機(電動機ヲ除ク)設置場所ノ地盤ハコンクリート、煉瓦其ノ他不滲透質材料ヲ以テ之ヲ覆フコト
- 三 汽罐設置場所ノ屋根ト罐體トハ適當ノ距離ヲ保タシメ且屋根ハ不燃質材料ヲ以テ之ヲ覆フコト
- 四 石油機關又ハ瓦斯機關設置場所ノ内面ハ不燃質材料ヲ以テ之ヲ被覆スルコト
- 五 汽罐又ハ蒸罐ニハ適當ナル保安裝置ヲ設クルコト
- 六 原動機及之ト連絡スル機械ノ廻轉部其ノ他危險ナル箇所ニハ適當ナル豫防裝置ヲ設クルコト
- 七 石油、重油、「ガソリン」等ノ燃料ハ原動機設置場所内ニ之ヲ貯藏セサルコト
- 八 電動機ニハ電流計及信號燈ヲ裝置スルコト

第八條 煙突ノ構造ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

- 一 材料ハ煉瓦、石、鐵筋コンクリート、又ハ金屬其ノ他不燃質物ヲ用フルコト
- 二 高さハ地上十八メートル(約六十尺)以上ト爲スコト
- 三 金屬製以外ノモノニ在リテハ避雷裝置ヲ設クルコト
- 四 掃除裝置ヲ設クルコト
- 五 金屬製ノ煙突ハ木材其ノ他ノ燃質材料ト一五・一五種(五寸)以上ノ間隔ヲ有セシメ又ハ金屬以外ノ不燃質材料ヲ以テ之ヲ被覆スルコト
- 六 金屬製以外ノ煙突ハ他人ノ住家ニ對シテハ煙突ノ高さノ三分ノ一以上、汽罐ニ對シテハ四分ノ一以上

ノ距離ヲ保タシムルコト

二六

第九條 第七條第一號乃至第三號及第八條第二號ノ制限ハ原動機ノ種別、大小、構造、事業ノ種類又ハ土地ノ狀況ニ依リ之カ斟酌ヲ爲スコトアルヘシ

第十條 第二條ノ許可ヲ受ケタル汽罐又ハ蒸罐ハ罐體被覆前知事ニ届出テ水壓試験ヲ受クヘシ

第四條ノ規定ニ依リ修繕ノ届出ヲ爲シタル汽罐又ハ蒸罐ノ工事竣功シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ但シ罐體ノ被覆ヲ除去シタルモノニ在リテハ其ノ被覆前届出テ水壓試験ヲ受クヘシ

第一項又ハ第二項但書ノ規定ニ依ル水壓試験ニ合格シ据付工事竣功シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

煉瓦造、石造、又ハ鐵筋コンクリート造ノ煙突ノ基礎コンクリート工事完成シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第二條第六號及第五條第七項ノ煙突工事竣功シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第二條ノ規定ニ依リ知事ノ許可ヲ受ケタル蒸氣機關、瓦斯機關又ハ石油機關ノ据付工事竣功シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタルトキハ様式第一號ノ検査證ヲ交付ス

第十二條 前條ノ規定ニ依ル検査證ノ交付ヲ受ケタル後ニ非レハ原動機ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ電動機及農業用ニ供スル移動式石油機關ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 原動機設置者検査證ヲ紛失、滅失又ハ毀損シタルトキハ事由ヲ具シ五日以内ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第十四條 知事ハ汽罐又ハ蒸罐及其ノ附屬設備ニ付毎年一回期日ヲ指定シ定期検査ヲ行フ但シ必要アリト認ムルトキハ臨時検査ヲ行フコトアルヘシ

第十五條 検査期日ノ指定ヲ受ケタルトキハ設置者ハ検査ノ前日迄ニ汽罐ニ在リテハ罐體ヲ冷却シ、罐水ヲ排除シ、人孔蓋、泥孔蓋、爐格及火橋、蒸罐ニ在リテハ蒸罐蓋、機關ニ在リテハ汽筒蓋及曲柄栓ノ金套及軸

承ノ上半ヲ取外シ検査ニ要スル部分ヲ洒掃スル等検査ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第十六條 原動機設置者原動機ヲ知事ノ指定シタル保險業者ノ保險ニ附シ其ノ検査證ヲ有スルトキハ知事ハ第十四條ノ検査ハ之ヲ省略スルコトアルヘシ

原動機設置者前項ノ検査證ヲ受ケタルトキハ検査證ノ寫ヲ添ヘ知事ニ之ヲ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十七條 原動機検査ノ爲必要ト認ムルトキハ知事ハ罐體ノ被覆ヲ除去シ水壓試験又ハ罐板ノ穿孔、綴銀ノ切斷若ハ分解其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 検査ニ因リ生シタル費用又ハ損害ハ原動機設置者又ハ使用者ノ負擔トス

第十九條 第十條ノ規定ニ依ル検査ニハ設置者又ハ其ノ代理者、第十四條ノ規定ニ依ル検査ニハ設置者又ハ其ノ代理者及取扱主任者若ハ代務者之ニ立會フヘシ

第二十條 原動機設置者若ハ使用者又ハ取扱主任者若ハ代務者ハ左記事項ヲ遵守スヘシ

- 一 安全瓣、水準計及汽壓計ハ隨時之カ検査ヲ爲シ常ニ異状ナカラシムヘク注意ヲ爲スコト
- 二 汽罐又ハ蒸罐ハ安全瓣ノ封鎖ヲ濫ニ變更若ハ開封シ又ハ検査證記載ノ壓力ヲ超エテ之ヲ使用セサルコト
- 三 汽罐、石油機關又ハ瓦斯機關ノ設置若ハ使用ノ場所及其ノ附近ニ於テ燃質物ヲ乾燥、貯藏又ハ放置セサルコト

第二十一條 煙突ハ毎月三回以上夜間之ヲ掃除スヘシ

第二十二條 煙突ノ避雷裝置ハ毎年一回梅雨期前之ヲ検査シ必要アルトキハ之カ修繕ヲ爲スヘシ

二七

第二十三條 原動機設置者、汽罐又ハ蒸罐ニ異狀ヲ生シタルトキハ適當ノ處置ヲ爲シ其ノ原因及狀況ヲ具シ連ニ知事ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十四條 原動機検査證ハ原動機ノ附近看易キ箇所ニ之ヲ掲ケヘシ

第二十五條 汽罐、蒸罐、蒸氣機關、石油機關又ハ瓦斯機關ノ設置者ハ其ノ取扱主任者及代務者ヲ定メ取扱主任者又ハ代務者ニ非サル者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得ス

前項ノ取扱主任者及代務者ヲ選任シタルトキハ設置者ハ其ノ本籍、住所、氏名、生年月日及履歴ヲ具シ選任後遲滞ナク知事ニ之ヲ届出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

第二十六條 原動機取扱主任者又ハ代務者ハ常ニ原動機ノ取扱ニ注意シ異狀ヲ認メタルトキハ速ニ之ヲ設置者ニ通知スヘシ

第二十七條 原動機取扱主任者又ハ代務者ヲ不適當ト認ムルトキハ知事ハ原動機ノ設置者ニ對シ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十八條 原動機、其ノ設置場所又ハ附屬設備カ破壊若ハ腐朽又ハ震動、騒響其ノ他ノ事由ニ因リ危害ヲ生シ又ハ公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ知事ハ原動機ノ設置者ニ對シ之カ使用ノ制限、停止又ハ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ知事ハ原動機設置ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ七日以内ニ知事(第三條ノ原動機ニ在リテハ所轄警察署長)ニ之ヲ届出ツヘシ但シ第四號ノ場合ニ於テハ戶籍法第一百七條ノ届出義務者、第五號ノ場合ニ於テハ清算人ニ於テ其ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 設置者ノ本籍、住所、職業及氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名)ヲ變更シタルトキ
- 二 法定代理人、保佐人又ハ夫ニ異動アリタルトキ
- 三 原動機ノ使用ヲ廢止シ又ハ引續キ六箇月使用ヲ休止シタルトキ
- 四 設置者若クハ使用者死亡シ又ハ所在不明ト爲リタルトキ
- 五 法人解散シタルトキ

第三十一條 前項第一號、第三號前段、第四號及第五號ノ場合ニ於テ検査證ヲ有スルモノニ有リテハ之ヲ添付スヘシ

第三十二條 前條ノ届出ヲ爲シタル承繼人ハ第二條第一項若ハ第三條第一項ノ設置ノ許可ヲ受ケ又ハ第三條第三項ノ届出ヲ爲シタル者ト看做ス

第三十三條 未成年者又ハ禁治産者ノ提出スル書類ニハ法定代理人、準禁治産者又ハ妻ノ提出スル書類ニハ保佐人又ハ夫ノ連署ヲ要ス但シ營業ニ付成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者又ハ民法第十七條ノ規定ニ依ル

妻ニ附テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 本令ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ總テ原動機設置地所轄警察署ヲ經由スヘシ

第三十五條 當該官吏ハ原動機又ハ之ト連絡スル機械ノ設置又ハ使用ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得

第三十六條 原動機設置者若ハ使用者又ハ取扱主任者若ハ代務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 第二條又ハ第三條第一項若ハ第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第十二條、第二十條又ハ第二十五條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 三 第二十八條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキ
- 四 正當ノ理由無クシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ科料ニ處ス

- 一 第十七條ノ規定ニ依ル検査官吏ノ命シタル處置ヲ怠リタルトキ
- 二 第三條第三項、第四條、第十條、第十五條、第十九條、第二十一條乃至第二十四條、第二十五條第二項、第二十六條、第三十條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 第三十八條 原動機設置者又ハ使用者、營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者、禁治産者又ハ法人ナル場合ニ於テハ本令ニ依リ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス
- 第三十九條 原動機ノ設置者又ハ使用者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人、同居者、其ノ他ノ従業者ニシテ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

附 則

第四十條 本令ハ昭和六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十一條 大正十二年十一月群馬縣令第四十四號ニ依リ許可ヲ受ケタル原動機ハ本令ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタル者ト看做ス

第四十二條 大正十二年十一月群馬縣令第四十四號ニ依リ届出ヲ爲シタル原動機取扱主任者ニシテ本令施行ノ際

引續キ取扱ニ従事スル者ハ本令ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル者ト看做ス

第四十三條 大正十二年十一月群馬縣令第四十四號原動機取締規則ハ之ヲ廢止ス

- 九 原料及製品ノ種類(特殊ノモノニ付テハ其ノ製造方法)
 - 十 使用職工男女別數
 - 十一 始業及終業ノ時刻
 - 十二 工事着手及竣功年月日
 - 十三 敷地カ他人ノ所有又ハ占有ニ屬スルトキハ所有者又ハ占有者ノ承諾書
前項ノ願書ニハ左ノ圖面ヲ添附スヘシ
 - 一 敷地ノ周圍二百米以内ノ見取圖
 - 二 敷地内建築物ノ配置圖
 - 三 建築物各階ノ平面圖
 - 四 建築物ノ立面圖
 - 五 原動機、機械、動力傳導裝置及危害豫防裝置ノ配置圖
圖面ニハ縮尺ヲ記入シ増設、改築又ハ大修繕ノ場合ニ於テハ着色其ノ他ノ方法ニ依リ其ノ部分ヲ明示スヘシ
- 知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ第一項及第二項ニ掲クルモノ、外更ニ書類又ハ圖面ヲ提出セシムルコトアルヘシ
- 第三條 原動機取締規則第二條ノ許可願ハ第一項ノ願出ト併テ之ヲ爲スコトヲ得
 - 第四條 市街地建築物法施行區域ニ於テハ前條ノ願出ハ市街地建築物法又施行規則第四百十三條又ハ第四百四十四條ニ依ル認可申請又ハ届出ト併セテ之ヲ爲スコトヲ得
 - 第五條 工場ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場所ニハ之ヲ設置スルコトヲ得ス但シ第一號乃至第三號ノ場所ニ於テ規模作業ノ種類及土地ノ狀況等ニ依リ公害ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 官公署、學校、圖書館、社寺、病院、公園又ハ名勝地ト近接スル場所
- 二 火藥其ノ他危險ナル物品ノ貯藏若ハ取扱ヲ爲ス場所又ハ飲料水ノ水源又ハ貯水池ニ近接スル場所
- 三 保安上危險若ハ衛生上有害ナル工場又ハ有害物ヲ排出シ若ハ震動、音響、臭氣著シキ工場ニ付テハ人家稠密ノ場所
- 四 其ノ他知事ニ於テ公害アリト認ムル場所
- 第五條 業務ノ性質保安上危險若ハ衛生上有害ナル工場又ハ有害物ヲ排出シ若ハ震動、音響、臭氣著シキ工場ニ於テハ工業主ハ之カ豫防又ハ除害ノ設備ヲ爲スヘシ
- 第六條 許可ヲ受ケタル工場竣功シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
検査ノ結果支障ナシト認ムルトキハ使用認可證ヲ交付ス
工事ノ一部竣功シタルトキハ願出ニ依リ其ノ部分ニ付検査ノ上一部使用認可證ヲ交付スルコトアルヘシ
使用認可證ノ交付ヲ受ケタル後ニ非サレハ工場ヲ使用スルコトヲ得ス但シ支障ナシト認ムルトキハ假使用ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第七條 使用認可證ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ遲滞ナク届出テ其ノ再交付又ハ書換ヲ受クヘシ
- 第八條 工業主ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
 - 一 工場入口ニハ工場ノ名稱ヲ標示スルコト
 - 二 工場内見易キ場所ニ使用認可證ヲ掲示スルコト
 - 三 工場内ニハ適當ナル消防設備ヲ爲シ之ヲ有效ニ保持スルコト
 - 四 油浸襪類ハ之ヲ不燃性ノ容器ニ納メ完全ナル覆蓋ヲ爲スコト
 - 五 非常口及其ノ通路ハ常ニ避難ニ支障ナカラシムルコト
 - 六 非常口又ハ危險ナル場所ニハ適當ナル標示ヲ爲スコト

七 工場内ハ常ニ換氣、採光ヲ充分ナラシムルコト

八 工場ノ内外ハ常ニ清潔ニ保持スルコト

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ七日以内ニ知事ニ届出ツヘシ但シ工場法及之ニ基テ命令ニ依リ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一 事業ヲ開始シタルトキ

二 第二條第一項第一號、第二號前段、第三號後段、第九號又ハ第十二號ノ事項ヲ變更シタルトキ

三 事業ヲ廢止シタルトキ

四 本則ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキ

第九條 工業主變更シタルトキハ七日以内ニ双方運署シ知事ニ届出ツヘシ連署シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第十條 工場ノ建築物又ハ設備本則ニ違反シ又ハ保安上危險若ハ衛生上有害其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認めルトキハ工業主ニ對シ必要ナル措置ヲ命シ又ハ其ノ全部若ハ一部ノ使用ヲ制限スルコトアルヘシ

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一 本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二 許可ノ條件ニ違反シタルトキ

三 本則ノ規定ニ基キテ爲シタル處分ニ遵ハサルトキ

四 許可ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ工事ニ着手セサルトキ

五 工事竣工ノ見込ナキトキ

六 引續キ一年以上事業ヲ休止シタルトキ

七 其ノ他公益ヲ害シ又ハ著シク害スル虞アリト認めルトキ

第十二條 工場監督官又ハ警察官吏ハ工場ニ臨檢スルコトヲ得

第十三條 本則ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

第十四條 工場法第十八條ノ規定ニ依ル工場管理人ノ選任アリタルトキハ本則ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス

工業主未成年者若ハ禁治産者又ハ法人ナル場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 第二條、第六條第四項、第七條乃至第九條ノ規定ニ違反シ若ハ第十條ノ規定ニ基ク處分ニ遵ハス又ハ正當ノ事由ナクシテ第十二條ノ規定ニ依ル臨檢ヲ拒ミタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十六條 工業主又ハ第十四條ノ規定ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者ガ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

附 則

第十七條 本則ハ昭和九年三月十日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 本則施行ノ際既設ノ工場ニシテ本則ノ適用ヲ受クヘキモノハ本則施行ノ日ヨリ六月以内ニ第二條第一項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ爲シタルモノハ許可ヲ受ケタルモノト看做シ使用認可證ヲ交付ス

昭和九年十一月一日印刷
昭和九年十一月五日發行

非賣品

編輯兼
發行人
前橋市紅雲町七十五番地
小 森 俊 藏

發行所
前橋市本町三十九番地
前橋撚絲同業組合
印刷人
前橋市曲輪町八十一番地
原 田 直 吉

秩

父

秩父銘仙

見てよし、着てよし、爲によし

秩父織物工業組合

電話 秩父

一三六、
五四四〇、
三四三、
三四七

歴史に古く

新らしい柄

織

物



各種撚絲製造

加藤撚絲工場

加藤 龜吉

前橋市宗甫分



前橋市本町

蠶絲

仲次

九三万商店

電話四六八番

電略(九)又八(九三〇)

草間英男

★ 武甲山 ★

★ 駒銀・駒金 ★



花印 月印 重印

改良撚之證



前橋市 阿部善太郎製

改良撚絲



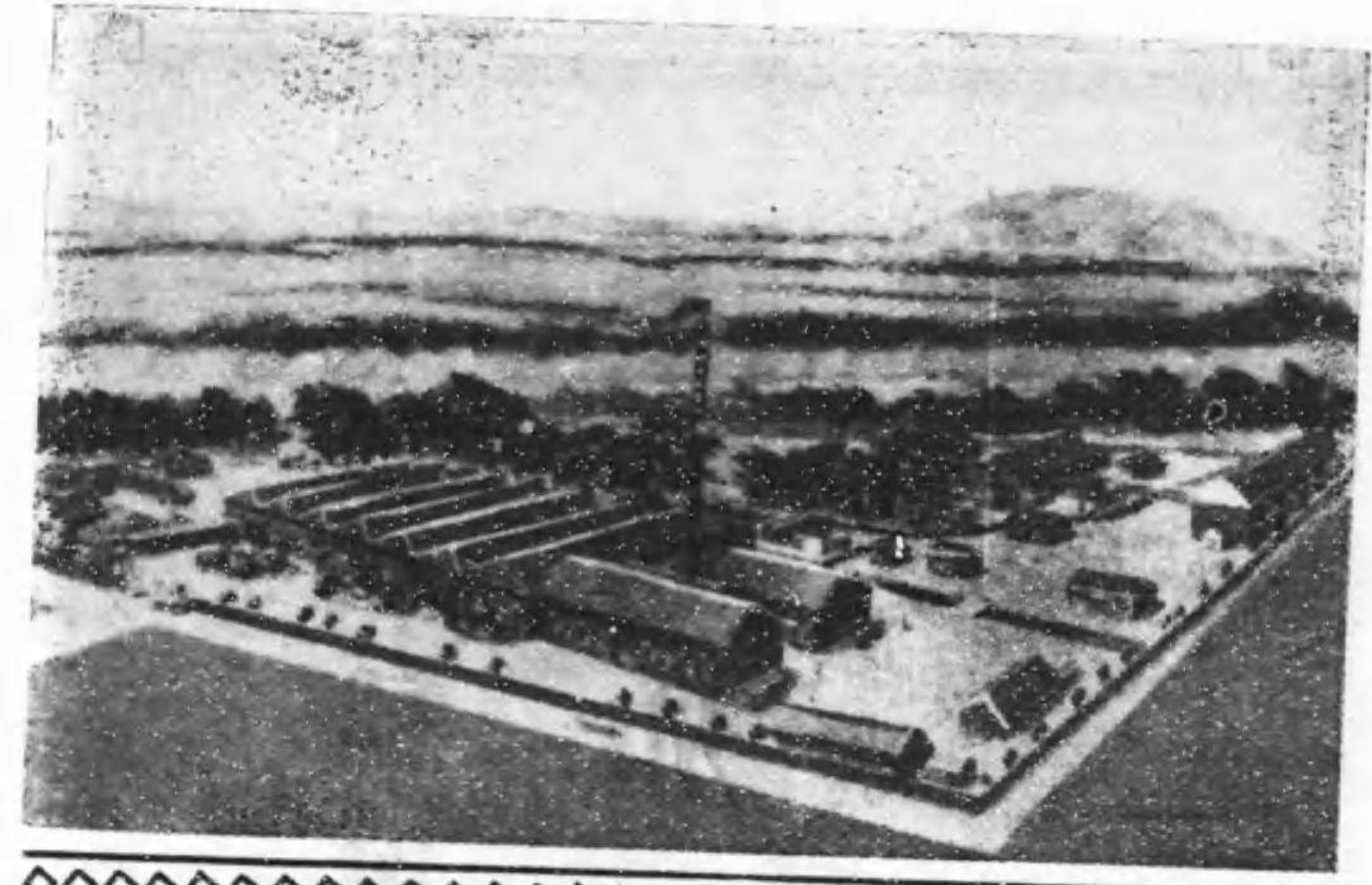
前橋市 阿部善太郎製

絹撚絲問屋

阿部商店

電話 七〇九番

同撚絲工場



營業種撚絲・織物

双竹内撚織株式會社

電話一五番二七番

工場 前橋市六供
撚絲部・織物部
電話一五五番



各種撚絲 **井** 各種撚絲

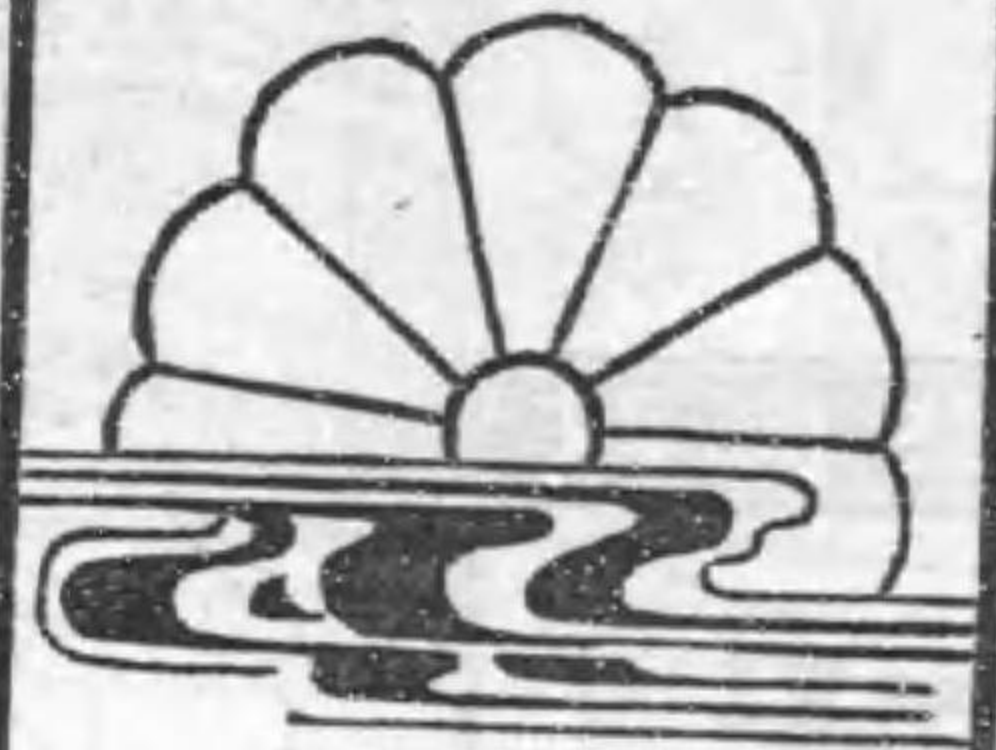
金井常治商店

前橋市才川町
電話 七九一
電略 (ツ) ハ又 (ネツ)

三井物産株式會社特約店
英國スラント重油機關販賣店
金井商店礦油部

桐生市新宿通一丁目
電話 三六四一
(重油槽新桐生驛構內)

商標 菊水



前橋市
櫻井豐吉

元造絲撚燃印水菊

前橋市小柳町

櫻井商店

電話 (長) 八二二番
電略 (井ト) 又ハ (井)

一、川島式管捲機械製作販賣

九年度燃糸用管捲機械ハ在來燃糸家ノ一般御使用ノモノヲ一部改良
セシモノニテ在來ノ管捲機械ノ最モ缺点デアツタ「ガンギザ」送リ
ヲ特殊ノ穴圓板ヲ應用シタル最新式ノ管捲機械デアリマス

二、力織機用管捲機械製作販賣

本機ハ一鍾ヅツ自動的ニ停止裝置ガ付イテ居ル最モ能率本位ノ完全
ナルモノデ白絹織機業家ニハナクテナラヌ機械デ一鍾ノ能率ガ織機
四台ヲ運轉スルコト請合デス

弊商會

長谷式燃糸機械製作販賣

特約販賣

山田式立鍾燃糸機械 伊太利形
亞米利加形

其ノ他一般燃糸用諸機械

川島製作所

前橋市岩神町五十番地

生玉人
絲絲絹

各種燃絲



龜井義一



前橋市才川町

電話三六〇番

各 種 撚 絲
製 造 販 賣

商 標
日 日 丸 印

△ 青 木 撚 絲 工 場

青 木 彌 一

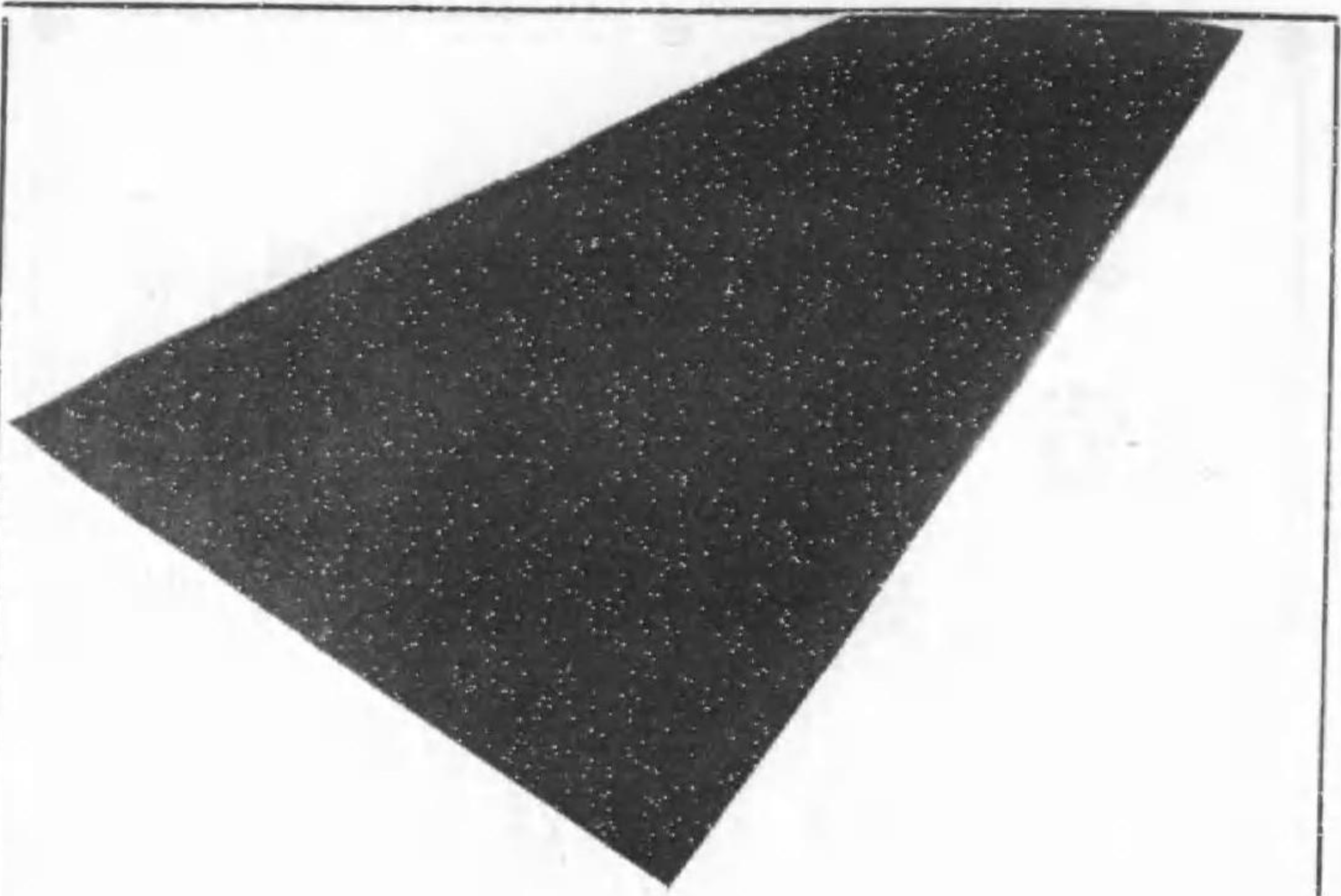
前橋市岩神町
電話一七六七番

生絲玉絲
各種撚絲 依託販賣

★
★
★
繭絲問屋 河野商店

前橋市辨天通

電話二二二番
電 略 (力)



撚絲ノ立體化ニ

精進



各種撚絲(特ニ變リ撚絲)製造

岩崎平太郎工場

町番
神五
岩七
市七
播七
前電

秩父、伊勢、崎、足利向
北陸各地織物原料



生絲、玉絲、撚絲
特殊機械撚絲

部絲撚店商良奈

電話五〇番

郎太金良奈

前橋市清王寺町

部絲製同

絲生級高殊特

一市內繭絲運搬
 一伊勢崎、境、高崎、
 本庄方面行
 一市外オート三輪運搬

前橋市才川町

稻垣虎次郎

電話一、二九二番

各種撚絲
 製造販賣

大平兼吉

前橋市岩神町四三四

電話三五七番
 電略(オ)又ハ(オヒラ)

生絲玉絲

前橋市一毛町

富岡本店

電話四五四番
 電略(トミ)



撚絲製造

富岡組第一製絲所
 富岡組撚絲部

富岡組第一製絲所

富岡組撚絲部

富岡組第二製絲所

秩父織物原料商

絹撚絲
絹絲紡績
絹織物

各種

埼玉縣秩父町

株式會社
新井商店

電話一五番
電略(アラ)

織物用原料
撚絲製造業

岡田撚絲工場

岡田喜重郎

前橋市大塚町

生絲撚絲製造

岡田撚絲工場

岡田烏治

前橋市百軒町